



いろいろといる

---

じゅう

---

なほ

---

## この本は

---

この本は、主に、ツイッターで書いているツイノベ、#twnovelをまとめたもの、NO10です。

一冊目 <http://p.booklog.jp/book/36687>

二冊目 <http://p.booklog.jp/book/47555>

三冊目 <http://p.booklog.jp/book/49689>

四冊目 <http://p.booklog.jp/book/51371>

五冊目 <http://p.booklog.jp/book/52955>

六冊目 <http://p.booklog.jp/book/54454>

七冊目 <http://p.booklog.jp/book/56264>

八冊目 <http://p.booklog.jp/book/59533>

九冊目 <http://p.booklog.jp/book/63324>

## 狼がくるぞ

---

狼がくるぞって言ったら、ああエイプリルフルだからねって。

普段はとても嫌な顔をされるのに微笑まれた。

本当はいつも嘘をつきたいわけじゃない。けれどもそれがお役目だから。

狼がくるぞ。みんなは笑う。狼がくるぞ。僕も笑う。

一年分叫ぼう。一年分笑おう。

毎日今日なら僕は幸せ。

#twnovel

なまえ

---

ニックネームで呼ばれることが初めは嬉しかった。

愛されているみたいで、特別に思われているみたいで。

必ずしもそうじゃないとわかった今でも、僕を呼んでくれていることに変わりはないと割り切っている。

けれど本当は少し淋しい。

思い出して。

僕の名前は4月1日。4月の始まりの日。

[#twnovel](#)

## パレード

---

泣いてたってはじまらない。

扉を開く。誰もいない。歌を歌う。

扉が開く。誰かがヴァイオリンを奏でる。

扉が開く。誰かが踊りだす。

扉が開く。誰かが写真をパシャリ。

扉が開く。扉は開く。

パレードは続く。明日世界が終わるまで。

世界の終わりを絶望したって仕方がないから今日は笑う。

[#twnovel](#)

## 幸せ

---

貴方の幸せ盗みました。そんな手紙が届いた。

僕って幸せだったのか。冗談だろうと放おっておけば、盗まれた物が判りましたかって。

何度も手紙が届く。

なんだか居心地が悪くて、僕は幸せについて考え始めた。

僕は幸せを探す。

盗まれた物が未だ何かは判らないけれど、お陰で僕は幸せだ。

[#twnovel](#)

## 保険のおねーさん

---

僕の心に保険のお姉さんがやってきた。

ぐらついちゃった時のじしん保険いかがですか？備えあれば憂いなしです！って。

素敵な笑顔に押し切られ、僕は印を捺す。

[#twnovel](#)

その日が来た。

仕事で失敗してぐらつく僕にお姉さんは、「明日があるわ」とほっぺにちゅうをくれた。

備えあれば嬉しいな。

## ルパソ

---

怪盗ルパソお断りの札を立てた。  
お構いなしにやってきては盗みを働くルパソ。  
けれど、ある日を境にルパソはパツタリ姿を消した。  
改心したと誰かに聞いたけれどそんなはずはない。  
札を掲げて数十年。ルパソはこない。  
今では誰もルパソを知らない。  
ルパソを知るのは、彼のお墓と私だけ。

[#twnovel](#)



## 王様

---

王様は決意しました。

ダイエットなるものが必要ぢゃ。

飲まず食わずでふらふらの王様を心配し、民衆は声をあげます。

無理をしてはなりません。

すると王様は怒りました。

メタボに甘んじ死ねというのか。

そうして民衆を処刑したのです。

王妃様はにっこり笑います。

王様は正しいですわ。

[#twnovel](#)

面倒だった。どうせ咲いてもまた散るの。

疲れたあたしは咲かないことに決めたんだ。

ほかの桜が全て咲いても咲かないあたしを心配そうにあの子は見てた。

そしてある日、折り紙で作った小さな桜をあたしの枝にくれたんだ。

こうよ、こう咲くの。

思わずほころんだあたしと、そしてあの子。

[#twnovel](#)

## いばら姫

---

貴方を助けだせたのは偶然。

噂を聞いたのも、今日が来るべき百年目だったのも。

特別な想いは何もない。

正直にそう話すと姫はふんわり笑った。

恋はいつでも偶然でしょう？

[#twnovel](#)

貴方は知らない。

嘗て死を賭してこの茨に挑んだ王子の物語を。

それを知っても、貴方はそうして笑うだろうか。

## 闇猫

---

闇猫は闇社会に暮らす。

今の主人、猫好きの泥棒は困っていた。

現場に残る闇猫の足跡。そこから追いつめられ、ネコ缶すらも買えぬ日々だ。

捨てなければ。

けれど愛する闇猫が誰かに飼われる姿など見たくない。

悩んだ挙句、彼は闇社会ごと猫を捨てた。

[#twnovel](#)

良かった。闇猫は次の主人を探す。

## てをのぼす

---

貴方は何だってしてくれた。

当たり前のように手を伸ばし、優しく全てを奪い去る。

お陰で私、何一つ上手にできない。

貴方のことが嫌いだった。

貴方さえいな ければって。ずっとずっと。

意を決し握りしめる決別のナイフ。

けれど上手にできずに左手は、傷つけた右手に優しく窘められる。

[#twnovel](#)

## がけっぶちさん

---

がけっぶちさんは崖っぶちに住んでいる。

あらあら今日もお客様。靴を揃えたお客に彼女は声をかけた。

素敵な靴ね。客は戸惑い、差し上げますよと答える。

それならお礼にお茶でもいかが？

### [#twnovel](#)

案内された彼女の住まいは靴で溢れていた。

貴方も新しい靴を買わなくちゃね。

歩き出すために。

## ゼンマイうさぎ【思い出すのこと】

---

温まるごとに動き出す何か。

カチ。温まるごとに思い出す何か。カチ。この胸の歯車のことを。そしてお前のことを。  
そうだ、ああそうだ。

[#twnovel](#)

わかることが増えた。そしてわからぬことも増えた。

どうしてお前はこの歯車を知らないなどと言ったのか。

どうして我を知らないなどと言ったのか。

## 初めての友達

---

初めてできたお友達をママは嫌った。

けれど僕らは友達だよ。友達の印にこれをあげる。

差し出したリボンを手取る君。

こうするんだよ。

僕が自分につけてみせるとすぐに真似する君が可愛い。

笑う僕ら。

見つめるママは悲しそう。

君を嫌うママだもの。そっくりな僕だってママはきっと。

[#twnovel](#)



## ロックオン

---

探査機が小惑星に置き去りにする装置の中に僕らの名前を刻んでもらう。  
上を向いて生きるための口実は、少しでも多い方がいい。

### [#twnovel](#)

ターゲットロックオン。

僕は知らなかった。

僕らの名前を並べるとかの星ではそのような意味になるのだなんて。

僕は知らなかった。

ロックオンチキュウ発射。

## 植物人間

---

植物人間の君に会いに行く。

何も言わない何も見ない。そんな君に話しかけたり見つめたり。

毎日毎日。

そんなある日、君は真っ赤な花をつけた。

病気が進んだのだ。けれど。

[#twnovel](#)

嬉しかった。

こうなる前は僕を無視した君なのに。

僕はおそらく感動したのだ。

君が初めて僕に報いてくれたから。

## 春のたより

---

桜の花びらには文字が記されている。

草も、虫も、猫も。

あらゆる生物たちは桜が散るのを心待ちにしていた。

散った花には彼らの未来が記されている。

今年一年の吉凶を占う運命の言葉。

空を仰ぐ。嵐を待つ。

桜の花が散るを惜しむは人ばかり。

待ちわびて我先にと奪い合う。春の便りを。

[#twnovel](#)

## 蝶

---

シェアハウスに入居したが同居人の一人と会えない。

夜の蝶だというから生活時間が合わないのだろう。

生活の端々にまだ見ぬ彼女の気配を感じる。

豪華な花束、甘そうなペットボトル、テーブルにこぼれる星のラメ。

綺麗な人を期待していたある日、彼女の部屋から一匹の美しいアゲハ蝶が。

[#twnovel](#)

## お祈りメール

---

最近のお祈りメールはけしからん。祈りの意味を間違えておる。

怒った神様は企業に連絡をとった。

「貴社を正したい」「それでしたら」神様は教えられた通りの手順を踏む。そして。

「わが社を変えたい。勢いがあるといいですね」

最終面接の後、神様の元には一通のお祈りメールが届いた。

[#twnovel](#)

## あいなき世界

---

あいが消えた。

そんなことでは不便だろうと、うえをあいの代わりに決めた。

やがて今度はうえが消える。

うえの代わりにおかをあいにおかのために。おかの代わりにきくをあいにおかのために。

あいは憑依し続ける。

そしてとうとう、を、ん。

50の音をなくした僕ら。

あいなき世界で、手を繋ぐのが精一杯。

#twnovel

## 目的

---

人生の目的を申請するようになって何年だろう。  
目的のない生が許されなくなって何年だろう。  
何だか疲れてもういいやって、何も書かずに提出した。  
なのに結果は延長。  
必要としてくれる人がいるからだと聞かされた。  
それから毎年空欄で出す。  
誰かが必要としてくれる限り僕は生かされる。

[#twnovel](#)

## バスの本

---

何年ぶりかにバスがくる。

時刻表もない。ある日どこかに停車してる。

バスの中にはびっしりと本。

一冊取り出し開いてみると、ボロボロの表紙、猫の足跡、誰かの落書き、そして溢れる感想。

嘗てこのバスに置き忘れたこれは私の本。

鞆にしまいそしてまた別の本を置き忘れる。

発車します。

[#twnovel](#)



## 色紙

---

仕事を辞める先輩に寄せ書きを贈りたい。

関係者全員にと回し始めた色紙は僕の知らない人達の手を渡りやがて帰ってきた。

ずいぶん時間がかかったけれどそれこそが先輩の人脈の広さ。

[#twnovel](#)

色紙は読める字や読めない字や字であるかどうかもわからない何かで埋めつくされていた。

びっしりと。

# 絶対

---

絶対なんかない、が覆される。

証明された絶対は世界中に溢れた。

絶対に絶対を重ねて作る揺るぎない絶対。

絶対の役者、絶対の脚本、絶対の監督。

絶対が作る絶対絶対の舞台。

[#twnovel](#)

絶対の展開からの絶対のラスト。

いつも通りのそれをけれど絶対の視聴者たる僕ら、立ち上がりブラボーと拍手。

## 連鎖

---

肉を炒める。

これがどのように屠殺されここにあるか、思いを馳せるはずもない。

色が変わるのを待つ。

さ、もうすぐおいしい料理のできあがり。

[#twnovel](#)

けれど最後の仕上げは出来なかった。

神の鍋底、ゆっくり煮こまれ続けていることにようやく気づいたとしても、食材に思いを馳せる

神はない。

目的を考えながら生きてきた。

無駄なくスマートな僕の人生。だから困る。

これは一体どうすればいい。

目的がないのなら何一つ踏み出せない僕は、けれども踏み出したくて、君のことが好きで、君に触れたくて、初めて嘘をついた。

目的なんか恋にはないのに、あたかも正しい振りをする。

[#twnovel](#)

## みつばよつば

---

昔々、よつばはみつばと同じくらいの数でした。  
人に摘まれて消えてくことを怖がり震えるみつばたち。  
そんなみつばを横目によつばは人間たちに言いました。  
よつばは幸せ運んでくるの、みつばなんかと違うのよ。  
どんどん摘まれるよつばたち。  
その優しさに神様は、嘘を本物に変えました。

[#twnovel](#)

## 愛される

---

愛されるって何だろうって君が言うから何だろうねって。

けれど君が見つからなくて少しわかった気がするよ。

君がいないと君の形にその空間が繰り抜かれてさ。

まるでいないがいるみたい。

つまり何が言いたいのかって、いない形で存在できる [#twnvday](#) は愛されている。

[#twnovel](#)

## 文フリ

---

文学少女を愛した僕は文学小説になりたかった。

けれど僕ってこんなにライトで異世界で。

お偉方にはお前は違うと笑われる。

君も些か戸惑っているね。触れてみたい。

興味はあるのに、最後の一線が越えられない。

だから僕はフリをする。

カバーを脱ぎ捨てて、今、文学のフリを。

[#twnovel](#) 文フリ

## #twnvday 『今回のお題はありません』

---

今日の [#twnvday](#)、お題がないんだって。  
君はそう言って笑うのだけどどうということだ。  
だいなしはだいなしよ。  
だからどうということだ。  
お題がないなどそれじゃいつもと同じじゃないか。折角のこの日がだいなしだ。  
僕の嘆きに君は笑う。  
あら、お題に沿った [#twnovel](#) が一つ出来たわね。

ミサイルのボタン押したのは僕じゃありません。  
麻縄で緊縛され僕は叫ぶ。  
die、と向けられる銃口。防弾ベストなど着ていない僕に再生の道はない。  
いや、どうせ船は沈むのだ。  
生き残ったところで海の迷子。  
タイタニック沈没の原因は実はミサイル。  
歴史に埋もれた題名のない物語。

[#twnvday](#)



## 図書室にて

---

彼はいつも書棚整理前にやってきては本を乱す。

乱暴に扱うわけじゃない。

本の場所を入れかえて、図書委員の私の手間を増やすのだ。

お願いやめてよ。

何度言っても聞いてくれない。

私あなたに何かした？

無視されて涙が出た。

よく見ろよ。

彼の指先が導く、背表紙で綴られたラブレター。

[#twnovel](#)

## 仮面

---

愛娘を失い悲しんだ王様は国中の女達に娘の仮面をつけさせました。

やがて男や全ての生物にまで娘の仮面をつけさせました。

怒った民衆は立ち上がります。

王様を殺せ、殺せ！

[#twnovel](#)

押し寄せる愛娘の顔、顔、顔。

たった一人仮面をつけない王様はすぐに見つかり殺されました。

幸せそうな顔で。

こい

---

こいでしょってママが言う。  
そんなの見てたらわかるわよって。  
ねえママ私どうしよう。  
ダメよさっさと捨てなさい。  
そんないきなりそんなのひどい。  
そして今度はママの真似から始めるの。  
ママの真似？  
おふくろの味って言うでしょう。  
ああ料理の話か。  
他に何の話があるの。火、とめて。

[#twnovel](#)

## ミツバチ

---

あなたはきっとミツバチでしょう。

花から花へ。

街で一番甘いもの、それがなんだか知っている。

街での暮らしに合わせてそんな素敵な姿に進化した。

折り目正しいシャツを羽織って急いで帰る後ろ姿。

仕方ない。仕方がないわ。

だってあなたはミツバチでしょう。

女王蜂のものだから。

[#twnovel](#)

## 除霊

---

気配を感じて目をこらせば幽霊。

「うらめしや」首筋に手を伸ばす。

「やめよう？」振り払うと「うるさい死ね」「ねえ失恋が原因なの？」

「ノーコメント」「友達だろう？」「う、うん」「」「えっと、あっ！」

幽霊は消えた。

孤独が癒されたからか、しりとりで負けたからかは知らない。

[#twnovel](#)

## 奥歯に物が挟まる

---

「えーと奥歯が痛いような痛くないようなえーと」

煮え切らない患者に口を大きく開けてもらう。

奥歯には、おや、何か挟まっている。

黒くて大きい。

少し力をいれて、よしとれた。

[#twnovel](#)

「スッキリしました」

晴れやかに笑う患者。

奥歯に挟まっていた「離婚」の二文字を僕はこっそりと捨てた。

## 妻のために

---

身だしなみに気を使わなくなったし気も利かない。  
真面目なだけ取り柄ね。妻に責められ真剣に反省する。  
全力で改善したい。効果的な方法を僕は考える。

### [#twnovel](#)

「最近良くなったって褒められたよ」  
「そう、良かった」  
女のことは女に聞くのが一番。  
妻のために愛人を作った。妻のために。

もしもし

---

もしもし。君からの電話は珍しい。

だから聞く。

何かあった？何かって何よ。

嫌なこととか失敗とかさ。

ないわよ。あ、でもちょっとね。

[#twnovel](#)

君が僕に電話をするのは悲しい時か辛い時。

けれども僕は嬉しくて。

君の不幸を喜んでいる。

君はすごい。

不幸ですらも、誰かを幸せにできるのだから。



## 二次

---

繰り返される。

飽きもせず巡る私の物語に手を差し伸べる貴方。

そのペンに導かれた私はただのお姫様じゃない。

恋の相手も王子様とは限らない。

手に入れた自由。広い世界。憧れた日々に満たされ、けれど時々思い出す。

約束に導かれたった一つを繰り返し続けたあの日々の透明な美しさを。

[#twnovel](#)

## 蜘蛛の糸

---

赤い糸結ばせてあげる。助けた蜘蛛が囁いた。

透明な糸を渡され首を傾げると、赤くなるのはこれからよって。

あの子の小指に糸をしっかり巻きつけた。

固く強く解けることなどないように。

[#twnovel](#)

翌日、赤く染まった糸を辿り僕は震えた。

運命の糸とは言ってないわ。

あの子を頭から食べる蜘蛛。

僕の小指の赤い糸。

これをあの子に結んでしまえ。

解けぬように結んだならば痛がり糸を嫌がるあの子。

こんな愛などいいわけないね。あの子の指から糸を解いて今度は蝶々に結び直す。

飛んでいってしまわぬようにいつでも僕が蜜をあげる。

すぐに解けるはずの形でけれどもずっと側にいて。

[#twnovel](#)

## ひきこもり

---

僕の心に引きこもりがいる。

心の扉が開かずに困っていたら、中から小さく歌が聞こえた。

一緒に歌うと歌声は止まる。

繰り返す、繰り返す。

やがて僕は共に歌うことを許された。

繰り返す、繰り返す。

僕の歌にも合わせてくれる。

今度は誰かに伴奏なんて頼もうか。

君はもう繋がっている。

[#twnovel](#)

## 覚えて

---

君に覚えてもらえない。

もう長いこと温かい眼差しで見つめ続けているのに。

悲しい。

諦めてしまおう、そう思う日だってある。

けれど、それでも君に僕を覚えて欲しいから。

名前を呼んで欲しいから。僕は君に。

[#twnovel](#)

誰かに呼ばれたような。春眠は夢見るように瞳を開けて、再び眠りについた。

## 宇宙海賊団【拐われた僕】

---

宇宙海賊団に拐われ僕は彼らのアジトで飼われている。  
地球愛好家のご主人様は見よう見まね。花火に火をつけ一服中。  
居心地悪いアジトで唯一落ち着けるのは庭だった。  
花だと彼が言い張るものは僕には女の子に見えた。  
言葉を喋らぬ可愛い花は、口づけすると真っ赤に色を変えるのだ。

[#twnovel](#)

## ほしがほしい

---

星を見に行くんだ。

そう言う僕に君は小瓶を差し出した。

「星」と書かれた瓶の中には星のつもりの小さなビーズ。

本当の星を入れてきてってつまりそういうことらしい。

見あげれば流星。けれど全然届かない。

君に星をあげたいのに。

[#twnovel](#)

わあ！

驚いた君。瓶の中にはビーズで作った星一つ。

まだ持ってたんだ。

君の部屋。

「星」と書かれた小さな瓶にもビーズで作ったいびつな星にも見覚えがあった。

当たり前でしょ。その言葉が嬉しい。

ちょっとお茶でも淹れてくるね。顔を伏せて君は席を外した。

[#twnovel](#)

わあ！ 驚いた君。瓶の中にはダイヤモンドの婚約指輪。僕と結婚してくれる？

## バーキン博士

---

バーキン博士は地層学者。地層から未来を読むのが彼の仕事。

この甘い層。短期間で急激に積もったと思われる層の上、現在の層は植物が多い。

この現象はまさか。

みんな、逃げろ！

[#twnovel](#)

けれど声は届かず、哀れ仲間達は。

失恋の暴食から再び恋へ。

世界の変化にムシ・バーキン博士は絶望する。



## 水に流す

---

この恋は水に流せます。

街角で渡されたそれは恋だった。だから気軽に恋して下さい。

貴方の申し出は、貴方は、とても素敵に見えたんだ。

[#twnovel](#)

喧嘩したある日。

私はいとも簡単に貴方を捨て、この恋を水に流した。

けれど。

何もなかったように笑う貴方を、捨てたはずの貴方を、追いかける私。

ワレワレハ宇宙人ダ。

そう繰り返す爺ちゃんに、キャーと悲鳴で相槌を打つと嬉しそうに笑う。

現役時代、爺ちゃんは観光施設でこの台詞を繰り返していたらしい。

本物の宇宙人はそんなこと言わない。

それが知れ渡り廃れた職業、観光用宇宙人。

僕は時々こうして爺ちゃんの思い出を慰める。

[#twnovel](#)

## きになる

---

きになる人がいるの。

震えた声で君が言う。こんな僕だし仕方がないね。心が揺れてしまうのも。

ううん違うの心じゃない。揺れているのは。

[#twnovel](#)

森の奥、きになる人が林檎のように揺れていた。

泣きだす君は私のせいよと繰り返す。

きになる人ではなくしてあげる。腐った果実を地に返す。

## 地球滅亡計画

---

「この人達、知りませんか？」

通りすがりの宇宙人に似顔絵を見せられた。

「太陽系では見かけない顔ですね」

「そうですかありがとうございます」

宇宙人は丁寧に一礼すると空へと消えた。

[#twnovel](#)

地球滅亡計画。

そう記された紙に描かれた地球人の似顔絵は、僕らとは似ても似つかなかった。

## 指輪物語

---

母が死んだ。

祖母の死後、人が変わったように私に無関心だった母の形見の指輪は皮肉にもピッタリだった。  
代々伝わる指輪、に吸い込まれる。

[#twnovel](#)

そこには母がいた。祖母がいた。私は私を指輪の中から見上げてる。

当家の未来はみんなで決める。

とりあえずあの男はダメよと全員に叱られた。

## 本気だす

---

「あのね、わるいひとがおおいの。あなたちゃんとおしごとしてる？」  
幼気な瞳に疑われて決めた。たった今から本気だす。

### [#twnovel](#)

水たまりに映る青空を跳ね上げ、遠足を楽しむ子供たち。  
晴れてじゃ聞いて貰えないから別の角度でアプローチ。  
本気をだしたお天道さまは、悪人探して照り続く。

## ツメが甘い

---

貴方ツメが甘いのよ。

そう言って妻は僕の小指を舐めた。

浮気がバレて責められているのにエロいと思えなくて。

執拗なまでの妻の行為。

とけるといい。他の誰かと繋がる糸など解けるといい。

[#twnovel](#)

違うよきつこの糸が繋がる先は君のはず。

けれど妻をなだめながらも明日の逢瀬を思う僕。

## ロボット世界

---

教育現場も変わった。

最近は、1クラス30体。

子型ロボットたちに授業する。

計算を教える、言葉を教える、健康を教える、道徳を教える。

すれ違う日もあった。一緒に笑った日もあった。

別れを惜しんで泣いていたなら、教え子たちは私に言った。

はい合格。立派な先生の出来上がり。

[#twnovel](#)



## あなたの製

---

貴方に言われたあれやこれや。

ずっと気にしていたなら私、言葉通りの女になった。

私とっても変わったみたい。

それってつまりあれやこれやは嘘だったってことじゃない？

こんな風ではなかったからこそ嫌な女になったんだ。

貴方が私を作ったつまり、私の全ては貴方の製。

貴方のせいよ。

[#twnovel](#)

あい

---

どうやら地球は少女神の掌の上。

風は溜息、雨は涙、陽だまりは微笑み。

コントロールしたくて捧げた男と彼女はほどなく恋に落ちた。

穏やかな日々。回る地球。

愛する男が死んだある日けれど彼女は泣かなかった。

彼との思い出を壊したくないの。

少女神は女神へ。見守る地球、あいは深い。

[#twnovel](#)

## 花

---

花屋の前で呼び止められた。

差し上げます。

手渡されたブーケはお世辞にも綺麗と言えなくて。

余り物ならいらなのにな。

がっかりしてたらふわり、花の香り。落ち着く。

[#twnovel](#)

貴方の香りを真似ました。

そんなこと出来るの？貴方をずっと見てましたから。

見えないはずの目で私を見つめる彼。

## アイリス

---

乱雑に並べられた本。

文芸も漫画も実用書も分類されず、お世辞にも綺麗とは言えないその本屋の奥で、  
けれど女主人は気にする様子もない。

目当ての本を探して僕は背表紙を指で辿る。

[#twnovel](#)

そして理解する。

ああ匂いか。

ええ物語の匂いで揃えております。

差し出された本からアイリスの香り。

## 超文フリ

---

超文を知っておるか。

全ての頂点に立つ頂文であり、誰しものが重んじる重文でもある。

それは最高の文章に与えられる称号なのじゃ。

その称号を語りたがる文章は多い。

そう、この地でも沢山の文章がそのフリをしておる。

さあ探せ。

何よりも素晴らしい、真実の超文をこの幕張で！

[#twnovel](#)

超文フリ

## 大事な皿

---

結婚のきっかけは父が母の大事な皿を割ったこと。

それから父は陶芸家の道を志したという。

ダメ、これもダメ。

母はそう言って差し出された皿を次々割った。

これじゃ代わりにならないわ。

[#twnovel](#)

あんまりだ。

僕が怒ると父は笑う。

愛しているからずっと側にいたいのだ。

僕には意味が解らない。

父は傑作を作った。

その皿は多分6桁の値がつくであろうほどの代物。

少し迷ってそれから母にその皿を差し出した。

母の顔が曇る。

そして、「完璧ね」苦しげに絞り出したその声を聞くやいなや、父は皿を奪い、割った。

[#twnovel](#)

「ゴメン俺が気に入らない」

母は泣いた。

僕には意味が解らない。

父は皿を作らない。

男のケジメと置いていたけれど、こんな結果はもういらぬ。

僕には意味が解らない。

父も母も今までと変わらぬ見えるけれど。

[#twnovel](#)

一つだけ変わったことがある。

僕だ。

僕の頭に最近小さな皿ができた。

母さんの血だな。

ああそうか。ようやく、僕にも意味が解った。

わたし

---

最後の一人も離れて行って、とうとう私は一人きり。  
これだけみんなに嫌われたんだ。きっと私が悪いのだ。  
ううん絶対、悪いのは私ただ一人。

[#twnovel](#)

誰のせいにも出来ない私はようやくこれで安心できる。  
私の他に、悪い人などここにはいない。  
だから怖くない。  
わたしはここで生きていける。

狼がいるから眠れないの。

震える貴方。

貴方のために僕は迷わず狼を殺す。

力じゃ全然叶わないから知恵を駆使してとうとう最後の狼を。

平和な村から狼は消えた。

[#twnovel](#)

貴方は僕に有難うって一礼してから牙を剥く。

狼はこれで私だけ。

ああ、困ったな。

これじゃあ、もう君を、守れない、ね。



## 四月密室

---

四月病にかかった僕は4月から抜け出せない。  
治す努力もしないでいたならやがて男がやってきた。  
4月に甘える貴方なんかは死体の役で十分でしょう。  
鈍器のような物が振り上げられる。  
4月密室で、僕は。

[#twnovel](#)

おや、貴方。  
貴方の今日は本当に5月1日ですか？  
4月31日じゃありませんか？

珍しく

---

そりゃ、珍しいことをしたんだから雨だって降るだろうさ。  
でもそんなことされていたら、いつまでたっても普通にならない。  
だから、見逃してくれないかな。  
珍しいって笑っていいから、どうかひとつ雨だけは。

[#twnovel](#)

なかなか布団を干さない私が布団を干すたび雨が降る。  
今日もまた干せない。

## 五月病

---

君が五月病になったならそれが合図だ。

僕は君に楽しいことを次から次へとぎかざか降らす。

面倒臭がっても、容赦しない。

矢継ぎ早の僕の誘いを病気の君は拒めない。

[#廻る五月](#)

なのにどうして笑っているの？

はやく病んでよ。つけこませてよ。

その日が来るまで君を隣で見てるから。

[#twnovel](#)

## 鯉のぼる

---

鯉のぼりは悩んだ。

男の子の成長を祈ってここで泳いでいる。

けれど本当に僕でいいの？

相応しい象徴は他にもたくさんあるんじゃない？

恨みっこ、なしだよ？

[#twnovel](#)

男の子は出世した。

鯉のぼりのように逆境を泳ぎきった。

けれど彼には鯉のぼりのように中身がない。

これから先が心配だ。

## 猫缶

---

最近帰り遅いね。

浮気容疑で持ち物検査が始まる。レシートに見入る妻。

ねえこれは何？

[#twnovel](#)

そこには猫缶200円。

野良に餌をあげてたんだと答えると、妻は疑って御免なさいと頭を下げた。

そして我が家の猫缶を分けてくれる。

僕は今夜も遅くなる。

猫缶を開ける。夜勤の彼女の代わりに。

## 五月病

---

「新入社員のための五月病対策を検討しようと思う」

「さすが社長」

「GWあけに理由不明確な体や心の不調に陥る病のようではないか」

「そのようで社長」

「小手先だけの改革じゃいかん。わが社はGWを廃止する」

「元々ありませんよ社長。なので五月病もでません」

「優良企業だな」

[#twnovel](#)

## 気になる

---

ねえ、気にならない？ その一言だった。  
今まで一度も意識したことなどなかったのに。  
チクチクする。瞬きも増えた。視界も狭くなったみたい。  
そうねどうにかしなくっちゃ。

### [#twnovel](#)

じゃ、告白？  
ちょっと待って。前髪の話。  
前髪の向こう、見え隠れする彼の話じゃないんだから。

## 五月病なう

---

五月病でなんだかやる気が出なくて。

患者は言った。

彼は古いタイプの間人らしい。

それが五月病だったのはもうずっと過去の話。

処方だけだし見送る。

今どきの五月病はそんな呑気なものじゃない。

[#twnovel](#)

「働かせろ、働かせてくれ！」

隔離病棟には大型連休に適応できず、五月病に苦しむ人々。



## 明日の天気

---

天気予報をみた息子は目を丸くした。  
これって本当？ 本当だよ。明日が楽しみだね。

### [#twnovel](#)

翌日は予報通りの雪。  
なのに息子は不機嫌そう。  
ねえ雪だるまはいつ降るの？って、なるほど。  
最近手作りブームで素材が降ってくるんだよ。  
昨日見た雪の予報マークそっくりな雪だるまを二人で作る。

## 花絵

---

絵が欲しかった。だからこっそり忍び込んだ。  
他のお皿と同じでいいの。どうか私に絵をつけて。

### [#twnovel](#)

絵付師が気づかぬはずがない。  
いつも川からこちらを見ている子じゃないか。  
けれども彼は知らぬ素振りで絵をつける。  
するとこっそり逃げ出す河童はするりと川の中へ。  
大輪の花が川を上る。

## 鯉のぼり

---

鯉のぼりは困っていた。

担当する子供が成長しないどころか外にもでない。

俺ら子供を一人前に成長させてようやく竜になれるのに。

鯉のぼりは考える。

変わらなければ。

[#twnovel](#)

部屋が急に暗くなる。

窓に視線を移すと、あれは何だ。

そこには萌えキャラ化した鯉のぼりが。

お兄ちゃん、じゃねえ。

## 子供の日

---

祖父の遺品を整理していたら奇妙な物が出てきた。

何だろう。祖母に聞いたら、懐かしいって。

昔は子供の日までに飾ったものよと目を細める。

魚が描かれた大きな布を祖母は大切そうにしまう。

[#twnovel](#)

死ぬまで大人にならないことを皆が誓ったあの日。

子供の日、子供という概念と共に消えた。

## 強くてニュー

---

記憶を次の人生に持ち越せるようになった。

夢にまでみた強くてニューゲームに僕は無邪気にはしゃぎ無邪気に死んだ。

新しい人生にリセットだ。

[#twnovel](#)

「残念ながらランクCです」

出生前診断で子供の記憶を検査することは当たり前となった。

生まれる前から生存競争。ゲームはまだ始まらない。

## 推理小説禁止令

---

犯罪のヒントになると推理小説が廃止されてからというもの、奇妙な事件が次々起きた。まるで小説のような。どうしても謎が解けずに警察は推理小説家に協力を依頼する。

### [#twnovel](#)

「事件解決までを小説とし出版させていただければ考えましょう」  
出版は許可され犯人は捕まった。著者本人だった。

## お醤油クエスト

---

勇気切れてる、借りてきて？ お醤油みたいに君が言う。

部屋を出たなら果てなき荒野。星を頼りに歩いてゆけばドラゴンが道を塞いだ。

仲間を集めて倒した僕に差し出されたのはお姫様。

ああそうだった。

大急ぎで君んち戻ってチャイムを押した。

「ねえ結婚して？」 「あらお使いご苦労様」

[#twnovel](#)

## 世界のゼンマイ

---

これは世界のゼンマイです。

これを巻くのがお仕事だから毎日欠かさず巻いてます。

ジーコジーコ。

君が消えたこんな夜まで僕は巻かなきゃいけないの？

[#twnovel](#)

ゼンマイがはじまりに還る様を見ていた。

やがて徐々に動きを緩めたそのゼンマイが動きを止めたかどうか、止まった僕にはわからない。



## スパイ大作戦

---

僕の心にスパイが潜む。  
誰のスパイか知らないけれど恋愛事情を探ってる。  
探れるもんなら探ってみろよ、秘密を隠して鍵をした。  
追いかける君。奥へ奥へ。  
誰より僕に詳しくなって、いつしか秘密にたどり着く。  
最後の鍵は誰かの名前。  
僕が好きな、努力家の、そう君が誰より知る名前。

[#twnovel](#)

## #twonovel恋愛

---

ちゃんづけよりも呼び捨て。手を繋ぐよりも口づけ。  
それはお互い納得できたし良かったなって思ってる。  
きっと貴方は嫌がるけれどあと一つだけ聞いて欲しい。  
好きではなくて愛してる。  
二文字節約したなら消えちゃう乙女心を許してね。

[#twonovel](#) 的にどうかもいいけど本当の気持ちを知りたいの。

おかしい。

どうやらもう2日、親が帰っていない。

気づいているのは俺だけか。

どうにかしなくては。俺よ、飛べ！

[#twnovel](#)

「あ、てるてる坊主落ちてる。もう、お前のせいで今日も雨よ。あら、ツバメの巣？」

親のない子と気づいて貰えるといいが。

泥まみれの俺はゴミ箱の中から願う。達者でな。

## 晴れ女

---

私、晴れ女だからいつでも空を青く染める。  
雨の予報、けれどいつでも私の頭上は晴天で。  
それに私、晴れにするのは空だけじゃない。  
あなたの心が晴れ晴れしたのもきっと私の仕業なのに。  
もういいよって。ありがとうって。  
あなたと彼女を見送る私。  
降られればいい。ふられればいいわ。

[#twnovel](#)

## 親選び

---

親を選べるようになった。さあ、どこに生まれよう。  
天上から地上を眺める子供たち。しあわせはどこにある。

### [#twnovel](#)

「なんだか視線を感じる」

「君が魅力的すぎるのさ。特にこの辺りが」

「いやんえっち」

「俺も夢中だけどな」

赤ちゃんは選ぶ。やっぱりCカップ以上ないとしあわせにはなれない。

## 燕

---

藁も泥もない。

都会の燕はゴミを使って巣を作る。

誰かが捨てた夢や希望や思い出や。それらを素材に巣を作る。

巣は語る。知らない誰かの物語。

やがて旅立つ燕はいつか、その物語を思い出す。

気になって、その続きが気になって。

必ず生まれた巣に帰る。続きを語る、新しい巣を作るため。

[#twnovel](#)

## #twnovelloff 「桜」

---

「俺も」「実は私も」「吾輩もぢゃ」次々と消えていく人々。スタッフもいない。  
残された僕は、一体、一体どうしてここにいるんだっけ。  
風が吹く。思い出せ。揺れる。思い出せ。

[@chocolatesity #twremix](#)

「僕こそ、サクラだ」さわさわ。  
動けない僕は、桜。風に花卉をのせる。

この桜吹雪、目に入らない？

遠山の金子さん、さすがにもろ肌脱いじゃうわけにはいかないわけで桜吹雪の袖を奴らに見せつけた。

忘れたなんて言わせない。

[#twnovel #TwnovelOFF](#)

ヒソヒソ、この時期に桜吹雪の柄はヒソヒソ。  
季節遅れは粹じゃない。金子さんの頬は桜色を越える。

ひとひら、ふたひら、やがて満開。咲いた、咲いた、物語。  
愉快的、不思議な、切ない、阿呆な、綺麗な花がやがて散る。  
けれど、そんなの構わない。

季節が来たならまた満開に咲くのでしょ。  
もしも散らなきゃ次の季節はこないからのだから。  
だから、さあ嵐。

[#twnovel #TwnovelOFF](#)

## 傷

---

彼と傷を舐め合う彼女が羨ましかった。

昔は私があなただった。

もう長いこと眺めてる。少し遠くから知らない素振りで。

口づけする二人にザクザクする胸。

とうとう傷口が開く。

[#twnovel](#)

目の前に彼。

私の傷を舐める彼を呆然と見つめる彼女。

ひどい傷ほど甘いんだ。

傷が治らぬよう、祈る。



## 野生の自動車

---

野生の自動車は溜息をつく。

渋滞に従順に従い列をなす、飼いならされた車たちとはまるで話が合わない。

折角のこの足、周りを気にせず思う存分走りたいのに。

今日も不完全燃焼。

彼は夢見る。

昔一度だけ走った高速道路のことを。

ただまっすぐに前だけを見て走った。時速100kmの夢。

[#twnovel](#)

3、2、1、GO！

バーが上がった瞬間始まる自由。

本線合流、時速80、100、120km。野生の自動車、風になる。

[#twnovel](#)

その車左によって止まりなさい。

赤いサイレンに迫られ逃げる彼。追う彼女。

彼はそのうち嬉しくなった。

共に走ってくれた。

恋に落ちるのに何の不思議があるだろう。

彼女に会いたい。

野生の自動車は高速を走る。愛する彼女は覆面パトカー。

会うために、追われるために、今日も暴走する。

[#twnovel](#)

見つけた。カッコイイところを見せたくてアクセルは全開。

次に捕まればしばらくはもう走れない。けれど。

共に走りたい。その気持ちだけが彼を走らせる。

野生の自動車はスクラップ置き場で星空を眺める。

高速道路で暴走して大破。けれども彼は幸せだった。

彼女に会えた。例えこのまま朽ち果てようとも何の未練があるものか。

恋は一方通行だった。けれど。彼女の幸せを祈る。

[#twnovel](#)

彼の足元、粉々になった赤いサイレンの欠片に彼は気づかない。

## かみがのびた

---

いつも一緒だった。

同じ髪型に揃えてそっくりにして怒られたこともあったっけ。

ずっと一緒と思っていた。

けれどここから出られぬ貴方を残して私は上京する。

[#twnovel](#)

休みのたび、田舎に帰り貴方の髪を切る。

「髪が伸びる呪い人形」の貴方にもっと素敵な髪型を届けたくて私、美容師になったの。

## #twnvday 『ボーダー(境界)』

---

お隣に生まれたのも運命と、ずっと君を見てきた。

あのね、好きな人が出来たの。

あのね、告白されちゃった。

あのね、この前初めてのキスを。

あのね、彼と泊まりがけで旅行を。

あのね、あのね。

### #twnvday

あのね、今度結婚するんだ。

ずっと君を見ていたい。

僕は一線を越える。

国境をなくそうだなんて簡単に言わないで。

相容れないから境があるの。

平和のためって理由であっても戦争なんかは大嫌い。

だから笑顔でその欲望を噛み殺して。

夢など見ないで、見せないで。

### #twnvday

私は私のこの王国の、たった一人のお姫さま。

境界に甘えてずっと、ずっと貴方に恋をする。

知っている。

そのきらきらひかる糸にかかれば私はきっと戻れない。

けれど貴方の8つのその手がこちらにおいでと誘うの。

私は心を奪われる。

美しい巢に貴方の言葉に。

蜜より甘いその誘い。

僕と一つになりましょう。

ふわり私はふわふわ自ら、生と死の境界線を、今。

### #twnvday #twnovel

舞台を降りると花束と拍手に迎えられた。

後は任せてください、俺とよく似た後釜が笑う。

まるであの日の再現だ。

あの日見送ったのは俺の方だったのに。

[#twnovel](#)

着ぐるみに中の人などいない。俺らこういう種族だ。

前任者は心をなくしUFOキャチャーに入ったというが。

さて、どう生きよう。

## 政治TL

---

政治家の本音を知ることが重要だ。

発せられた言葉だけを信用するなんてできない。

おかしい妄想に取り憑かれていないのか、そこに嘘はないのかを把握する必要がある。

そんな国民の声から政治家の心がツイッターと連動した。

彼らの本音がTLを埋め尽くす。

[#twnovel](#)

「選挙」 「選挙」 「選挙」

## 私が殺した

---

あなたを空想で殺しました。

本当のあなたは生きているかもしれないけれど、些細なことなど気にしません。

リアルに想像したのです。

命を摘み取るその瞬間。

貴方は私に殺されました。

遺体がないなど些細なことだと思いませんか。

何故ならこれは完全犯罪。それなら見つからないでしょう。

[#twnovel](#)

## 指切り

---

隣の子と手を繋ぎなさい。先生の言葉には従えない。  
無邪気に手を出す君に私はどうにか小指を差し出した。  
胸が鳴る。  
初恋の君はきっと恋などまだ知らない。

### [#twnovel](#)

差し出された小指に僕はしめたと思っていた。  
僕は勝手に指切りをする。君とずっと一緒にいるよ。  
大人になっても。死んでも。

さんまん

---

注意力さんまんな僕だから、ミスばかりしてしまった。  
注意力よんまんになったとしたなら、もっとフツウになれるのかしら。  
注意力ごまんにさらに上がれば、間違いなんかないのだろう。  
そしていつか。  
注意力ひやくまんにもしもなれたら、あの子に褒めてもらいたい。

[#twnovel](#)

いなくなったあの子のことは、注意力では取り戻せない。  
僕はあの子のツイートを見張る。  
最近男とよく話してる。男のことを調べあげる。へえ、その程度か。

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

戦闘力即ちフォロワー数が僕の半分以下の男なんかやめなよ。  
メッセージを送るとブロックされた。



## バナナの気持ち

---

バナナはおやつに入りたい。  
おかずと肩を並べることは重荷だけれど、おやつであるなら気が楽だ。  
おやつは個包、誰かと話すこともない。  
おやつ時間の雰囲気もいい。  
あの穏やかな空気の中なら皮で誰かを転ばすことさえ可能かも。  
だからバナナはおやつに入れて。バナナからのお願いです。

[#twnovel](#)

バナナはおやつに入りたい。  
だから決めた。ドキドキしながら真っ白な履歴書に名前を書いた。  
目指す会社は、グレープストーン。  
バナナなのにグレープなんて。  
初めて知った、知らなかった。  
志望動機、バナナはおやつに入りたい。  
だから、東京ばな奈。

[#twremix](#)

泣きまねしてたら彼は必ず飛んでくる。

躊躇うことなく顔をちぎって笑顔を私に差し出すの。

けれど私が欲しい物って実のところはそれじゃない。

飢えているのは胃などじゃないわ。

目を食べ視界を奪ったならばキスをしながら押し倒す。

力が出ない、なんて言うけどどこまで本当なのかしら？

[#twnovel](#)

## 勇者まち

---

お姫様は待てなかった。

侍女を連れ去り、富を奪い、野を越え山越え遠く城に隠れ住む。

「姫は預かった 魔王」

なんて手紙を出して。これで完璧。私を褒美に勇者が募られ、見事私は結婚できる。

[#twnovel](#)

勇者はこない。どうしてかしら。

色々あって執事になった悪魔からは今日も血の臭い。

## ここは魔王の城

---

魔王の城に駆け込みお姫様は泣きだした。

「聞いて」「何よ」「破談になった」またか。

きっとまた見合いの席で余計なことでも言ったのだろう。

「いい考えがあるわ」「何?」「私が拐ったことにして助けた者の褒美になれば?」

いいアイデアって笑うけど、私、全力で貴方を守り切るわ。

[#twnovel](#)

あかぼく

---

赤信号で止まると赤ちゃんと母親の群れが横切る。

世界は分離した。

子供を育てやすい社会と子供に煩わされない社会を両立する為に。

ここだけが交差点。僕は時々ここに来る。

別れた妻とあの子を探す。

見つけた。

また少し大きくなった。

穏やかに手を振り、すれ違う僕ら。

[#twnovel](#)

## 待機

---

死亡待機が問題となっている。

死後の世界に空きがなく、老人たちは徒に寿命を伸ばし続けた。

嫁はさすがにしびれを切らし悪魔を召喚する。

「もう、地獄でもいいからとっとと連れて行って」

[#twnovel](#)

悪魔は首を傾げる。

「爺さんとっくに死んでるよ。ほら、天国へ辿りつけない待機地獄に服役中」

## 栄養士

---

僕の心に栄養士が住み着いた。

じっくりと心を調べあげて必要な栄養を考える。

全然足りない。これとこれとこれを読んで。本は心の栄養だから。

好みじゃなければ面白みもない本ばかり。

嫌々読んだところで何の糧にもならないと思うけれど。

けれど一生懸命次から次に本を選ぶ彼女に僕は。

[#twnovel](#)

にゃ

---

「犯人解りましたか？」

探偵は少し考えそして宣言する。

「犯人は貴方が知っているはずです」

驚いた。その指摘は正しい。私は犯人をかばっている。

「貴方は 私が話していないはずの犯人情報を知っています」

「それは」

「犯人と言った」

「！」

「どうして人間の犯行と解ったにゃ？」

にゃ。 [#twnovel](#)



## ご予約

---

受話器の向こうからご予約ですねと爽やかな声。

「その前にお尋ねしたいんですが」

おずおずと切り出す俺。

人と違う部分は予め伝えなければ。

「こちら多少人よりコミュ力低くて彼女いない歴人生でそれから」

俺について小一時間語る。

「こんな俺でも予約できますか？」

電話は切れていた。

[#twnovel](#)

## 無言

---

「今日も旦那が帰ってこないの。残業なんだと思うんだけど、メールひとつよこさないってひどくない？何も言わないで帰ってこないのってどうかと思う」

「無言の帰宅よりはいいんじゃない？」

[#twnovel](#)

きょうも旦那は帰ってこない。明日も明後日も。そう、旦那は。

突然インターホンが鳴る。ドアの向こうに旦那の姿。

「出張でこっち来た」照れくさそうに笑う旦那を部屋にあげる。

[@kamitakasachi](#) [#twremix](#)

出張だなんて仕事熱心だった貴方らしい。お盆だけの逢瀬を楽しもう。

キツツキは愛のために木をつつく。  
ラブコールのため、そして生まれてくる卵のために。  
だから僕も君をつつく。心をつつく。言葉で仕草で。  
けれど君は僕に愛など返さない。  
それは欲望。けれどそんなの構わないよ。  
だってキツツキが木をつつく一番の目的は、捕食。

[#twnovel](#)

つついったー小説大賞

## 裸の

---

裸の王様みたいに私は見えない服を仕立てるの。

そしたらお客は着てみせろって。私が素肌にそれを纏えば凄い値段で売れていく。

今日もそうだと思っていたならいい服だってそう言うの。

[#twnovel](#)

運命の人にしか見えない服を仕立てている。

貴方にとっても似合いだけれど今は脱いで。灯りを消して。

## キスの群れ

---

キスの群れは滅亡の危機を迎えていた。

僕だけが気づいているのだがこの群れにはもう一匹しかメスはいない。

事実を話した瞬間、焦ったオスどもは暴挙にでるだろう。

つまり愛するあの子が危ない。これしか方法はないんだ。

[#twnovel](#)

僕は真実に近づきかけたオスに色っぽく口づける。

ねえ、僕と。

## 100年後

---

口づけで目覚める呪いをかけられた。

折角与えられた百年の眠りを、悪意なき誰かの唇が破る。

思いのほか柔らかなその解呪。揺れる気持ちを抑えこむ。

[#twnovel](#)

彼の物になった私はけれど心は許さない。

百年封印されていた私がついに力を取り戻したら、一番最初に喰らうべきは彼なのだから。

## 人間的には

---

人間的に駄目だから研究所に就職した。けれど全然仕事がない。

俺は人間的には駄目かもしれないが能力だけは誰よりもある。

誰より速く、バリバリ仕事を回せるのに。

[#twnovel](#)

出番だぞ。やれやれ、ようやくか。

俺はひたすら仕事を回す。

人間的に駄目な俺はひたすら回し車を回す。回し続ける。

## たちつてとっぽ

---

ぽたぽた落ちる雨に気づかず、  
ぽちぽち貴方と指先おしゃべり。  
ぽつぽつ眩くみたいな別れを、  
ぽてぽて歩いて眺めてた。  
ぽとぽと画面に小さな雨粒、そして大きな私の。

[#twnovel](#)



## 骨

---

一欠片の骨を隠す。祖母は言った。  
死んだら骨を少しでいいから庭にそっと埋めとくれ。

### [#twnovel](#)

白い骨に土をかけると、サワ。  
揺れる向日葵。  
それから祖母と軍服姿の見知らぬ男。  
父に似ていると思った。祖父とは似てない僕の父。  
やがて二人は手を繋ぎ、仲睦まじく消えた。  
向日葵と謎を残して。

## 白い鳥黒い鳥

---

飛び立った白い鳥は一日を潜り抜け巣に帰る。

体は黒。黒い言葉に染まった体を休めて眠れば、言葉はその巣に吸収される。

コックは困っていた。

姫君ご所望のスープには黄金の巣が必要なのに、最近黒い巣ばかりじゃないか。

塞ぎがちな姫君を笑顔にしたい。その一心でコックは旅に出る。

[#twnovel](#)

姫君は困っていた。

お抱えコックが食材探して旅に出たまま帰らない。

求めたのは私。けれど。

[#twnovel](#)

何を食べても美味しくないの。お皿の料理が美しいほど深く感じる罪悪感。

お前のせいよ、飛び出しそうな黒い言葉を飲みこんだ。

美味しい食事のためなんだから。小さな声で黄金の言葉を紡ぐ。

## 旅人と村人と鬼と

---

旅人が再び訪れると村には人の気配がない。

村中探して一匹の鬼を見つけた。

畑を荒らす鬼に悟る。鬼が人を喰ったのだ。

以前助けたその恩を無にされた気がして、旅人は鬼を切り捨てる。

[#twnovel](#)

嘗て暮らした村を捨て、村人たちは鬼と暮らす。

夕餉の野菜を穫りに出かけた鬼の帰りを待ちわびる。

## 絵の中へ

---

絵の中で暮らしませんか？

暑くも寒くもなく、お腹も空かず、望めば全てが手に入る。そう誘えば人は容易く頷いた。

[#twnovel](#)

リアリティーのある絵をご所望ならばこちらを。

生きているようだ？ そんなはずございません。

暑くも寒くもなく、お腹も空かず、何も望めない状態にしております。

## AIとは

---

変わらない愛をちょうだい。

それって何だ。そんなデータは僕にはない。

愛って何だ。知らないけれど、僕にとっての変わらぬ物は。

[#twnovel](#)

人に似せて作られたボディーを露わにする。

僕にとっての変わらぬ物は機械仕掛けのこの体。

嬉しい抱いて、君が言うから愛とはきっとこういうこと。PI。

## ポルノ

---

児童ポルノに引っかかるから本は買えない。

僕は自分で描くことにした。

捜査官が無作為に家宅捜索をする世の中だけれど、僕の絵にはエロさを感じないと捕まらない。

僕は描く。好みの構図で嫁の姿を何枚も。

[#twnovel](#)

どうみてもポルノだ。

あれから数年、絵を押収する捜査官は僕の成長に涙する。

念願のポルノ捜査官になった。

捜査官がポルノと言えそれがポルノ。その現状に我慢ならなかった。

子供が肌晒してりゃ児童ポルノっておかしいだろ？

[#twnovel](#)

僕は棒人間ポルノにメスを入れる。

性別も年齢もはっきりしない棒人間の艶姿。

こんなの野放しにできない、と拘束されたのは僕だった。

## 孵化屋

---

僕は孵化屋。卵アイコンを孵すのがお仕事。

優しい子にしたければ綺麗な言葉、賢い子にしたければ小難しい言葉で話しかける。

希少価値は天真爛漫な子だ。

卵じゃ信じて貰えなくて疑心暗鬼になりがちだから。

今日も僕をご挨拶して黙する卵を引き止める。

君達にも世界を見せてあげたい。

[#twnovel](#)

## そもそも

---

そもそもは落ち込んでいた。

お前がくると話が面倒臭くなると言われた。それにちょっと偉そうだって。

そうかもしれない。

だってそもそも議論好きだしそもそも僕は偉いんだって思ってた。

だけど違うね、僕って何にも言ってない。

突然の羞恥。引っくり返る世界で僕は身を隠す。

もそもそ。 [#twonovel](#)



## 禁書

---

新法案で禁書となった本は一つの書庫に収められた。  
厳重な鍵、厚い壁。頑丈過ぎるその書庫は、  
世界が滅び人が絶えたその後もひっそり存在し続けた。

### [#twnovel](#)

「旧人類が重要書物を収めたと思しき書庫が発見されました。果たしてどんな本が」  
青空の下、数世紀の時を経て晒される性的な書物たち。

## お菓子

---

そうじゃないわ貸して。

[#twnovel](#)

真心こめたお菓子作りは今日も母に奪われる。

躊躇いなくグチャグチャに混ぜる母の方法は多分正しい。

やがてそれは正しく形成され正しい温度で焼かれいつもと同じにできあがる。

正しい私は捨てることも消化することもできず、味気ないそのお菓子を吐き出した。

## 抜き足差し足

---

「ちょ、お前酒臭いぞ。仕事前に何やってんだ」

「飲んでませんよ」

「顔だって真っ赤じゃないか」

「全然大丈夫で一す」

「泥棒の仕事バカにしてんのか？」

「してません。それにほら、こんなにきちんと歩けますし」

「歩いてみろよ」

「抜き足差し足千鳥足」

「やっぱ酔ってんじゃねーか」

[#twnovel](#)

## 包帯うさぎ

---

うさぎさんは耳が痛い。

長い耳を包帯でぐるぐる巻きにしてみたならば、うるさい小言はピタリ聞こえず耳の痛みも引いたみたい。

穏やかな日々。包帯ひらひら おりボンみたいで可愛いけれど、誰かこっそり教えてあげて。

ねえうさぎさん、素敵な誘いも愛の言葉もみんな逃してますよって。

[#twnovel](#)

## 左右

---

ダンゴムシは、右、左、右。

規則正しく迷路をたどる。

左、右、左。

ルール守って素敵な未来。

右、左、右。

きっと幸せになれるから。

左、右、左。

右、左、右。

左。

突然の邂逅。目が合う僕らはきっと必ず恋に落ちる。運命を信じて。

3, 2, 1。

右。

さよならいつか、またいつか。

[#twnovel](#)

## 鬼が笑う

---

来年のことを言うと鬼が笑うって、いいじゃない。

そのほうが楽しいでしょう。

来年君の実家に行こう。殴られるかな。泣かれるのかな。

だからさつまり、来年僕ら結婚しよう？

[#twnovel](#)

笑うと君が鬼ってことに、泣いてもダメか。

鬼の目にも何とやらって。

ああもう、幸せにするよ。幸せになろう。

## チャイム

---

チャイムが思い出を連れてきた。

授業中に手紙交換。図書館でのお勉強。体育祭で疾走する爽やかな君の脚ばかり見ていた。  
一体何人の女の子に恋をしてきただろう。

[#twnovel](#)

「昔の彼女のこと思い出してるでしょう」

拗ねたような君の声。

当たり前だ。君は僕の思い出じゃない。

君は僕の今で、未来。

## ポエイチ

---

ポエムを頂戴、1 ダースよ。

多くても少なくてもいけないわ。必ずきっかり1ダースよ。

何故ってそんな無粋なことは聞かないで。

ポエムを頂戴、1 ダースよ。

それって一体何作かしら。

貴方の理屈で納得させて。

ポエムを頂戴、1ダースよ。

察しがいいわね、そう、ポエイチ。

[#twnovel](#)



## 物語

---

物語を1g頂戴。たったそれだけ切り取ってみせて。

女の差し出したナイフで僕は物語を綺麗に切り取った。

多すぎるわ。けれど量れば1gで。

なんて軽い文章なの。昨日の男はたった2文字で1gだった。そういえば血は？

そんなものはあるはずが。

血の通わない物語などいないわ。ポイ。

[#twnovel](#)

## 三途の川

---

三途の川の手前には待合室があって、人々はそこで本を読む。  
天国での暮らし方、地獄での過ごし方、そして現世への戻り方。  
現世へは戻れる。

その本には戻った際の貴方の人生が予め記されている。  
内容は伝えられていない。

人々は船に乗る。争って船に乗る。

誰も現世には帰らない。

[#twnovel](#)

## 胡瓜

---

思いのほか伸びた蔓は支柱遥か上へ。

不思議に思って触れてみたならどうやら糸があるらしい。

見あげれば沢山の胡瓜。収穫しながら上へ上へ。

蔓を伝う僕はやがて動きを止める。

釣り人だ。

この糸は釣り糸、つまり彼にとって僕は獲物。けれど僕にとっても彼は。

いざ、食うか食われるか。

[#twnovel](#)

## 神様みたいな

---

最近、文学系の即売会に神様が来るの。  
全てのブースをぐるり回って全ての本を一冊ずつ買ってくれる。  
ね、まるで神様みたいでしょ？

### [#twnovel](#)

「そろそろ自分で書いて下さい」「いいのがあるんだいいじゃない」  
人生を予め著した本を生まれる者に贈るのが神様のお仕事。  
ただし現在、スランプ中。

ちょうちょ

---

ふわふわ、蝶は探してる。銀河を超えて故郷を。

ふわふわ、多分あの場所なのに。これじゃあちっとも帰れない。

かつて暮らした青い星にはくるくるきらきら光が纏う。

朝露濡れた蜘蛛の巣みたいな、ううん、きっと蜘蛛の巣なのだ。

もうこの先には近寄れないけど、ああ綺麗だね。綺麗だね。

[#twnovel](#)

## 眠れる唄

---

眠れず悩むあの子のために眠れる魔法を買いに行く。

魔女が歌いし異国の唄は、高く低く、妙なる旋律。

僕は眠りに落ちてしまう。

魔女の館に来て数年。唄を覚えるどころか未だに最後まで唄を聴けやしない。

あの子の元へは帰れない。

それから数年。風の噂であの子が結婚したと聞く。

[#twnovel](#)

## 蜘蛛の糸

---

蝶々の羽根に閉じ込められた宇宙を蜘蛛は見極める。  
放っておけば羽ばたきと共に宇宙はきらきら零れ落ちる。  
あの宇宙、解放すべきかせざるべきか。全ては蜘蛛の意図次第。

[#twnovel](#)

蜘蛛は誘う。こちらへおいで。  
蜘蛛は誘う。君は誰より美しい。  
戯言吐いては、一等大事な世界を守る。  
喰む。

ねえ、[#twnvday](#) の中心へ行きたいの？それ

なら  
いかが どうぞ  
気分は ? コチラの  
ご案内 方へ  
お一人様を

朝食のチョココルネに口をつけるとお待ちくださいと声がする。

実は私は王子なのです。ぐるぐるがほどけて少年の姿に。

ほっぺたにはみ出したチョコレート。

ぺろり舐める私に王子は口づけをくれた。

なんて甘い。

気がつくとぺろり。ぺろり、ぱくり。ごちそうさま。

[#twnvday](#) [#twnovel](#)

新しいママだよ、なんて言われても解らない。

お胸の辺りがパチパチするのは降りだした雨のせいかしら。

ママだよ、パパはそう言うけれど違うわ、だってパパが私に教えたママは。

グルグルと駆け巡る矛盾からのエラー。

雨が降ってよかった。

暴走してしまう前に、停止してよかった [#twnvday](#) ピー

祖母の病気がもう何年も治らない。

思い当たる節があって祖母の家の屋根裏へ。

久しぶり。

声をかけると妖怪グルグル、同じ所をグルグルさせる妖怪は懐かしそうに私を見た。

病気グルグルさせるのやめて。だってさ。やめなさい。

[#twnvday](#)

祖母は死んだ。不治の病だったのにつて、殺したのは私。

グルグル。グルグル。

こんなに作品が多いなんて。

グルグル、グルグル。

ああまさに、これは予言。



僕がグルグルしてしまうがゆえに、はじき出されたこのテーマ、に、僕がグルグルする。  
卵が先か鶏が先か。テーマが先か、[#twnvday](#) が先か。  
わからないけれど。  
グルグル。グルグル。ル。

雨が降ってよかった。  
これならきっと、ああでも一応靴も隠してしまおうか。  
大きな鞆に出来る限りの私と少しばかりの貴方を詰めこむ。  
この宝箱のような、牢獄のような部屋に眠る貴方のほっぺたにぐるぐる、最後のおまじない。  
これですぐには追ってこれない。  
さよなら私の。ボタン。[#twnvday](#)

## 傘

---

どうしてこんなに容易く君の傘に気づいてしまえるんだらう。

愛らしい水玉の下、君と誰かの肩が不意に寄る。

雨音が聞こえる。雨音が聞こえる。

二人の肩が少しだけ離れて歩き出すのを見ていた。

こんなに安いビニール傘では守れぬ物が多すぎる。

隠すことも隠れることも出来ずに。

[#twnovel](#)

## そば

---

山奥で蕎麦屋をみつけた。

でかでかとたぬき蕎麦と書いてあるので、名物と思い頼めばざわつく店内。

もしやこれは狸の営む蕎麦屋とかそういう意味合いの？

空気を読み無難にざるそば頼んで平らげた僕は葉っぱのお金をさしだした。

捕まった。

ちなみにタヌキ蕎麦は不味いことで有名らしい。

[#twnovel](#)

## 星降る夜に

---

星がざかざか降っていたって願うことなど何もなくて。

一生懸命隣で祈る君の願いを聞いてみた。

私の願い、それはね。

[#twnovel](#)

ごめんね、星は君の願いを叶えない。

願いを持たない僕の願いが叶うことなどないでしょう。違う願いを叶えてあげる。

君の手をとり口づけをして、それから。

つゆ

---

空は青。

今日も凄いいい天気ね。

ねえ。

ところで、世界。

あなた梅雨にふられたんじゃない？

やだ、違うわ。振られたって言ってるのよ。

ねえ、世界？

[#twnovel](#)

## 幻の本

---

すみません売り切れちゃって。

その本はいつも売り切れ。

次こそ手に入れます、なんて僕の決意表明を聞きつけた人が尋ねる。

それは何て本ですか？

### [#twnovel](#)

この前聞いた噂の本を買いに来た。

すみません売り切れちゃって。また売り切れか。

隣で話を聞いていた人が尋ねる。

それは何て本ですか？

## 父の日

---

父の背を見て子は育つ。

いつだって堂々と胸を張り男気溢れる父を持つ僕は、どう間違えたか草食系。

それどころか女に生まれたかった、なんて思って女装にうつつを抜かす日々。

背なんかみたって同じ様には育たない。

[#twnovel](#)

最近息子が綺麗になった。まるで俺の背に彫られた刺青の女のように。

## 宇宙兎

---

問題は侵略の成功がどこにあるのかということね。

ううん考えたって仕方ない。兎にも角にも書かないと。

[@567\\_8ya](#) [#twnovel](#)

出来上がった物語に宇宙猫が群がる。

みちゅう、成功したのにな？

パーティーが始まる。

待ってよこれは妄想で。ああもう。

ねえみちゅう。この本通りをお願いね？



## 蝶よ花よ

---

奥様も旦那様もいらっしゃらないこのお屋敷で、蝶よ花よとお嬢様をお育てする。  
蝶は容易く飛んでいくからどうやら花がいいみたい。  
庭に咲き乱れるお嬢様たち。その中からお一人摘んではお部屋にお連れするのです。  
ああ、枯れてしまった。今度は虫がついて。  
花の様なお嬢様でしたのに。

[#twnovel](#)

## 紫の花

---

紫の花咲いた。赤い花と青い花、互いに頭を悩ませる。

これはどちらの仲間でしょう。

赤か青か。

この妖艶さは赤ですね。この神秘性は青ですよ。

どちらの枠にも入れない。

赤い花と青い花。その真ん中で、紫の花はゆらりと揺れた。

あのね、私はこう思う。

「 [#twnovel](#) 」

## 命名権

---

命名権を売ることはもはや普通のこと。  
ならば売るべきだ。さあて、今年はいくつ売れるだろうか。

### [#twnovel](#)

『ご覧ください、ツ○ッターの猛威は止まりません』  
TVが叫ぶ。  
何これ○イッターって。  
お前知らないの？台風の命名権買えるようになったんだぜ。  
『ツイッ○ーが全てを壊して、あー！』

## 読んでる人を食べる本

---

読んでる人を食べる本があるの。

ねえ、知ってる？

この本の30頁。そこに全てが記されてるわ。

「本の場所は正確にはわからない。ある日、女が貴方に囁く。読んでる人を食べる本があるの。

ねえ、知ってる？この本の」

[#twnovel](#)

貴方、ねえ貴方。読んでる人を食べる本があるの。ねえ、知ってる？

茶々

---

今日はお茶汲み。

誰より早く出勤したなら給湯室でお茶を汲む。

給湯室の奥の扉、開けば広がる不気味世界。

私はお茶の泉に向かう。

今では作業同然となった魔物との戦いをちゃっちゃと済ませ、お茶の泉で粗茶を汲む。

[#twnovel](#)

どうぞ。

もっと愛想よく出来ないの？

茶々入れてんじゃありませんわ。

## 老害

---

お前ら所詮、俺らの作った世界で踊らされているだけさ。

闘争の時代を生き抜いた老人達が嘲る。

ならばと僕ら、タイムマシーンで過去へ飛ぶ。

[#twnovel](#)

ふん、同じ末路じゃねーか。

闘争の時代を生き抜いた僕らをあの日の老人達が笑う。

違うな。どこが。

僕らは誰も、貴方達をも嘲ったりはしない。

## 押し花

---

貴方が最後の希望よ。

私は暗くて狭いその場所に閉じ込められた。身動きもできない暗闇に愛しい声が届く。

どうか、どうか未来へ。

[#twnovel](#)

どれほど時が経ったか。優しい風に目を覚ます。

目の前には一面の花畑。

どうやってあの危機を乗り越えたのか、私に良く似た花たちがようこそと揺れる。

博士はその本を愛していた。肌身離さず持ち歩く。

中身が知りたい。

隙をみて僕がこっそりページを捲るとそこには。

[#twnovel](#)

「見たの？」

「白紙でした」

「そうかあ。じゃ、次は君ね」

「？」

「僕に解らないようにそこに何か書くか書かないかしてね」

中身を想像している時が一番楽しいんだと博士。



## シュレーディンガーのねこっぽい

---

博士はその本を愛していた。

読むまでの時間が大切なのだ。そう言って読みもせずその本を持ち歩く。

僕は気になって本にそっと手を。

「にゃー」「?」「にゃーにゃー」

[#twnovel](#)

驚いた僕を見て、博士は困った顔をした。

バレちゃったか。開いたその分厚い絵本の中、ペラペラの猫たちが、にゃー。

## かんがるる

---

カンガルーの袋は全て繋がっている。  
子供は自由に袋を行き来しどの袋からも顔を出す。  
袋に子供が入ったならばその日はその子のお母さん。  
一番人気のお母さんは子供を産んだことがない。  
けれどもそんなの気にしない。  
カンガルーはカンガルー。  
カンガエルーとは違うから。

[#twnovel](#)

そして冒険が始まる。  
袋から袋へ。  
胃袋で溶けそうになったこともあった。  
ヤ○ー知恵袋で袋叩きにされたりもした。  
そしてとうとう最後の袋にたどり着く。  
この袋は何だ。  
なんて、なんて窮屈なんだ。ん、おや。

[@kusunokidan #twremix](#)

堪忍袋の尾が切れた。僕は、僕はどこへ向かう？

カンガルーたちの活動領域は後退し、今や袋の中だけとなった。  
袋の外の親カンガルーは外壁として袋を守る。  
子供は育つ。けれど体は小さいままで。  
大人になっても死んでも袋のカンガルー。  
僕らの敵ってそもそも一体なんだっけ？

[#twremix](#)

けれど僕らはカンガルー。カンガエルーとは違うから。

## ホンモノの猫

---

本屋に並ぶ沢山の本の中から本モノの猫を探し出す。  
スピンの飛び出しピンと立ったらそれはきっと猫の合図。  
見つけた。僕の猫屋敷へようこそ。

### [#twnovel](#)

本棚なんかに収まるものか。  
逃げまわる猫はやがてエモノを見つける。  
絵物の鼠、罨られやがて本モノの猫の中へ。  
パタン。食物連鎖の物語。

じっと見ていた本モノの猫は、やがてすんなり魚の本へと移動した。  
拍子抜けした僕が改めて本の表紙を確認すると、なるほど。  
確かにこの魚の本ならば、いその本ならば。

### [@nemu\\_tatibana](#) [#twremix](#)

「サザエさん」から出てこようとはしない猫。  
タマと呼んだらにゃあとなく。

らのべ！

---

どうやら異世界に落ちたようだ。

異形（だけど可愛い）少女が俺を出迎える。

「ここは」「どこでしょう」「異世界か？」「不合格！」

[#twnovel](#)

私は絶対許さない。

異なるのはむしろ貴方。

大阪焼き広島焼き問題も決して他人ごとじゃないわ。

異世界から来ました。そう答えたなら貴方は私の勇者様。

## 種

---

種は違うけどあなたの子よ。

そう言って妻は俺とよく似た西瓜をなでた。

どういふこと？そういうことよ気にしないで。

[@zeniqui #twnovel](#)

事情を聞くこともできないまま、やがて出荷される息子。

箱には種無し西瓜の文字。

「違うわあの子には見えない種が、未来があるのに」

妻は泣いた。

## ネコ型ロボ

---

お掃除ロボも進化が必要と、ネコ型お掃除ロボが開発された。

猫そっくりの造形。これはいい。

猫の代わりにロボを買う人々。その可愛らしさはまるで本物の猫のようで、家族のようで。

[#twnovel](#)

ネコ型人気の裏で、実は旧式も売れ続けた。

家族にゴミなど食べさせられぬ。新旧二台買いは愛の証。

## 処理

---

失業者対策が追いつかない。

これ以上どうかしたフリもし続けられないし、そろそろどうにかしたフリでもしなければ。

さあ、最期の公共事業を始めよう。

「工場で求人がでていたな」

「あれってなんの工場だ？」

「確か何かの処理をするのだとか」

「ゴミとか？」

[#twnovel](#)

ゴミのようなこの世界を。

## キラキラ

---

名前を呼ばれた者を使い魔に変えてしまう魔女が現れた。

増え続ける使い魔に人々は頭を悩ませる。

どうしよう。名前を長くしてみたが魔女はさすがの高学歴。

簡単に覚えてしまう。

これは名前の暗号化が必要ではないか。そうだ、読めなければいい。

[#twnovel](#)

キラキラネームの始まりである。



## トマト

---

もう少しだけ大丈夫。もう少しだけ見守っていよう。

そうすればきっと、もっと熟してもっと今より甘くなる。

食べちゃおうよと言った君を退け残したそのトマトは、気づけば朽ちて落ちていた。

もっと早く気づくべきだった。もっと早く摘み取るべきだった。

トマトも、私の片思いも。

[#twnovel](#)

## ヒトツイロ

---

色はいかが？ 杖の先がイロトリドリにピカピカ光る。

色はいかが？ どんな色でも叶えてあげる。

だけど僕には色のことなど解らない。困っていたなら魔女がシャランと杖を振る。

杖がなぞれば色づく世界。さあ始めましょ。いったい何を。

やだわ、物語に決まっているじゃない。

[#twnovel](#)

## ぽっぽ

---

もっと自由に歌いたい。

脱走した鳩はけれど時計の側から離れられずにいた。

ポッポ。

やがて時を告げる鳩なし時計に驚く。

歌ってみる。歌えない。

自分が歌っていたなどと、いつから思っていたのだろう。

震える。けれどももう時計には帰らない。

居場所など最初からなかったと、羽撃く。 [#twnovel](#)

壊れた鳩が外されてからどれだけ時が経ったろう。

鳩なし時計に一羽の鳩が小さな卵を産み落とす。

生まれた子鳩はすくすく育ちやがて時計と歌いだす。

1日きっかり48回。いつも一緒にポッポ。

[#twnovel](#)

自由を求めてくれて良かった。そうよ貴方は本物の鳩。

見送る時計。今日から一人でポッポ。

## 字喰い虫

---

字喰い虫を飼っている。

虫は毎日文字を少しずつ食べて、物語の意味を変えてしまう。

カサカサ。

昨日と今日では違う物語。

僕はそこに毎日少しずつ文字を足してゆくのだ。

[#twnovel](#)

君は僕の事どう思ってる？

は て ？

僕はすごいきになってる。

す き 。

## 白馬

---

王子様は白馬に乗っちゃいなかった。けれど顔良し家柄よしだし気だってとっても合うみたい。私が白にしてあげる。

ペンキで白く塗ってしまえば貴方は私の白馬に乗った王子様。

[#twnovel](#)

いつしかペンキは色褪せるけれどそんなの全然構わない。

だって愛っていつかは消えるものでしょう。

## 風物詩

---

例えば夜中の二時くらいに、お墓や古い校舎に行くと会えるらしい。  
ちょっと怖いけれど行ってみよう。好奇心に唆されて私はその時を待つ。

### [#twnovel](#)

恐る恐る進めばぼんやり人影。

「でた！」誰かが悲鳴をあげた。

驚いた私は尻餅をつく。

本当に人間が見えるなんて。私は白い着物の襟を正した。

## 異世界なう

---

いきなり異世界に呼ばれたって何もできないから食堂で働いてる。

そこら辺で調達した食材を適当に調理し続けていたある日、「警察だ！」踏み込まれた。

食中毒が出たらしい。味噌汁の具を掬って見せた。

「こ、これは魔王！？」

[#twnovel](#)

気がつくとき世界を救っていたらしい俺はけれども営業停止。

## おうむ姐さん

---

おうむ姐さんは繰り返すことしかできないから。

「好きだよ」「好きだよ」「ホントに」「ホントに」

繰り返すことしか出来ない、だから何度も繰り返す。

「好きだよ、好きだよ、好きだよ、好きだよ」

これしか伝えるすべはない。

どうか、どうか。この恋の喜びが、貴方に伝わりますように。

[#twnovel](#)

おうむ姐さんは繰り返すことしかできないから。

「ふざけるな」「ふざけるな」悲しい顔で口汚く罵る。

彼の怒りを和らげる言い訳一つできやしない。

「バカヤロウ」「バカヤロウ、バカヤロウ、バカヤロウ」

繰り返したくなどないのに気持ちが言葉を依り代にする。

「バカヤロウ」違うのに。

[#twnovel](#)

おうむ姐さんは繰り返すことしかできないから。

「別れよう」「別れよう」別れたくない、そう言いたいのに。

彼を引き止める言葉が出てくるはずもないのにまるで奇跡すぎるように何度も何度も繰り返す。

「別れよう、別れよう、別れよう」

けれど言葉が連れてきたのは哀しみとそして現実。

[#twnovel](#)

おうむ姐さんは繰り返すことしかできないから。

だから今はどんな言葉も話せない。

思い出を反芻したなら何故か楽しいことばかりで。

一緒に笑って、笑って、笑って。

おうむ姐さんは繰り返すことしかできないから。

だから歌う。

美しいとは決して言えないその囀りで次の言葉を、恋を探す。

[#twnovel](#)



## 面接

---

面接なんて嫌いだと思っていたのに、今回ばかりは違っていた。  
どんな質問にでもスラスラ答えられて、むしろ、私の話をもっと聞いてって。  
面接は大成功。本当に好きなら話せるだけで嬉しいのね。

### [#twonovel](#)

内定を蹴った私は面接三昧。本当の自分を面接で見つけるの。  
就職？そんなの後回しよ。

## 最後の花

---

酸素不足の原因は花不足だ。

息苦しいこの街で僕らパクパク呼吸困難。花が足りない。どうか花を植えてください。

[#twnovel](#)

僕らみんなで花が咲くのに最適な環境を作りあげた。

これで誰かが植えるはず。これなら誰かが育てるはず。

誰かが、誰かが。

君は？僕はちょっと。

そして、最後の花が散る。

7月7日

---

晴れてしまった。あんなに雨を乞うていたのに。

「ダメよあなた」子供らを背に繰り返す妻を押し退け俺は長男の手を引く。

[#twnovel](#)

7月7日、もしも晴れたら川向うの姫に男を一人捧げねばならぬ。

村に続く掟に従い息子に運命を背負わせる。なんてことはできないだろ。

今宵、天の川朱に染まる。

## アンケート

---

家に帰るとテーブルの上に一枚の紙が。

お帰りなさい。台所から顔も出さずに彼女が僕を迎える。

鞆をおろしながらその紙をさり気なく眺めれば、「出産を支持しますか？」ってこれって噂のあれか？

でもよく見ると「私の出産を支持しますか？」って。まさか。

「支持しますか？」 「勿論！」

[#twnovel](#)

## 雨でよかった

---

雨でよかった。もういっそ会わない方がいい。

そう思っているのに貴方は律儀に連絡をくれる。

わたし、知ってる。貴方に奥さんがいること。子供がいること。

わたし、知ってる。けれどわたしを好きなこと。

貴方ってそんな人。

織姫は溜息をつく。

雨でよかった。だけど。

ううん、よかった。

[#twnovel](#)

## 境界線

---

気持ちを知らないわけじゃなかった。

だけど僕ら笑ってそれを無視したね。それぞれ違う誰かをみつけてそれぞれ未来に歩いてく。

「少し寂しいな」珍しく境界線を踏みつける君。

「今までと変わらないよ」これは呪いだ。

こうして僕はまんまと君をこの頁に閉じ込め、

他の誰かと頁をめくる。 [#twnovel](#)

「結婚するの」事も無げに君は言う。

まるで、あの日僕が君を閉じ込めた頁を朗読するみたいに。

「少し寂しいな」けれど境界線を踏みつけるのは今度は僕の役目で。

「今までと変わらないよ」あの日の呪いを僕が受ける。

こうして君はまんまと僕をこの頁に閉じ込め、

他の誰かと頁をめくる。 [#twnovel](#)

## ダガシカシ

---

ダガシカ氏は戸惑っていた。

けれど目の前のその子は言うのだ。貴方が好きです。

うつむき震えて。

だがしかし。だがしかし。

付き合ってください？あ、はい。喜んで。

[#twnovel](#)

彼氏になったダガシカ氏。

僕らの恋ほど素敵なものって他にはきっとないじゃない。

自画自賛。ジガジさんに名を変えた。

## 欲しいのは

---

どうせあたしなんてただのお姫様だただのご褒美だもの。

ツンと横向く可愛い君は、ドラゴン討伐の褒美にされたのがよほど悔しいらしい。

どうして危険承知でぼくが討伐に行ったか解ってる？

いいさ。ここで大きな声で言ってやる。

ぼくは嫁が欲しいんじゃなくてあの人がほしいんです。

[#twnovel](#)

「ぼくは嫁が欲しいんじゃなくてあの人がほしいんです」

酔い潰れた後輩の可哀想な嫁を俺は知っている。

彼女への初恋を拗らせ未だ俺は独りだ。

あの人のこともよく知っている。

俺と彼女の友人であるあの人がコイツを好きな事も。

さあ、カードは揃った。始めようか。

彼女の涙は俺が拭う。 [#twnovel](#)



## 短冊

---

短冊に願いを。

私はあなたの彼女になりたい。

あんなことやこんなこと。やだ私ったら一体何を考えてるの？

震える指先。恋する私は、あなたの名前を書き記すだけで精一杯。

[#twnovel](#)

短冊は願いを叶える。気づけば私は、彼だった。

短冊に願いを書く。そういえば叶うと思ったことなどあっただろうか。

叶わないどころか書いた願いすら忘れていた始末。

僕ら、なぜ願う？いや、もしかして願わされている？

[#twnovel](#)

「会長気づいた人間がいるようです」

「願いを集め叶わぬよう裏工作してきた我らにか」

[#世界もう滅ぼしたい協会](#)

## 七夕

---

雨だから、仕事だから。言い訳はどんどん増えていった。

運命と納得して楽しめたのは最初だけ。

別に乗り越えて欲いわけでもなかった。乗り越える素振りだけでも良かったのに。

雨が降ったね。

運命に従順な貴方に私はサヨナラを言う。

貴方が越えるべきは、この川なんかじゃなかったの。

[#twnovel](#)

## ミステリー

---

閉ざされた雪山山荘。

親族会議の真っ最中、山荘の一室で男が死んだ。

密室だった。探偵もいた。

けれどあまりに少ないヒント。

わけのわからぬまま上巻が終わり読者たちは困惑する。

寄せられる数々の苦情と破綻した犯人予想を作家は笑った。

いつからこの物語がミステリーだと思っていた？

[#twnovel](#)

## 枕

---

枕してる。といっても色で仕掛けるあれじゃない。  
依頼主に添い寝してあげるのが僕のお仕事。  
今日はあの子か。悩みごとでもできたかな。

### [#twnovel](#)

好きな人ができたのとあの子は言った。  
だから今日は最後の仕事よって。  
なんだそうかおめでとう。  
ばか、あなたのことよ。  
僕はお客を失い代わりに。

## 滅亡エッグ

---

10個198円で買ってきた卵の中にそれはあった。  
知ってる、これは滅亡エッグ。中に滅亡が入ってる。  
「おいまだかよ」いけない。「このグズ！」

[#twnovel](#)

結婚して何年かな。愛はどこかへ逃亡中。  
買ってきた卵を冷蔵庫に並べた。  
君がいるならもう少し頑張れそうよ。

[#世界もう滅ぼしたい協会](#)

おはよう。オムレツ作ってあげる。  
あなた好きだったわよね。  
やだ、そんな顔しないでよ。最後くらいは仲良くしましょ。  
ええ、そうよ。お望み通り別れてあげる。  
離婚？そうねそうともいうけれど、はい。オムレツのできあがり。

[#twnovel](#) [#世界もう滅ぼしたい協会](#)

滅亡エッグを召し上がれ。

十字窓の向こう側、滅びた世界を覗きこむ。  
暗いその部屋、卵の中で、膝を抱える少女に私は安堵する。  
きっと貴方は不幸のはずよ。きっと。

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) [#twnovel](#)

顔をあげたあの子の穏やかなまなざしが私を不安にする。  
こちらの世界を振り返る。  
滅亡エッグ、外側はどちら？

## 吾輩は猫である

---

「人間以外（人工知能等）の応募作品も受付けます」とは素晴らしい。  
とうとう僕の時代がやってきた。  
実は今までたくさんの小説を書きためてきたのだが出品する機会がなく困っていたのだ。  
ふむふむ。保護者が必要か。  
まずは主人に相談しよう。

[#twnovel](#)

にゃー。あら、ご飯はまだよ。にゃー。

セミの声が毎日少しずつ大きくなる。暑い。

乱反射する眩しい陽光。暑い。

草いきれ。暑い。

日々深まる夏に窒息しそうだった。暑い。

そうだまるで閉じ込められたみたいに。

[#twnovel](#)

いつから気づいていた？

君と蝉とそれ以外の夏をたくさん閉じ込めて、キュ。

最後に聞こえたのは蓋が閉まる音。

## 魔のすみか

---

森には魔物が棲むという。出会い頭に人を喰う。

俺はアイツに一太刀やった。俺も、俺も。アイツは本当にでかかった。

俺もだ、羽がついていた。羽が？いやいや甲羅だろう。何言ってるんだ、アイツの背には。

[#twnovel](#)

村から魔物が来るといふ。

出会い頭に斬りかかる。

だから逃げて。さあ、速く。



## 博士の遺品

---

遺されたロボは博士と瓜二つだった。性格もだという。

彼女は博士の最期の発明品と暮らし始める。

[#twnovel](#)

数日後、彼女はラボへ。

おかしいんです。このロボ私を愛してくれる。愛などない夫婦でしたのに。

思う所はあったが助手は点検し不備がないことを伝えた。

泣きだす彼女に寄り添う博士。

あいたい

---

最近彼に会えない。あの女が猫かぶりをやめるといつも引き離される。  
私ができることなど何もない。あの女がまた新しい恋をして猫をかぶるのを待つばかり。

[#twnovel](#)

「無理しないでお盆使え」

「出すの面倒」

「昔はコップ一つ運ぶにもお盆使って初々しかったのに」

コップさんに会いたいと願う盆。

## つめた〜い

---

つめた〜いお飲み物のボタンを押すと、がたん、君が出てきた。  
女の子の形の小さな君に飲み物なのか尋ねると、そうよと答える。  
あなたに「つめた〜い」をあげる。だからどうか飲み干してね。

### [#twnovel](#)

「鏡、みたことある？」

「これ年収？月収じゃなくて？」

凍った言葉は飲み込めない。

## 遠雷

---

ずいぶんと遠くで鳴っているというのに君が怖がるから、僕らの勉強会は一時中断。

10秒、まだまだ遠いよ。

5秒、そんなに騒がないで。

3秒、だいぶ近づいてきた、のは雷じゃなくてさ。

「大丈夫だよ」「本当に？」

もはや触れられる距離。

上目遣いの君に僕はあんまり大丈夫じゃない。

[#twnovel](#)

## 天気予報

---

お天気屋の君と気象予報士の僕。有能な僕にも君の予報は難しい。

明日は晴れるしデートしよ？きっと雨よ。そうかな僕の予報では。何よ貴方の思い通りにはならないわ。

[#twnovel](#)

君の言葉で予報を雨に変えたというのに今日は晴天、笑う君。

ねえ今ちょっと気づいたのだけど最近ずっと晴れてない？

## #twnvday 『冷やしツイノベはじめました』

---

貴方が落としたのはこの冷たいツイノベですか、それとも温かいツイノベですか。  
湖の女神が問う。

[#twnvday](#) のテーマを見透かした風なその質問に思案する。

この最上の物語を自分の物に出来たなら。

「冷たいのです」

[#twnovel](#)

物語は湖へ沈む。最上のツイノベ、誰か奪いにいきませんか。

貴方が、「ワレワレハウチュウジンダ」と扇風機に囁く時、  
扇風機もまた、「ワレワレハウチュウジンダ」と貴方に囁いているのです。

[#twnvday](#)

「寒っ」

「いやいや、別に怖がるほどのホラーではないよ。涼感を楽しみたまえ」

「違うよ、ネタ的にだよ」

[#twnovel](#)

夏休みの図書館通いは毎日君の真正面に座るため。

うだるような暑さ続きだというのに君から吹く風は高原のそれのようにひんやりと爽やか。

僕が座るとニッコリ会釈してくれる君。ああ、可愛い。

[#twnvday](#)

ね、向かい座っていい？あ、そこには彼女が。や、誰も居ないじゃん。え？

[#twnovel](#)

冷やしツイノベはじめましたの隣に、流し [#twnovel](#) あります。

流しを頼むと上流から「流しま～す」の声。

急流を下る文字たち。

「密室は貰った！」「恋は渡さん！」語句をかけた壮絶バトルの最中、僕は「冷たい」と「水」  
を捕えた。あと必要なのって。ね、君ならどうする？[#twnvday](#)

これすっごく冷たい湧き水使わなきゃいけないの。だからここでしか本物は食べられないんだからね。

僕が田舎に帰るといつも、君がお手製の寒ざらしを押し付けにくる。

頭、キーン。

この激甘が嫌味なく楽しめるのは冷たさで感覚が麻痺するせいだ。

だから毎年帰ってきなさいよね。

## [#twnday](#)

うん。

水底に人を引きずり込む仕事をしている。

熱心な私の湖は有名となり、今では誰も近寄らない。閑古鳥と歌うある日やってきたのが彼だった。

久方ぶりのお客に喜び遺言なんかを聞いてあげたら私、私。

## [#twnday](#)

水温を一気に下げ水底へと逃げこむ。

凍てつく水面で世界を閉ざし、私は一人恋に泣く。

いつも負けてばかりの僕に悪魔が囁く。

勝ちたいか。勝ちたいさ。

ズルしてもか。アイツらだってズルしてる。

ほう、それじゃあ。

## [#twnovel](#)

「氷！」

僕が触ると誰でも氷の像になる。

怯えてみんなは逃げ出した。

僕は追う。全ての子供を凍らせるまでこの氷鬼は終わらない。

待ってよ、ねえ待ってよ。

## 夏祭り

---

ここからでちゃいけないの。ひらり、赤い帯揺れた。

君はまるでこの神社のお狐様みたい。何の事情か頑なに鳥居の内で遊ぶ。

いつかここから出てみたい。僕が連れて行くよ。すくってくれるの？救うさ。じゃあ待ってる。  
チャポン。

### **#twnovel**

君が消えた水槽の前。

「ぼうや金魚すくい一回百円だよ」



隣の芝生は青いものだ。

長文小説に憧れた僕はこの狭い枠を飛び出す。

広い世界を見てみたい。

たどり着いたのは、有名作家のシリーズ3冊目32頁。

何すればいいですか？ああ、いるだけでいいから。

ドキドキしたのは最初だけだった。

僕の意味ってなんだっけ。

そうして僕は [#twnovel](#) に帰る。

馬鹿げた話だと思った。

君に有利なこの勝負。けれど僕の下心はむしろチャンスと囁いた。

乱暴に物事を片付けるよりゆっくり着実に。そんな教訓物語、あったよね。

勝ちたいならば勝たせてあげる。

旅人がコートを脱ぐかなんてどうでもよかった。

ねえ太陽。僕が脱がせたいのは君なんです。

[#twnovel](#)

## ラスト盗賊

---

大好きな作家の最新作。

その結末があまりに納得いかず、ラスト盗賊に盗みだしてもらった。

なのにまたしても同じ結末。どうして貴方はその結末を選ぶのかしら。

[#twnovel](#)

「金がないんだ安いのを頼む」

「ではこちらを」

「どこかでみたような結末だな」

そりゃ先ほど貴方から盗った結末ですから。

## こうかい

---

もう長いこと、こうかいをしている。

果てることない一面の暗闇。灯火探して彷徨う世界は、こんなに広いものなのか。

僕はこうかいしている。あの日、あの時、君の手を振り払い旅立った。

もはや見えない遥かを眺める。

この白いきせきは君の元へと続いているのだろうか。今でも。

[#twnovel](#)

## 冷蔵庫ペンギン

---

冷蔵庫を開けると小さなペンギンがいた。  
魚を入れておくとたまに来るのよ知らなかった？と母。  
気になって何度も開けてしまう僕を窘める。  
冷気が逃げたらペンギンも逃げてしまうでしょう。  
ゴメンナサイ。

[#twnovel](#)

ごはんよ。  
冷蔵庫を開けて飲み物を準備する。と、いない？  
今夜は鳥の唐揚げよ。

いつか

---

また会おうね。会おうね。絶対ね。うん。

扉の向こう側、無理して僕に笑う君。触れ合い過ぎた狐と人の末路がこれか。

僕はしばし、このお社で罪を償う。

[#twnovel](#)

扉が開いた。

僕は駆け出す。君の家へ、君の元へ。

けれどそこには跡形も無い。僕らの時間は違いすぎた。

本当の罰は、これから。

## 選挙

---

ね、お兄ちゃん今日も艦コレ三昧？私の記憶が正しければお兄ちゃんハタチこえてるわよね。つまり、選挙権があるってこと。

ね、お兄ちゃん。選挙は未来のためにあるの。お兄ちゃんよく言うでしょ。

今のことだけ考えてたら燃料切れで貧乏提督まっしぐらって。

だから。ね、選挙行こ？

[#twnovel](#)

[#twnovel](#)

今回も投票率は期待できないですね。

何の役にも立たない予言ならいらぬ。僕はTVの電源を切った。

どうせ不確定な情報ならばもっと違う言葉がいい。

言葉を操る職業だったら少しでもいい、投票率をあげてくれ。

日本人相手の煽り文句ならこうだろ。

「みなさん選挙に行かれてますが」

## 140字で小説は書けるだろうか

---

「140字で小説は書けるだろうか？」なんて聞いたら君は困り顔。  
頑張ってるけど何度やってもオーバーしてる。  
弱音を吐くヒロインを僕は一文字目までそっと戻す。

[#twnvday](#)

二人で歩けばその足跡が小説を作る。

140字ちょっと手前。

永遠を口づけで誤魔化して、言葉なんかはちょっとでいい。



## 蝉の声

---

蝉の声が聞こえる。

どこへ行っても追いかけてくるので不思議に思って耳をすませばどうやら頭の中からだ。

困った僕はけれども彼の少ない生をそっとする。

[#twnovel](#)

やがて最期の力で彼がぐるぐる回ると僕の記憶も回った。

彼の世界は僕の記憶。

懐かしい走馬灯に見送られ蝉は死んだ。僕も。

## そばにいるよ

---

別になんとも思っ  
てなかったの。

ただなんとなく仲良  
くなって、ちょっといいかもな  
って。

寂しい時とか嬉しい時とかいつだ  
って傍に居てくれるからついつい  
甘えちゃったのね。

気がつけばなくてはならない存  
在だった。

うん、好き。

え？結婚はいつかって？やだ何言  
ってるの、[#twnovel](#)の話よ。

## 生贄の娘

---

村のためだ。

生贄として噛み砕かれた娘はけれど大鬼の胃の中で再生する。

閉じ込められた新しい世界は暗闇。けれどもある日、青い、青い空が広がる。

[#twnovel](#)

大鬼の腹は裂かれ、差し伸べられた村人の手。

その手は私を今度は洞窟へと導く。

村のためだ。

ねえ大蛇、貴方は私を溶かしてくれる？

## ハッピーエンド

---

王子様が生まれたの。

TVをみて娘が喜んでいる。

ママ、5歳くらい年上のお嫁さんってダメかなあ。

あらあら、夢があっていいわね。

[#twnovel](#)

ママは知らない。どうして私がここにいるか。

お伽話の世界じゃもはや、お姫様って就職難。

ハッピーエンドを迎えるために、夢を叶えにリアルにきたの。

## 修復師

---

僕の心に修復師がやってきた。

壊れてないよと言うと汚れてはいるだろうって失礼なヤツ。

心に小さな綿棒を当てられ拭われるのはなんだか少しくすぐったい。

できたよ。

そうは言うけど少し汚れが残ってる。

ここはだけはこのままがいいだろう？

[#twnovel](#)

そうだね。あの人への汚れたこの気持ちは。

## 人間力

---

「それでは次は人間力測定です」

何人かまとめて一つの部屋に通された。さあこいどんな質問にも倫理的に答えてやる。  
試験官が質問する。

「貴方は人間ですか？」

[#twnovel](#)

「あ、はい」思わぬ質問に腑抜けた返事をする俺。

「ワレワレハ宇宙人ダ」「差別ですか？」「どどうみたって人間だろう！」

## 凍結

---

もういい年なんだから。

僕の言葉に一瞬にして凍りつく空気。

ねえ、貴方に匂じゃない女の苦しみが解る？素直になんかなれなくて冷たくするしかできないの

。

そんな女の苦しみが解る？

[#twnovel](#)

だからってツイッター凍結させないでよ。

ね、雪女。もういい年なんだから、僕と大人の恋愛しよう？

## シャッター

---

その商店街は俗にいうシャッター商店街。

人が大勢来るように。街が元気になるように。

僕は密かに魔法をかける。

書ける。僕はそこに住むべき人を空想し、シャッターに物語を書き記す。

[#twnovel](#)

次々あがるシャッター。誰かが物語をなぞって暮らす。

ワレワレハ人間ダ。空にはキラキラ、宇宙船。



## 盗みます

---

貴方の大切なものを盗みます。

そんな手紙がもしも来たなら予告状だと思う？それともラブターだと思う？

君に聞いたら解らないって。

恋など知らない幼い君は、読みかけの推理小説に目を落とす。

[#twnovel](#)

大事なヒントが足りないの。仮に貴方がくれたものなら手紙はきっとラブターよ。

## 遺品

---

父が死んで色々継いだ中にそのツイッターアカウントはあった。

とても静かなタイムライン。けれど毎日必ず23時、リプをくれる人がいる。

BOTじゃないみたいだし、ねえ君は誰？

母が死んで色々継いだ中にそのアカウントはあった。

23時にこう呟くの。私は遺言を守っている。

## #twnovel

---

もわからず踏んだ一歩目。二歩目三歩目、七歩も歩けば意味を成す。十七歩目の景色に泣いて、三十一歩目恋に震える。もっと歩こう。もっと歩いて、百四十歩目広がる世界。さあ、目を開ければそこには世界。めくるめくるくる。さあ、[#twnovel](#)を召し上がれ。

よいこどうとわるいこどうがあるってホント？ねえ、ホント？つまりそれってよい人生とわるい人生、それぞれあるってことかしら。五月蠅い君に僕は答える。わるいこどうなどありゃしないのさ。そうさ、[#twnovel](#)さえ紡げばね。

## 万華鏡

---

僕ら毎日、くっついたり離れたり。

けれど狭いこの世界で、ぐるぐる、ぐるぐる。

同じ所を回ってる。

ぐるぐる、ぐるぐる。回る人生。

ふと立ち止まって空を見る。きらり。目があった気がした。

[#twnovel](#)

また覗かれていますか？ うん、この万華鏡綺麗で。

美しい青ですね。地球って言うんだ。

## 伝説の料理人

---

ある日伝説の料理人が、煮ても焼いても食えない僕のところへやってきた。

どんな素材も料理する彼が僕をじっくり吟味する。やがて彼はさらり。僕に140字の物語をくれた。 [#twnovel](#)

続きは世界のどこかに。

なんて言うからやむを得ず僕は旅立つ。

辛い別れに甘い恋。味わい深い僕の人生。

伝説の料理人が作った料理はツイッターに流れ続け、時々RTで戻ってきてはまた流れていく。

今ではもう手に入らない鶏肉を今ではもう手に入らない胡椒で味付けした料理を美味しそうに食べている人の写真。

食べてみたかった。今ではもう決して手に入らない人間を。

[@23novel](#) [#twremix](#)

## 時が暴走する

---

### [#twnovel](#)

今夜、時が止まる。この世界に流れる時が言葉が、大きなクジラに飲み込まれ見えなくなるだろう。

それは他でもない、我々 [#世界もう滅ぼしたい協会](#) の仕業。

我々は宣言する。

今夜23時頃、時を滅ぼす。君たちは目撃できるのだろうか。

それとも共に、滅ぼるすますか？

## いてんし

---

遺伝子の正体が実は胃に住む天使「いてんし」だなんて、ばかじゃない？

どうしてそこに気づくのよ。

青ざめる天使。勘のいい子は嫌いだわ。

胃の中の天使、世間を知らず。パタパタグルグル飛び回る。

私これからどうなるっちゃうの？パタパタグルグル。グルグルグル。

[#twnovel](#)

何だろう、お腹痛い

## 滅びの呪文

---

「滅びの呪文ってなんだっけ」「そう、あのバから始まる」「バカ」「そんならいじゃ滅びないって」「バシルーラ」「飛ばすだけだっけ」「バ、バ、バンドやろうぜ」「そうだそれだ、バンドやろうぜ」「音楽性の違いから」「人間関係崩壊」 [#twnovel](#)

俺ら3人仲良くやってる。バンドやろうぜは滅びの呪文じゃなかった。友情はここにある。って単に友情だけじゃなく最近ベースの彼女とはそれ以上の物も育てているのだけれど、彼女が恥ずかしがるからアイツには内緒だ。 [@hyuugahikage](#) [#twremix](#) 男二人はそれぞれそう思っていた。

。



あ、[#twnovel](#)

気づいた時には沈んでいた。

きらきら光る水面が綺麗で良かったことしか思い出せない。

彼に隣を許されなかった。その現実が全てだというのに、私は何を期待していたのだろう。

指先から泡になる。

こうしてまんまと彼の一番近くで私は眠り続けるの。

おやすみなさい。またいつか。

## 名前

---

名前をなくした私をみんなが色んな名前と呼ぶ。  
だけどたったの一つとても気になる名前があるの。  
呼ばれるとサワっと髪が動くのはそれが本当の名前だから？

### [#twnovel](#)

「恋人さん」貴方に呼ばれてドキドキするの。  
なのに今度は「奥さん」にならない？だなんて。  
奥さん。それもドキドキするわね。

## 林檎のお毒見係

---

私は林檎のお毒見係。

お嬢様の林檎を毎日毎日かかさずお毒見するのです。

今日も美味しい甘い林檎。

一口齧ってお渡ししたなら、貴方が全部食べなさい。

お寂しそうなお嬢様。決して林檎を食べません。

もしや貴女が探しているのは、ふるさとの味、おふくろの味、毒入り林檎の方ですか？

[#twnovel](#)

今日もあの子に林檎をあげる。

あの子は林檎のお毒見係。涙ながらに私が聞かせた昔話を信じてる。

今日もあの子は林檎を齧る。致死量までにまだまだ遠い、何より真っ赤な毒入り林檎。

林檎は甘い、甘い木の実。恋にも通じる。恋にも通じる。

貴方の林檎に私が入れた毒の種類は何でしょう。

[#twnovel](#)

フリ

---

あの子が淹れてくれたお茶を一口だけ飲む。

美味しくないわ。申し訳ございません。

最上級のメイドが夢なんて笑わせる。

震えるあの子を見ない、フリ。

[#twnovel](#)

慕われているのは知っていた。

けれど最上級のメイドは主人と恋などしないもの。

あの子の夢を叶えたい。だ

から恋など知らない、フリ。

## ベールガール

---

ベールガールの私に花嫁は言うの。

花嫁の秘密を教えてあげる。白い手袋のトンネルから囁かれる言葉に耳を澄ます。

今でも覚えている。今でも。

[#twnovel](#)

ベールガールに私は言うの。花嫁の秘密を教えてあげる。

少女の耳に白い手袋のトンネルから囁く。

次は貴方が幸せのトンネルを作る番よ。

## メイドさん

---

メイドさんがお辞儀する。僕の心に住みこんだ彼女は、心ここにあらずの僕のお世話を毎日欠かさない。

恋に震える心。恋に乱れる心。

彼女が言うには屋敷、つまり僕の心の中は散らかり過ぎて、整理整頓が追いつかないらしい。

「早く落ち着かれてください」とため息をつく「原因」の彼女。 [#twnovel](#)

鬼を倒すことには成功した。しかし敵は鬼だけではない。  
神様は少し考えそして鬼の時と同じ方法で、次々手駒を送りこむ。

[#twnovel](#)

梨や西瓜、川上から様々な果物が流れてくる。  
夏の日差しの下、老いて歯が悪くなったお爺さんとお婆さんはそれらを小さく切り刻み、  
全て美味しくいただきました。

## 一味

---

海賊の一味が現れた。水面に潜む彼らの存在ゆえ、この先の任務は辛いものとなるであろう。けれど敢えての選択。僕は彼らと対峙する。美しく光る、香る、黄金の水面。その赤き一味を白きうどんに纏わせ、僕は一気にすすった。[#twnovel](#) 新発売「海賊の一味」。姉妹品「海賊の七味」もどうぞ。



## 人と魚

---

お父さんと漁に出るといつもあの子に出会う。お父さんは嫌がるけれど僕はいつでもあの子と遊ぶ。きらきらの水面。飛び跳ねるあの子。あんな人でも魚でもないものに近づくな。お父さんはそう言うけれど、あの子は人でも魚でもある。それにお父さん。お父さんは僕が人だから可愛がるの？[#twnovel](#)

## #twnvday 『猫』

---

箱の中には一匹の猫が。あれやこれや色々したなら迷惑そうににゃーとなく。

箱の上からバシッと叩く。

実験中だなくな。

にゃーにゃー。

なくな。

### #twnvday

箱を開けると二匹の猫が。僕はそっと箱を閉じる。

叩く。

にゃーにゃーにゃーにゃー。

箱を開けると四匹の猫が。僕は今ではトップブリーダー。

猫耳つけてみたの、なんて僕の好きなあの子が恥ずかしそうに笑う。

どうかなって聞くから、にゃあと言えって返してみた。

いつになく素直な君が、にゃあとなく。

可愛い。

だから思わず、「ください」なんて口走ったりしたのだけれど。

### #twnvday

手渡された猫耳を装着。僕が欲しいのは君なんです。

僕のミケは女好きで、女の子を連れてくるともれなく擦り寄る。

ミケを撫でるその指先がいやらしい、なんて思っていたら彼女と目があつた。

やがてその指先が僕の下心へと

### #twnvday

ご主人は時々我らの仲間を連れてくるのだがよく見るといつも人間だ。

人間界では猫の被り物が流行なのだろうか。

今日の #twnvday は『猫』か。

楽しんでいたら、おや。

ツイッターの調子悪いのかな。アイコンがいくつか消えている。

0時を過ぎてやっとアイコンが戻り始めたみたいって消えていたアイコン、全部猫じゃない？

### #twnovel

今日は忙しかった。アイコンの猫の手も借りられるくらいにゃ。

## お盆

---

年に一度しか帰ってこられないのならお正月よりお盆がいいわ。妻がそう言うので毎年お盆に帰省する。有能すぎる僕を仕事は手放そうとはしないけれど、年に一度、願いを叶える妻思いの僕。[#twnovel](#) お盆には色々なものを迎えなければならない。生きていようと死んでいようと、変わりないわ。

## 失せ物屋

---

失恋したので失せ物屋に頼んだ。僕の失くした恋を取り戻してください。 [#twnovel](#) 久しぶりに顔を出した失せ物屋。見つけましたと言うけれど手ぶらだ。恋はそこに。僕の胸を指をさす。失われてなどいません。だけど彼女好きな人がいるって。失われてないって言ってんだろ行けよ。僕は駆け出す。

それでいいの？その言葉に胸を痛めるというのはそういうことだ。そんなボロボロの恋心、そのまま胸に収めておくから痛み出す。汚れたら汚れ屋、壊れたら直し屋だ。失せ物屋は彼女を凝視する。あんた、自分の足でそういう店まで行けるのかい？ [@an2a\\_09](#) [#twremix](#) [#twnovel](#)

## 修復師

---

修復師が恋心を修復してくれた。けれど以前と似ても似つかぬ恋心。どうやらサービスらしい。ただしイケメンに限るような領域へもやすやす入り込め、僕を振ったあの子ですらもメロメロだ。初めての笑顔、初めての温もり、初めての。[#twnovel](#) ね、修復師。サービスいいや。僕は僕の恋がしたい。

## 宇宙人ダ

---

ワレワレハウチュウジンダ。公園で発声練習している人間のような集団。不審に思い尋ねると本当に宇宙人らしい。征服計画にウキウキする姿に危機感を感じ、僕は警察に通報した。はい、宇宙人がいます。待ってますのですぐに来てください。#twnovel 怪しいやつだ。捕まった僕に手を振る宇宙人。

## あと一機

---

シューティングゲーム好きの夫は今日もゲームに夢中。本当に好きねと夫の背中に話しかければ、お前もやればいいのかと画面から目も離さずに答える。ああ、死んだ。お前のせいだよ急に話かけるから。あと一機か。 [#twnovel](#) ゲームならしてる。今の会話で一機墜落。貴方自身もあと一機ね。

## 忍び寄る9月

---

忍び寄る9月は猫の形をしていた。

追いつかれるのも嫌だけれど可愛さにそっと手を伸ばす。

ゴロゴロ。もっと撫でると9月がお腹を出した途端、転がる9月は6月へ。

教会の前、雨に濡れる僕は結婚式まで戻されていた。

アイツと彼女の。

[#twnovel](#) [@naomof](#) [@kiyoshiro\\_aoi](#)



## 明太子

---

辛子と明太子は仲良し姉妹。最近、姉の様子がおかしいと妹が不安がっていると、好きな人ができたのと打ち明けられた。お相手はネットで知り合った蓮根。二人で立派な辛子蓮根を作ろうと誓い合ったと喜ぶ姉を憂う妹。 [#twnovel](#) 案の定色違いで姉は振られた。ねえ姉さん。私はずっと側にいるよ。

明太子は辛い。こんなに赤く染められてしまっは隠れることすらできない。  
あたしもうすぐ食べられちゃうの？宿命なの？まっすぐな二本に身をまかす。

[#twnovel](#)

明 太子（40才）はじめての恋。

何か

---

君の手をそっと握ると何かが伝わってきた。身体があって良かった。もしも身体がなかったのなら、得体のしれないこの何かはすぐに何処かへ飛んで行く。さよならの代わりに手を繋いだ。繰り返し味わう。僕という籠の中で飼い殺す秘密という名の青い鳥。諦める約束なんて最初から嘘だ。 [#twnovel](#)

## ネコ缶

---

漂流する宇宙船を発見したが時既に遅し。乗組員は死に絶えていた。ワレワレハ船内を物色する。ワレワレノ目的は地球食。オヤ。これははじめて見る缶詰だ。「ネ コ 缶」[#twnovel](#) 調べて見ると猫とは愛玩動物らしい。ワレワレハウんともすんとも言わないそのツナのようなものを飼い始めた。

## ぱんつ

---

ぱんつというのは見えないからこそぱんつなのだ。ぱんつとは概念。隠された狂気。見えないからこそぱんつ足りうるのもあって、つまり僕が目にしたものはもはやぱんつではないのだから君は安心して、[#twonovel](#) ばか（殴）！風の悪戯を憂う君を慰めたつもりが、乙女心は複雑だ。[#ぱんついのべ](#)

## テーブルの群れ

---

テーブルの群れが野を駆ける。人が滅び、生物が滅び、次にこの星の主に選ばれたのはテーブルたち。風を切る。気持ちがいい。けれどもどこか慎重に。あの日からずっと背中に乗せたままの夕食はすっかり冷めてしまったけれど、団欒の温かさが懐かしくて捨てることなどできなかった。[#twnovel](#)

おれおれ

---

[#twonovel](#) 母さん助けて詐欺(オレオレ詐欺)で騙されないための特別講座を開きます。みなさん、これを機にご自分の財産を守る方法を学びませんか？希望者の方は下記口座まで5万円お振り込みください。

## 異国の歌

---

幽霊がくるぞ。夜更かししているとパパが言う。ぎゅっと目を閉じても眠れないそんな夜、いつも彼女がいてくれた。異国の子守歌で夢の世界に導いてくれる、この辺りには珍しい黒い瞳のメイドさん。最近姿をみない初恋の君をパパに尋ねると、そんなメイドはうちにはいないって。それじゃ。 [#twnovel](#)

## 幽霊屋敷

---

恋に落ちたのはこの辺りでは有名な幽霊屋敷。肝試しによく使われる。怯える君に一目惚れだった。いきなりだけど手を繋ぎたい。けれどできないこのもどかしさ。戸惑う君。心配しないで。だって僕ら、未だスカートの中身まで気になる関係じゃないんだから。足なんか無くたって大丈夫さ。 [#twnovel](#)



## 探偵さん

---

「探偵さんお願いですどうか私と館へ」「館、つまり密室殺人」「いいえ死体はありません」「ほほう、死体なき殺人」「いいえ殺人はまだです」「まだ？」「お願いします貴方の評判に賭けたいんです！」「評判？」「いくところ必ず死体ありなんですよね。私、どうしてもあの人を」  
」 [#twnovel](#)

## 青い鳥

---

青い鳥を見つけた。探し続けた青い鳥はこんなに近くにいたのだ。友達に自慢する。すると彼は僕を嘘つきと罵った。青くなんかないじゃないか。何人もの人に見せた。青くはないなと笑われた。僕は鳥を確かめる。するとみるみる色を失う青い鳥。不幸せな僕に、青い鳥はもう見えない。 [#twnovel](#)

## うちあげ

---

打ち上げの中止を見届けると僕は君に告白していた。  
何もこんな時と言わんばかりに驚いた顔の君。たった今、解った。  
例え告白が成功しても失敗しても、それは僕には通過点。  
それが僕のゴールではない。  
予定通りの打ち上げがロケットのゴールではないように。  
だから、急がなければ。

## 青い糸

---

目覚めると目の前で大好きなあの子と彼が青い糸で結ばれていた。いきなりの仕様変更で戸惑う僕。繰り返されるやり取り。やがてあの子と彼の青い糸が、僕には赤い糸に見えてきた。誰とも結ばれない僕は、いつかきっと、彼と彼女におめでとうを伝えることになるのだろう。青い糸で。 [#twnovel](#)

知ってる？最近青い糸BOTが流行っているんだって。仕様変更で繋がりが見えるようになったでしょ？自分だけ誰とも繋がってないと悲しいからなんだって。結構みんなフォローしてるらしいよ。え？そのBOTをフォローしてる時点でぼっち決定じゃないのって、カンのいい子は嫌いだよ。 [#twnovel](#)

青い糸のお陰で貴方の浮気相手、特定しやすくなるわね。彼女がそんなことを言う。怖いなー、なんて相槌打ったけれど女って浅はかだ。君に見えるのは共通のフォロワーだけ。隠された浮気相手とのやり取りは目立たなくなる。 [#twnovel](#) この女ね。私に紹介してくれないのに凄いリプライ数。確定。

## 貝の歌

---

貝殻を耳に当てれば真夏の恋を歌い出す。一目惚れ。告白。手を繋いで。口づけ。そうして。それから。最後にお別れって同じ貝がもう5つだ。つまり5年も愚かな恋の繰り返し。ぽとり、落ちた涙は海の匂いがした。何を大事にしてるんだろう。集めたところで愛になんかならないのに

。 [#twnovel](#)

怖い話は正々堂々と怖さで勝負すべきだ。驚かせて喜んでちゃいけないだろう。そういうことで、恐怖シーンの10秒前からカウントダウン表示を行うことになった。[#twnovel](#) うわっびっくりした。このカウントダウン急に出てくんのすげーびっくりするからやめて欲しいわって怖いところ見逃したし。

## 夏のおわり

---

夏休みの宿題終わってないから手伝ってよね、と言われた。ハイハイいつものことですよね。お隣のきみんちへ向かう。ピンポン。#twnovel 扉を開けるとそこには、いつもとは違って変わった清楚なワンピース姿の君。「絵日記が残ったの。ネタ提供しなさいよね」控えめに差し出された震える手。

## 夏休み、友達やめたって

---

夏休みの宿題が終わらないので悪魔と契約した。

さあ、このどうにもならない宿題を、さあ。

一目見るなり悪魔は驚いた顔をした。

「お前、あいつと友達やめたのか」もう夏休みの友じゃない。

「俺、実は前からお前と友達になりたくて」悪魔は宿題を抱いて、ってちょっと待て僕の宿題。



## 自由研究

---

自由研究を目の前にして僕は考える。この研究に立ち向かうのは自由だ。ならば当然立ち向かわないのも自由だろう。自由、自由。僕は自由だ。[#twnovel](#) 真っ白な模造紙を前にそう説明すると先生はわかりましたと頷いた。そしてその旨を自由研究としてこの模造紙にまとめてくれる？  
自由とは。

## たつきゅうびん

---

印鑑を持ってドアを開けたら、そこにいたのは宅急便じゃなかった。

「たつきゅうびんです」けれどそう言うのだ。

印鑑を。何故か拒めず従うと、「では私の目を覗きこんでください」

猫の目のようなそれはぐるぐる回り、僕を深い眠りに突き落とした。

[#書き出し](#)

「宅休便ですにゃ」

貴方に春眠をお届け。

## 九尾猫

---

九尾の猫が囁く。

ちゃんと我の意見も聞いてにやもれって。

聞ってるだろ。聞いてないにや。

仕方なしに僕は聞き直す。

[#書き出し](#)

手を挙げる君と僕。

さっきと同じだと言うとよくみるのにやって。

つまり君はその9本の尻尾も挙手をしているといたいのか。

そうにや。

多数決でそのプリンは僕のものにや。

## コーヒーのお供

---

コーヒーにミルクか砂糖かなんて、子供の自分にとっては違いが分からないのです。

どちらも甘いものに変わりがないじゃないですか。それと同じです。

君達から一人を選ぶなんて僕にはできない。どちらも甘いのに。

え？

子供の貴方はコーヒーじゃない？

それはごもっとも、あ、二人共いかないで。

[#書き出し](#)

## サイダーの泡

---

サイダーの泡と一緒に消えたのは、消えていくのは僕らの。

[#書き出し](#)

向い合う僕ら。

君が別れの理由を、ひとつ、またひとつ呟くたびにサイダーの泡が弾けた。

すっかり融けた氷。

吸い込めばもうぼんやり甘いだけの砂糖水だ。

解っていた。僕らと同じだ。

君の求めに頷いて応じる。

最後の泡が今、消えた。

## いろいろ

---

君の心から悲しみのブルーを奪った。深いブルー。これで君は悲しめない。

焦がれ始めたからピンクを、恨み始めたからブラックを。

次々と奪っていく。

彼への気持ちが色づく限り、惨めな僕は全ての色を奪いさる。

君は色色失った。

なのにどうして、残された心でそんなに綺麗な色を創りだせるの？

[#書き出し](#)

## 建築士

---

人生一級建築士の試験は三日後だ。

実技練習を繰り返す。

人物、男。可愛い子と恋をする。相手、妹でいっか。可愛いんだけど素直じゃない。

異世界に飛ぶのもいいよね。

[#書き出し](#)

毎度同じような人生にしてしまう。

ま、でも本番は本物の人間の人生だけれど、練習は本の登場人物の人生だし。

キニシナイ。

## 桜アレルギー

---

私、桜アレルギーなの。

花見の誘いを断られた。そんなアレルギーあるもんか。僕は体よく振られたのだ。

案の定、桜並木で君を見つけた。

気まずそうに僕を見る君の目には涙。

「元彼にここで振られてから桜が辛くて」

だからお花見行けないのって。

ねえ、君がここにいるのは未練？それとも訓練？

[#書き出し](#)



## ゆめみる

---

どんなものでもすぐに夢にした。

いつか叶えばいい。僕にとって夢にしてしまうことは先送りにすること。

なんでも気軽にそうしていたならある日管理局がやってきた。

これ以上は管理料をとりますよ。

課金説明、ああなんて面倒臭い。

管理料など減れば、おっとよそう、また夢になるといけない。

[#締め](#)

## 70%チョコレート

---

あなたは何でも許してくれた。

口づけもそれ以上も。

恋がしたい。僕の願いは確かに叶ったはずなのに。

ねえ、数年前に流行ったカカオ率の高いチョコレートを思わせる感覚が、あなたにはわかりませんか。

この飢餓感をあなたは。

[#一文](#)

貴方の飢えを感じる。今なら甘さが引き立つかしら。

恋は効果的に。

## 雪解け

---

雪解けの大地に、似つかわしくない花だった。

昨日まで雪の下にいたとは思えないほどに大きく咲き誇るその花の生命力に僕らは感動したのだ

。[@hyuugahikage](#) [#書き出し](#)

花が全ていいものだってどうしてそう思うの？

私、[#世界もう滅ぼしたい協会](#)の会員。

ここから世界を。[#半滅亡祭](#)

## 二重人格

---

二重人格が流行り出した。

みんな違う人格を買ってもらってる。

なのにうちのママときたら必要ないって。

「ママに愛されるいい子の人格」それが欲しいのに。

買ってくれたらいい子になるよ。ママもいい子が好きでしょう。

何度言っても買ってくれない。

ママにはきっと子供の気持ちがわからない。

[#書き出し](#)

## 問

---

私は問うのが好きなのです。だから貴方と共にいたい。

彼女の言葉に僕は戸惑う。

恋などすれば、このままならぬ運命は更に翻弄されるだろう。

でも愛したい。

10km先の花屋で花を買って贈ると彼女は、そんな貴方が好きなのと笑った。

[#書き出し](#)

問 タカシ君は10km先の花屋に花を買いに行きました

## お伽話

---

ママの話すお伽噺は私の夢物語。

いいな私もシンデレラみたいになりたいな。

頑張ったのならきっと叶うわ。

私、絶対叶えてみせる。

[@Gomapp26](#) [#書き出し](#)

0時の鐘が鳴り響く。

「帰ります」「いや、まってまだ」「終電ですから」

憧れのシンデレラ。

なぜそこ、なぜそこだけ叶ったし。

## 旅する本

---

読んでない本たちが家出してしまった。

時々、僕にメールをくれる。

凱旋門ナウ。自由の女神ナウ。

奇跡の軌跡でやがて世界一周を果たし僕の本棚へと戻ってきた。

世界中の言葉で書かれた面白かったの文字。

そして、たまには読んでよねと見慣れた文字。

よく見れば妻から贈られた本ばかりだった。

[#書き出し](#)

## 言葉雨

---

言葉の雨が降ってきたので、傘をさした。

昔はもっと柔らかい言葉が降っらしい。

けれど今のはとんがっていて布の傘ではしのげない。

カツンカツン。

君も軒下で雨宿り。

傘をさしかける。ありがとうって、むしろそれって僕のセリフ。

ススキのしずくを君の髪にこっそり飾って甘く優しい帰り道。

[#書き出し](#)



## 天才証明

---

後天性の天才にありがちなことだが証明に悩んでいた。

突然、才が降ってきた証。これで通るかな。

心配しながら役所へ向かう。

### #書き出し

「天才証明ですね。受理です」

「証明は？」

「貴方はいいです」

「え？」

「だって少し前までの貴方ってぷぷっどう見ても天才転したとしかぷぷっ」

是非、証明したく。

## 砂糖漬けの少女

---

砂糖漬けの少女にくちづけを捧げたならばできあがり。

世界で一番甘い少女が僕に向かってペコリー礼。

砂糖培地に埋まった足を僕の手を借り抜け出した。

ねえ待ってたよ、さあ行こう。

### #書き出し

君は可愛い砂糖少女。紅茶に溶かれる儚い身。

あいつになんか渡せるものか。溶けない夢を、僕と見よう。

## 人生の参考書

---

人生の参考書を買いに本屋へ向かうと、店員さんに尋ねた。

「欲しい本があるんですが」

### #書き出し

「はあ？」

店員さんは冷たい視線が痛い。

「あんたバカ？参考書って何言ってんの？そんなのね」

やっぱないのか。

「全部よ！」

さあ選びなさいとばかりに眼鏡の奥が光る。

じゃあ、じゃあ僕は店員さんを。

## 黄金の物語

---

王道ストーリー達が本気を出した。

ありきたりの展開。想像通りのラスト。

そんな言葉に否定されている場合じゃない。

それでも、いい。そう言わせたい。

王道といわれる僕ら、さらなる王道を目指す。

磨き上げられ燦然と輝く黄金のストーリーは眩しすぎて見えずに、邪道と呼ばれた。

[#書き出し](#)

## 図書館デート

---

図書館デートとは、現実には起こりえない、幻のデートプランである。

今や図書は都市伝説で図書館跡は廃墟だ。人はもう、夢をみない。

### #書き出し

「考え事？」「何でもないよ」

結婚以来変わらぬ笑顔の妻。彼女は昔、本の中にいた。

かくもの全てが現実になってしまうこの世界で、本や絵画を懐かしく思う。

## スターダスト

---

「スターダストってちょっとオシャレな響きだけどさ。日本語にすると星のゴミなのよね」

「お前なあ……」

「だけど綺麗。どうせ綺麗と言われないなら私はゴミと呼ばれたい」

「ゴミ」

「あ、いいかも」

### #書き出し

それからというもののゴミと罵ると喜ぶ彼女。

その方面に目覚めたのではないかと少し不安だ。

## 藤のかんざし

---

藤の花かんざしが可憐なふりした彼女を飾る。  
なんの不思議もないはずなのに、なのに違和感。  
よく見ると、彼女の顔が、手が、白い。  
先程よりも開花がすすんだ花かんざし。  
違う、あれはかんざしじゃない。あれは藤。  
藤は絞める。  
彼女を、そしてきっと吸う。  
何よりも美しく、何よりも艶やかに。

[#書き出し](#)

## 方程式

---

方程式は空き家に棲みついた。

あんな解き方は耐えられなかった。難解とはいえあれほど酷い辱めは。

あれならいっそ解かれぬままの方がいい。

誇り高き方程式は眠る。百年だって、ううんこのまま死んでも構わないわ。

[#書き出し](#)

噂を聞きつけた学者たちは挑む。

一番美しい解法で、彼女に口づけるために。



## おじいさんとおばあさん

---

昔々ある所におじいさんとおばあさんがいたのに、

二人は別居を繰り返しておりました。

これでは困ります。

よいこの昔話が始められません。

さらなる出資のかいもなく、浮気、ドラッグ、やがて二人は裏社会へ。

けれど、諦めてこの現実を著した書籍は想像以上に売れました。

めでたしめでたし。

[#書き出し](#)

## なまえをつけてやる

---

人間は何にでも名前を付ける。  
そうすることで対象に愛着を持てるからだ。  
だとしたら君の行動はある意味妥当なのかもしれない。  
君は僕にひと君と名付けた。

### [#書き出し](#)

くろちゃん、かさお君。  
お化け屋敷の化け物たちに次々名前をつけていく君。  
僕は一つ目小僧のひと君。  
また君に、会えるかな。

## さすらいの鯉のぼり

---

さすらいの鯉のぼりと出会った。

俺は旅をしているのさ。

大人の雰囲気、カッコイイ。

お前はどこへ行くところだ。

そういえばどこだっけ。

わからないか。

忘れちゃった。

そうかそれじゃあ共に行こう。

[#廻る五月](#) [#書き出し](#)

さすらいの鯉のぼりは迷える子供の魂を救う。

背中に乗って、天高くいこう。

種

---

争いの種なんて、どこにだってある。

そこに目をつけた。

時給750円、パートのおばちゃんたちが職人技で種を集める。

時々自分で作ったりもする。

集められた争いの種。

袋詰めされ全国へ。

最近では柿の種に訴えられ、大量生産できているとかいないとか。

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

## しあわせになりたい

---

アナタ、幸せになりたいんですか？でしたらこちらをどうぞ。

ええ、大丈夫です。みんなも幸せになれるから。

勧められるままそのバッチをつける。

### [#書き出し](#)

幸せだった。何をされても幸せに感じた。

裏切られても、放っとかれても。

それを見た回りの人たちも笑う。

良かった、みんなが幸せになれた。

## パワポ

---

僕がパワースポットであることが判明した。

ネットには僕の隠し撮り写真がバンバン貼られている。

いつの間に。

話をするとパワーがさがる？なにその噂。

それじゃあモテが味わえない。

僕はそっと掲示板に書き込んだ。

「キスをすると幸せになれるらしいよ！私の友達が実際に」

[#書き出し](#)

さあ、こい。

## 窓

---

窓屋さん、物語の世界を覗く窓をください。

まあどうせ無理でしょうけど。挑発に奮起し窓屋は窓を持ってきた。

さあ物語の始まりだ。

### [#書き出し](#)

「ねえなんか面白いことしてよ」

「つまらないお話」

窓の向こう側からこちらを覗くヒロインたちが私を笑う。

「彼氏、まだできないの？」

余計なお世話です。

## 媚薬

---

みなさま、お手持ちの魔道書をご覧ください。そうそう、328頁、媚薬の項です。

### [#書き出し](#)

魔法を学ぶ僕にもわかる。薬なんかじゃ人の心は動かない。

けれど授業だ仕方ない。レシピ通りに薬を作ると先生はニヤリと笑った。

「さあ飲んで私を見て。私を好きになったら合格、単位をあげる」

先生……



## 思い出の君

---

ここも潮時かな。ガタンゴトン。

線路沿いのこのアパート、結構気に入っていたけれど。

君の罪を完璧に背負うために、あれからずっと会ってない。

そして多分、二度と会わない。

思い出の君は綺麗になって、僕は汚れていく。

けれどそれこそ愛の証。汚れることで君への愛を僕は証明し続ける。

[#一文](#)

## 予言

---

その予言は現実味がなくて、それでも絶対なのだというの。

君と僕はキスをするって貴方にそれを言われても。

親友の彼氏、だからそんなのあり得ない。

### [#書き出し](#)

彼と彼女と三人一緒に、並んで歩く帰り道。

空が青くて、とても青くて。

あの予言は誘惑だった。

ねえ、先に叶えたがるのは私？それとも貴方？

## 魂の値段

---

魂は税込398円だった。初回はいつだってお安い。

どうしても手に入れたかった。

この手軽さなら自分にもできると思ったし、神に生まれたからには一度は作ってみたい。

何を作るかって？趣味の器です。

[#書き出し](#)

天地創造シリーズ、魂の器作り「人間」は36500回で完結。

天国書店で好評発売中。

## 専属

---

主君直属の暗殺者だよ。

そう言って突然表れた女の子は何やらポーズをとった。

父の後を突然継ぐことになった俺には戸惑うことばかりだ。

「つまり俺の望む相手を殺してくれるってこと？」

尋ねると女の子は花が咲いたように笑った。

「違うよ殺すのは」

次の瞬間、視界が赤い。

「主君だけだよ！」

[#書き出し](#)

## 王子不足

---

近年、深刻な王子不足により、物語の世界に異変が起き始めている。

けれど心配はいらない。歴史的にみても珍しくはない。

誰でも王子にしていればいいのだ。

死体好きや靴フェチ、人違いして結婚するうっかり者、嘗て沢山の欠陥王子が作られた。

けれど。物語的にはかえって良かったらう？

[#書き出し](#)

## かきごおり

---

銀のスプーンで青空をすくいにとって、ぱくり、みたいな気分で食べるブルーハワイ。  
キーン。

こんな日差しの眩しい日にはかき氷が、暑い日、あら？  
まだ夕方だというのに外は寒くて真っ暗だった。

### #書き出し

あれから青空を見かけない。

この銀のスプーンも思えば見覚えがない。

私が食べたのはかき氷よね？

## 眠るきっかけ

---

眠るきっかけ、くださいな。

今日のわたしを満足させて。そして明日にワクワクさせて。

楽しい夢なら明日を容易く今日に変身させるから。

だから。

あー眠い。

眩く私に誰かきっかけ、くださいな。

[#書き出し](#)

「1件のあたらしいみんなの反応」にドキドキする。

「寝ろ」ああ、BOTさん。ありがとう。。。

## 魔女の魔法

---

魔女の魔法で誰とも言葉が通じなくなってしまった。

仕方なく僕は睨んだりないたり噛み付いたり擦り寄ったり。

あらゆる手段で気持ちを伝える。皆が気持ちを察してくれて僕はそれほど困らない。

むしろ言葉が通じた時より僕は皆と仲良しだ。

どうしてかな。

疑問はニャーと鳴き声に変わる。

[#書き出し](#)



もしも

---

もしもの話をしようか。そう、もしも。

もしも、それが完璧だったら物足りなくてもやもやする、なんてこともなかったらうね。

ずっとずっと、そう思ってた。

もしも、ももも。

ああ。僕はもももの方がいい。

逃げだした、「こ」の行方、もしもよければ、僕と一緒に探さない？

[@aszkrmkt](#) [#書き出し](#)

## 目覚めの朝

---

きつとこれは、私の最後の夢だ。

思い通りの王子に出会えず百年の夢、もう何度も繰り返してる。

だけどそろそろ夢見ていられる年じゃない。

私、次の目覚めに全てをかける。

[@hyuugahikage](#) [#書き出し](#)

口づけで目覚める百年目の朝。目の前には…………チッ。

[#世界もう滅ぼしたい協会](#)

## 口からあなた

---

くしゃみをしたら、口からあなたが出てきた。

俺は噂なんかしてないよ？ってバツの悪そうな顔。つまりしていたのね。

ヘラヘラ笑って私の中に帰ってく。

どういうつもりか知らないけれど、あの日からずっと、私の心に住みついたあなた。

別にあなたのことなんか。

ねえ、どんな噂をしていたの？

[#書き出し](#)

## 迂闊に

---

迂闊に結婚するものじゃないわ。

ママはそう言って死んだ。

硝子の靴に閉じ込められ続けたその足は未だ私より小さく見えた。

やがてパパは新しいお妃を迎える。

継母に追い出され毒林檎の危機を乗り越えた私は王子様に求婚された。

迂闊に結婚するものじゃないわ。

今から言う物を下さったなら。

[#書き出し](#)

どこそかな、あかしたな。

そこらかな、はまやらわ。

みない？ を。

しない？ ん。

ああもうねえねえ、ええとなあに？

### [#書き出し](#)

片言の日本語練習を終えた君が、片言のピアノレッスン中の私の手元を見る。

ソモラもミもシも知らないの？

わからないわ、だって。あなたが教えてくれるのを待っているの。

## 空からパスタ

---

空からパスタが降ってきた。  
だってあの子が今日はパスタがいいわって。  
だから僕からサプライズパスタ。  
なのにあの子は笑わない。  
お次は空からパスタソース。3, 2, 1, ドーン。

### [#書き出し](#)

きらきらボロネーゼ。はじけるボンゴレ。  
あの子は言った。  
カルボナーラがないなんてサヨナラだわ。  
ぐすん。

## 呪文

---

この呪文知ってる？知らないなんて言わせない。だって私、貴方にこれを使ったの。

[#書き出し](#) [@\\_tangeline\\_](#)

そう言われてもどんな効果か解らない。

考えてたならばびれを切らし、私に恋する呪文なのって。

それなら解るはずなどないよ。

君が僕に気がつく前から、ずっと前から君のこと。

## とげなし

---

棘を抜いてしまえば、私はただの花だったあの頃に逆戻り。

誰も傷つけない代わりに私ばかりが傷ついた。

そんなの嫌なの。誰かを貴方を決らなければ白い私は赤いバラにはなれなくて。

そんなのちっとも綺麗じゃない。

[#書き出し](#)

そんなことないよ。

白バラに彼が口づけると、ほら。素晴らしく綺麗な赤に。



## 魔王恋人

---

恋人が魔王に拐われた。

聖なる力も無ければ強大国の姫でも無い、ごく普通の女の子なのに、何故？

[@ryuka511 #書き出し](#)

これは何のテストだろう。

なぜなぜ？それとも心理テスト？

僕を困らせ楽しむ君が可愛くて仕方ないと思ってしまったものだからこう答えるしかない。

「恋してるから」

君に。

## 美味しいカレーの作り方

---

カレーはスパイスが肝心。

だから、ね。僕はあの子に甘いスパイスをお願いする。

他意はないよ。だからお願い、嘘でいいから恋の言葉をどうか僕に。

[@oto\\_no\\_ya #書き出し](#)

スパイスを作り出した彼女は、僕に手を振り彼の元へ。

甘いだけのはずだったのに、そのカレーはなぜか苦くて。

## キレイゴト

---

綺麗事がお好きでしょう、綺麗なことが空事が。

歌うように誘う女がするり解く帯に見惚れた。お前は物の怪の類か。

そうかも知れませぬ。きっと祭りで貴方がすくった金魚ですわ。

### [#書き出し](#)

本当は覚えていた。昔遊んだ幼馴染み。

10年も前に売られていった。面変わりした彼女に事の次第など聞けない。

## ネコ被り

---

僕はネコを被り続けるのさ。  
貴方の側にいるための儀式。僕はいつでも貴方好みのいい子ちゃん。  
牙なんて剥かない。  
だって僕はオオカミ被りなんかじゃなくってネコ被り。  
ねえ、だからこっち向いて。キスしてあげる。

### [#書き出し](#)

ぺろり。  
あははもうお前ってホント可愛いなー。  
可愛いのはご主人の方にゃ。

## 震える字

---

いつもより汚い字を、いつもより丁寧に書いた。

いや、いつもより汚いからというのが正しいのか。

大人になるにつれ、僕ら失うことに慣れていくね。僕も大抵のことはもういいかなって思ってる

。

けれど君への気持ちだけは。

はじめての恋文がこんな震えた遺書だなんて、君は許してくれるかな。

[#書き出し](#)

# 魚

---

きみにってそれは蜘蛛の糸だったよね。

地獄に垂らされた救いの道。

道の向こうに愛する人がいるというのに迷う乙女がいるのだろうか。

行く手がどんな世界でも僕がどんなに愛しても。躊躇う理由などあるわけがない。

[#締め](#)

パク。ひかれていく。

眩しい飛沫キラキラ。釣られるきみは恋する魚。

## 村人AB

---

村人Aと村人Bは魔王のもとへ向かった。

「魔王の城はこっちだ」しか台詞がないのに耐え切れなかった。

面接を受けた。合格。君たち今日から魔王です。

### [#書き出し](#)

突然のことに驚きながらも万全の準備で待ち受ける。

勇者はこない。暇。状況を尋ねる。

「道案内の村人がいなくて辿りつけないみたいです」

## ベクトル

---

僕ベクトル君、君ベクトル空。視線がいつも絡まない。別にいいケドなんか変。空ベクトル僕で完成だ。空の視線を向きたい僕は、てるてる坊主を大量生産。さあ見る見たなら晴れてみる。[#書き出し](#) 「てるてる坊主ありがとう！」遠足に行けるって喜んだ君ベクトル僕。ってそんなつもりじゃな、くもない。



この [#twnovel](#) は嘘だらけ。

ホントのことだけ書けるのならば、こんなタグには逃げ込まない。

もしかしたならあなたが読んでも、物語には見えないかもね。

けれどこれこそ、私にとっては物語。

嘘ばかりのこの文章が、私の日々を支えてる。

[@1\\_dark #twremix](#)

この [#twremix](#) タグは夢だらけ。

どんなに辛い物語でも、素敵な世界へリミックス。

明るい未来を次々著してみんな一緒に幸せになろう。

大丈夫。あなたにだって必ずできる。

どんな地獄も、裏を返せば天国よ。

[@hyuugahikage @1\\_dark #世界もっと愛したい協会](#)

## 変身

---

実は人間は変身できるのです。

一部のヒーローや魔法少女の特権ではなく、科学の力で別の姿に変わることが可能です。

ツイッターにログインしてください。

理想の自分を演じましょう。

やがていつかログインなんかしなくとも、

それが自分になることもあるかもしれません。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 滅亡

---

この [#twremix](#) タグは滅亡だらけ。

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) の活躍で幾度と無く滅びる世界。

ところでいつになったら悲願は達成されるのかしら。

これがいっぱいになったら。会長に手渡された会員証には話を作るごとにスタンプが押される。

長い。

[@hyuugahikage](#) [@1\\_dark](#)

止められて良かった。こんな状況では、世界を滅ぼしてなど欲しくない。

出来ればそう、密室で。

[@hyuugahikage](#) [@1\\_dark](#) [#twremix](#)

探偵は夢想する。

どんなトリックにも飽きた今、大物被害者でモチベーションをあげたい。

世界なら申し分ない。だから。どうか滅亡は密室で。

探偵は密室にいる。僕の願いどおり、世界はここで滅びた。けれど。

僕がこの部屋を出てしまえば、密室が崩れる。どういうことだ。

汚れた手。つまり。

[@hyuugahikage](#) [@1\\_dark](#) [#twremix](#)

滅びたのは約束。探偵が犯人というシステムエラーでこの本はあと3秒でモエツキマス。

冷たい目をしてあたしのことを見下す癖に、またあたしを使うのね。

あたしのことをお金で買って気持ちよくなるんでしょ。

いいわ、いれて。さ、はやく。

[@rangming](#) [#twremix](#)

お金を入れたら3分で物語を書きあげてくれる自販機、三分作家。

行き詰った作家達がアイデア求めて列をなす。

## 悪魔に魂

---

悪魔に魂を売り渡してみたものの、何も変わらなかった。  
対価に貰ったものも粗品程度。悪魔なんか所詮この程度だ。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

人間に魂を売り渡されたが、何も変わらなかった。  
粗品程度にしか価値の無い吹けば飛ぶような軽い魂。  
この人間、ハズレ。

## 在庫一掃処分

---

君がやって来て、口づけを一つ授けてくれた。

あまりの唐突さに理由をたずねると、慌てて

「在庫一掃処分なんだからね。べ、別に好きな訳じゃ、したかった訳じゃないんだから」と告げて去っていった。

残り物とはいえ、お返しをしないと失礼だよな。

僕は君を追いかける。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 種

---

[#twremix](#) の種は、[@1\\_dark](#) はじめ、たくさんの方がまいてくれる。

蒔かれた種に適した温度と栄養と水を見極めて与える。

時間と引き換えにリミックスの芽は出るけれど、花が咲くかは運次第。

綺麗に花を咲かせたい。

何度も種を蒔きたくなっちゃう、そんな花を咲かせたい。

さくら

---

やれやれ。

お巡りさんは枝をもって桜の元へ向かった。

工具を取り出すと枝を元のところに止め直す。できた。再起動。

[@nemu\\_tatibana @1\\_dark #twremix](#)

桜が機械化されたのはそれほど昔の話でもないというのに。

今年も進歩に振り落とされた害虫の駆除に追われる。



## ノレパン

---

怪盗ノレパンを追い詰めた。

追い詰めると逃げ出すノレパン。

ノレノレノレノレノレ。

遠くへ、もっと遠くへ。

残されたパンはスタッフが美味しくいただきました。

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

## ホームジ

---

どうしてホームジは今頃になって現れたのだろう。

「あなたが探しているのは本当に彼？」

私は問う。

「そうとも。名前に私と同じ文字を持つ、」

「いいわ来て」

[@nemu\\_tatibana #twremix](#)

墓の前で愕然とするホームジ。

「ノムパソじゃない、だと？」

間違えすぎやろ。

## 囚われの

---

運命に囚われたお姫様を、誰も助けてくれません。

助けようがありません。みんな黙って見ているばかり。

自由になりたい。はやくここから逃げ出したい。

もがけばもがくほど網は絡まり、お魚のお姫様は網の中、せめて末路を夢に見る。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

お刺身が良かったのに焼かないで。

「情報化社会にもほどがあるよね」

「24時間新しい情報に対応しなくちゃ時代遅れなんてさ」

「だからこそ俺達がこの地位にいられるわけだけどな」

[@1\\_dark #twremix](#)

着メロが鳴った。

「おい人間でろよ」

「お前いい加減人間に名前つけてやれよ」

「たかがスマホホルダーに名前？キモ」

## 彼と彼女

---

「偶然」

あいつがポンと私の肩を叩く。

帰り道の駅でよくあいつと会う。本当は少し偶然じゃない。  
だって。

私、長いこと駅にいる。

別に待ってるわけとかじゃないんだけど。ないんだけど。

[@ce1039](#) [#twremix](#)

見つけた。少しだけ観察して声をかけるのが僕の日課。

明日も会えますように。

## ダウン

---

物語がいつまでたっても始まらない。

物語が始まらなければ [#twremix](#) ゴールデンタイムも始まらない。

「遅刻します」のツイートすらないなんて。

おかしい。

私は、[@1\\_dark](#) を検索する。

おや、名前が変わっている？

23時の夢。

さよなら物語。23時は夢の中。

## 奥さんゲーム

---

奥さんにゲーム機能が搭載された。

「お帰りなさい、ご飯は？」「食べてきた」

「お風呂は？」「入ってきた」

「あら、どちらで？」「あ、いや、」

1機消滅。これで、最後の1機だ。

「さてと、何話そっか？」

このゲームずっとやってる気がするけれど、本当に最新型？

[@1\\_dark #twremix](#)

## どの子

---

「人魚姫と白雪姫とシンデレラ、誰が可愛いでしょうか？」

「そんなのきまってんじゃんそれは」

「ちなみに今あなたの後ろから、

無言でナイフを突きつける子と林檎に毒を注入した子、  
ガラスの靴を投げつけようとしている子がいるようです」

「みなさまとてもお美しくて」

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

「地震、雷、火事、親父、最強なのは誰でしょう」

「親父ですね」

「ほう」

「今あなたは誰と聞いた。この中で人は親父だけです」

「さすが。確か貴方は世界一の名探偵の」

「おっと名前は言わない方がいい。次の被害者が貴方になります」

[@nemu\\_tatibana](#) [@1\\_dark](#) [#twremix](#)



げきおこ

---

世界が滅んでしまったので、ツイノベを書けない。

ツイッターまで滅びたからだ。

読み手なしでは楽しくないし、激おこポンポン丸！って思っていたなら神様が言うの。

「あった時からそれほど読み手いないじゃない」

カム着火ｲﾝﾌｪﾙﾉｯｯｯ材材ウ！

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 本当の自分

---

自分探しをしていたら、本当の自分を見つけた。

本物は強く賢く美しく、心優しい力持ち。

どうしたらそんな風になれるのかと尋ねたら、誰かの真似をせずに自分を信じて頑張るのだった

。

ありがとう理想の私。

帰ったら早速貴方の真似をしてみるわ。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 鳥

---

空色の小鳥が、ため息を食べていた。

告白を、怒りを、悲しみを。

全て飲み込むその鳥に、僕らは次々と言葉を与え続ける。

あなたに届くように。誰かに届くように。もしくはどこかへ流れるように。

言葉を糧に小鳥は歌う。

喜びを、悲しみを、もしくは、呪いを祝福を。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 宝のありか

---

おにぎりにかぶりつくと、中には一枚の紙切れ。

もしやここに財宝の在り処が？

大急ぎでおにぎりを胃の中へと押し込むと、僕は紙を開いた。

「とうとうここまでたどり着いたか。財宝の真の手がかりはこのおにぎりの海苔の裏だ」

僕は呆然と自分の腹を見た。ぷっくり。

[@1\\_dark #twremix](#)

## 選択肢

---

世界を滅ぼすために、[#世界もう滅ぼしたい協会](#) は身を滅ぼすほど美味しい酒を作ったが、[@1\\_dark](#) が、「酒持ってこーい」とすべて飲み尽くしてしまうため、「うちにはお酒を買うお金がないの」と嘘をつくか、[#twremix](#) への協力要請をとりやめるのか、苦しい選択を迫られている。

## セット

---

「優しさ、ひとつ」

「恋のはじまりもセットと一緒にいかがですか」

「単品で」

「でしたら甘い言葉の入ったこちらのセットなどは」

「単品で」

「切ない」

「 単 品 で 」

[@1\\_dark #twremix](#)

「あの子攻めるわね」

「失恋したての女子にはポテトだって進めない方が無難なのに」

## 生きていた

---

実は被害者は今も生きていた。

絶命寸前の惨劇を生き延び息を潜めてその時を待った。

気づかれてはいけない。この儀式が終わるまでは。

[@1\\_dark #twremix](#)

探偵は犯人の名前を高らかに宣言する。

もう少しよ。謎が解けるまでは邪魔しちゃいけない。邪魔したならば。

事実は小説より奇なり。

## フォローさん

---

私の可愛いフォローさんたちが、今夜も [#twremix](#) を青い鳥に託して送ってくる。  
鳥の頭をよしよしなでて、ご褒美の動画を見せてあげる。  
鳥達はくるっくと首を傾げるけれど気にしない。  
今宵も、[@1\\_dark](#) は趣味に走る。



## 捕食

---

花には蜜蜂がよく似合う。

鮭には熊がよく似合う。貴方には私がよく似合う、と思わない？

似合うけれどもなんだか全て捕食関係みたいだねって、それって何かいけないの？

どちらがどちらを食べるかなんて、そんなの決まっているじゃない。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

どうでもいいですよー

---

空からどうでもいい人がふってきた。

誰にも受け止められず醜く潰れるけれどどうだっていい。

私は空を見上げる。

誰かの運命になりたい人たちが次々と降ってくる。

けれど目を凝らして見極めて。

妥協しない同情しない。

屍なんかは越えていこう。

私だけの、素敵な物語を手に入れるために。

[#書き出し](#)

## 悪魔

---

[#twremix](#) の悪魔はパートのおばちゃん、今夜もいやいや働いている。

もしもどのツイリミもぱっとしないなという時は、おばちゃんが仕事をしたくない時である。

だから、ツイリミクラスタを責めてはいけない。

時給700円のおばちゃん達の待遇改善を求めるべきである。

[@1\\_dark](#)

ココロ

---

壊れたココロを手に入れた。

念願のココロだけれど、壊れているので一人分のココロではなく、何人分かのココロを繋ぎ合わせた。

何を決めるにもココロとココロが相談しあう。

フェアすぎる僕にあの子は、やっぱりあなたはココロないロボットよねと言った。

沢山あるのに。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

肴

---

「肴は辛いモノがいいな」

「塩辛、キムチ、山葵」

「どれもいまいちかなあ」

「ちょっと、文句ばっか言ってるんじゃないわよ。少しは自分で考えて」

「あ、は、は、い」

「今のはどう？」

「へ？」

「ちょっと辛口にしてみたんだけど」

「（甘いご褒美だったと言えない）」

[@1\\_dark #twremix](#)

ついりみせんでん

---

[#twremix](#) は、1%の才能と99%のひらめきでできていることがわかりました。

それを知った人たちは、無言でリミックスを始めます。

なんだ、意外と簡単じゃん。

毎日23時主に、[@1\\_dark](#) の物語が七変化するさまをリミるアホうにミるアホう。

同じあほなら、わかるでしょう？

## 砂糖製

---

世界は、お砂糖でできていることがわかりました。

そんなの嘘だ。世界はそんなに甘くない。

だったら証拠をみせましょう。

神様は珈琲の中に世界を沈めました。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

うん美味しい。

この味はこのコクは、砂糖でしかでないものだ。

ねえ、君。

ああ、悪いね飲み干してしまった。

## 滅び

---

「[#世界もう滅ぼしたい協会](#)」の名前で、会場を予約した[@hyuugahikage](#)がいた。  
財布を何度も確かめながら、何時間借りられるかなあと悩んでいた。  
世界が滅びるのが先か。財布の中身が滅びるのが先か。  
それは、誰のみぞ知る？

[#半滅亡祭@1\\_dark](#)



## 世界もう愛したい

---

戦いに理由などいらない。

それが彼らの望みであれば、抗う。抗ってあげたい。

争いの果てに生まれた憎しみだっけきっと愛せるから。

[#世界もっと愛したい協会](#) は [#世界もう滅ぼしたい協会](#) を愛していた。

世界の一部として。

[@ce1039 @1\\_dark #twremix](#)

## いの中のツイリミ

---

(※ここに記されていた [#twremix](#) は[@1\\_dark](#) に生贄として捧げられました。  
過去最高作品だったのですが飲み込まれ消化されたことでしょう。  
いの中のツイリミ、みなさまそれぞれご想像でお楽しみください)

## 言えない言葉

---

あなたに言えなかった言葉が、鳥になって飛んでいきました。  
届けたかったあなたの元へたどり着かれても困るのだけれど、期待がないといったら嘘で。  
目を凝らし、この広大な電子の海の向こうから、  
あなたの青い鳥が何か返事を運んでくるのを待ってしまうのです。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 夢で会えたら

---

君に会いたいと思って願っていたのに会えなくて残念だったと言われた。  
もっとたくさん願わないと、あなたは笑って言ってくれた。優しい人ね。  
けれど今夜もちょっとムリよ。  
私を求めて色々な男が願っているの。  
そうね、あなたはあと3日くらい願ってて。

[@1\\_dark #twremix](#)

## キスでお目覚め

---

王子様のキスで目が覚めた。

「生き返ってよかった」とさわやかな笑顔で言ってくれたけど、騙されない。

キスと同時に解毒剤を飲ませたでしょう。

どうしてピッタリの解毒剤を？

怪しい。私は小人たちに命じて彼を捕える。

ねえ、義母さんとあなた、どういう関係？

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 桃から生まれた

---

桃から生まれた異形の子は、育ててくれた恩人に頼まれて、鬼退治に出かけました。  
鬼たちは無抵抗で異形の子を見つめます。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

なあ、あれタネだよな。

桃のタネだな。

こんなことないしちょっと写真撮ってアップしようぜ。

タネなう。

## 親切な方

---

好きな人の命が危ないと、親切な方が教えてくれた。

ライバルを押しつけるにはここで恩を売り彼女にしてみようしかない。

けれど。これはひどい。死ぬ。死んだ。

「ノルマ達成のためなんです、ごめんなさ〜い」

親切な方は死神だった。だけど。

やっと二人きりになれたね。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 未来旅行

---

「未来への旅行はどうだった？」

「怖かった」

「まさか滅びていたのかい？」

「いや、健在だったよ」

「それじゃどうして」

「生きていたんだ」

「誰が？」

「お前と俺が」

「え？」

「500年後なのにお前と俺が」

「え？」

[@1\\_dark #twremix](#)



滅ぼしたのは

---

「[#世界もう滅ぼしたい協会](#)が滅ぼすのは世界ではないの？」

「世界だよ」

「それじゃどうして [#twnvday](#) のお題を滅ぼすの？」

「世界だから」

「お題が？」

「協会が滅ぼしたのは生まれるはずの世界だ。お題に集まり作られるはずだった世界を滅ぼしたのさ」 [@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 秘密

---

重大な秘密を抱えた老執事が死にました。

秘密は誰にも漏れることなく、老執事は丁重に葬られましたが、

その墓の周囲はまるで呪われたかのように一本の草も生えませんでした。

いくら彼を糧にしたってその能力は得られません。

ハゲあがった大地は彼の秘密を秘かに囁く。

[@1\\_dark #twremix](#)

## 全てがGになる

---

Gは人類の知らない間に進化していた。

人類征服を企み、そのためには知名度をあげることが重要だと考えた。

私にはこのスリムなボディーと美しい顔がある。

そして何百年後。

世界中に今や女優はGばかり。

彼女の人類攻略作戦はもはや成功目前である。

[@nemu\\_tatibana](#) [#twremix](#)

## 体重計

---

満を持して妄想体重計が発売された。

かなり詳細なキャラ設定が可能みたい。私の好きなのはそうだな。

ちょっと冷たい眼鏡系理系男子なんだけど私にだけは優しくてそれで。

[@kazue555 #twremix](#)

「なんだって簡単に量ってみせる。けれど……君だけは数値化できない」  
キュン。

あかったー

---

そろそろ食事作らなきゃ。

ご機嫌な我が子を背にキッチンへと向かう。

トントントン。

包丁がまな板を叩く音が小気味良く響きだした途端、あの子が表情を変えたことを私は知らない。

[@1\\_dark #twremix](#)

「ごはんまちなう」

赤い鳥に俺は呟く。

アカッターは赤ちゃんの嗜み。赤い鳥が飛んだ。

チュウ

---

ネズミがやって来て、僕も人気者になりたいんだと相談を持ちかけてきた。

じゃあまずは外回りの仕事からねと言われてここにいるのだけれど、いつまでこうしていただらいの。

最近仲間たちはどんどんリストラされていくし。

ネズミ、マウスは怯えていた。

液晶の壁は厚い。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

まきちゃん

---

大人になった。今もまきちゃんとは仲がいい。  
嫌いなことには変わらないけど良かったなって思ってる。  
私の夫はお医者様。まきちゃんからのご紹介。  
お母さんも有難う。私は感謝をしているの。  
嫌な人でもずっと一緒にいる訓練。  
それのお陰で旦那とだっでいられるわ。

[@rangming](#) [#twremix](#)

## ふわふわ

---

君といると僕はふわふわしてしまう。

ドキドキする言葉に急上昇してしまうの不便だけれど、気持ちがわかって嬉しいと君は笑う。

今日は君との結婚式。

天まで昇ってしまうのではないかしら。

[@kiyoshiro\\_aoi](#) [#twremix](#)

1mmも浮かない。恋は愛に変わると重くなることを知った。



## 宝石言葉

---

ダイヤモンドの宝石言葉を聞いて私は泣いた。

この指輪にそんな意味があったなんて。

「死の予感」そんなことを思っているなら直接言って欲しかった。

死ぬまで一緒。死んでも一緒。

それはきっと、「永遠の愛」と同じ意味ね。

[@ce1039](#) [@1\\_dark](#) [@marinegumi](#) [#twremix](#)

## 同じ夢

---

話が違うじゃないか。

あんなに毎日同じ夢を見続けているというのに。

あ？彼女できたじゃないですかって、何言ってんの？妥協しているだけだろう。

いつになったら本当の彼女ができるのかって聞いてんの。おかしいだろう。

夢は二次元。そういうことでお願いします。

[@1\\_dark #twremix](#)

## 幸せのコンベアー

---

いい仕事があるよと言われた。  
絶対になくならない仕事だから安心しなさいって。  
公務員みたいなものかと思い、失業中の僕は職場へと向かった。

[@1\\_dark #twremix](#)

僕はベルトコンベアーを動かしている。  
背後では幸せにたどり着いた人たちが笑いながら、  
蔑むような目で僕らを見ている。

ベルトコンベアーに長いこと乗っている。  
なんだか飽きてしまった。  
幸せって遠いなあ。そう思っていたら肩を叩かれた。  
「こちらに高速エレベーターをご用意しておりますがいかがですか？」

[@1\\_dark #twremix](#)

プレミアム料金を払いコンベアーを移ると、向こう側にもっと速いのが見えた。

## 狼と私

---

怖い狼がやって来て、低い声で「食べちゃうぞ」って。

見つめる。

そっと狼の頬にくちづけた。

食べてみせて。狼なんか怖くない。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

部屋に狼を招き入れた。貴方に食べられるのなら、この服がいいわ。

服なんていらない。

必要よ。

私は赤いずきんを被る。そして、ナタを。

## 羊と獏

---

優しげな羊がやって来て、優しい声で囁いた。  
どうかスヤスヤ眠れるように僕らの事を数えてよ。  
羊が一匹...

[@kamitakasachi @1\\_dark #twremix](#)

寝たか。羊が皮を脱ぐと中から獏が。  
獏世界も競争が激化、攻めの仕事が求められる。  
悪夢誘いジャンプで確実に悪夢を掴みとれ。

あん

---

図書館が大好きだ。

しかしなぜか相性が悪いらしい。

歩いているだけでじろじろ見られるし、イメージに関わるからと本によっては貸して貰えない。

『赤毛のアン』って失礼ね。

読まれる方から読む方へ。ようやく本からでられたの。

ね、ラノベっていうの？読んでみたいわ。

[@te2090](#) [#twremix](#)

## 目覚めると

---

目が覚めたら、王子になっていた。  
嬉しい。これで貴方に愛を伝えられる。  
ずっとあなたが好きだった。  
けれど女の私じゃと思い告白なんかできなかった。  
だけど。

[@1\\_dark #twremix](#)

愛しています。  
跪く私に貴女は驚いた顔。  
どうして今さら。私は女の貴方の方が。

(・ω<)

---

「わ。」ダイイングメッセージに探偵は困っていた。

「。」が重要なのではないか。つまりわが2つ。わわ。ワニ。そう、犯人はワニだ！

[@1\\_dark #twremix #わと打って最初に出たのが死ぬ直前に言う言葉](#)

本当は事故なの。ねって書こうとしてこうなってしかも実は意味ないの。(・ω<)



「やっぱ女の子はデザートが好きなんだ」

と彼は私に言った。

それはつまりスイーツは君にあげるけれどそのスイーツを食べた君は僕のデザートになるんだよ？

というメッセージがこめられて...

[@Haruki\\_Non #twremix](#)

肉を喰むようにデザートを食べる彼女。

このまま俺、別腹用デザート？

## 飼ってる

---

大きなのっぽの古時計を飼っている。

百年いつも動いていたご自慢の時計で、僕が生まれた朝に買ってこられた。

僕の人生を見守り、お別れの時を伝え、そして共に動かなくなったこの時計は、天国でも僕のために時を刻み続けてくれる。

チクタクチクタク。モウヨジダネロ。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 犯人という

---

「犯人はお前だっ！」

「犯人がお前っていう人が犯人ですー」

「犯人がお前っていう人が犯人っていう人が犯人ー」

「犯人がお前っていう人が犯人っていう人が犯人っていうひとが犯人ですー」

「犯人がお前っていう人が犯人っていう人が犯人っ...わー文字数で犯人は俺かっ」

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 覚醒カウンター

---

覚醒カウンターが返品と在庫の山になった。

誰に使っても「覚醒シテマセン」

[@hyuugahikage](#) [@1\\_dark](#) [#twremix](#)

「博士これおかしい」

「馬鹿者、覚醒している者がおらんだけじゃ」

「何にです」

「まだ見ぬ新しい力にじゃ」

「どんなですか」

「まだ見ぬからわからぬのじゃ」

## だれの靴

---

舞踏会で忘れていった靴を持って、王子様の使者がやって来た。

「きたわシンデレラ」魔女が囁く。緊張の一瞬。今、足を。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

「おおっピッタリだ」ざわめく従者たち。

「そうですこれは私の靴なんです」って、どうして靴をはいて魔女が頬を赤らめているのかしら？

## 瞳を閉じて

---

瞳を閉じると、どこからともなく、声が聞こえてくる。

甘く、優しく、切ない響き。呼んでいるの？

その声に、耳を傾けて、耳を澄まして。運命のその声が今日ようやく聞こえた。

[@1\\_dark #twremix](#)

「この声が聞こえた人、今日のラッキーアイテムはチョコ。白い車に気をつけてね」

運命の。

## 100%で好きな人

---

「どうしたの？」

「好きな相手だから100%で付き合いたいのに、そうするとなんだか苦い思いばかりで」

「全部で分かり合おうなんてムリだよ。親しき中にも礼儀ありだし」

「つまり砂糖やミルクのカカオ分以外はは礼儀」

「相手、誰よ……」

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 飛び込む

---

軒下の雨宿りに君が飛び込んで来て、そのまま二人きり。

君は怒っているのかな。黙ったまんま。ごめんね。僕が悪いのはわかってる。だけどねえ。笑ってよ。 [@1\\_dark #twremix](#)

「やだっ！」

ヘン顔する僕。笑う君。

てるてる坊主の僕。濡れて顔がドロドロだけど、君は僕の太陽だから。



## 会えない

---

どうして喧嘩しちゃうのかしら。  
しょんぼりしたってアイツはこない。  
わかっているの。会えないことは。  
だけど、電話くらいくれたっていいじゃない？  
あーっもうっ。むかつく！

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

「姫様おやめ下さい」  
「星投げないで下さい」  
織姫ご乱心こと座流星群なう。

## ひつじ

---

徹夜4日突入、もふもふの羊はもう身体が重くて飛べない。

珈琲を飲み過ぎて羊の毛まで茶色くなった。

なるほど。そうなのか。

聞かせた音楽で毛の柔らかさもかわるみたい。

なるほど。そうなのか。

綺麗な毛糸を作ってみたい。僕の眠れぬ夜は続く。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 魔王

---

「知らないんですか？眠くなるのは魔王のせいです。  
僕が失敗をしたのも、覚えが悪いのも、遅刻したのも、友だちが少ないのも、  
それは全て魔王が世界を滅ぼそうとするその余波です。  
だから、人に化けた魔王を探しだすのは簡単です。  
出来のいいアイツが魔王です！」

[@1\\_dark #twremix](#)

## 王子様目覚まし

---

王子様は私を起こしてくれなかった。

「百年後にしかセットできない」ってなるほど。

仕方ないな。新しいのを買わなくちゃ。

[@1\\_dark #twremix](#)

「おはよう」

爽やかな笑顔にはやく会いたくて目覚ましなんかなくても起きられるようになった。

けれど別れが名残おしくて遅刻は増えた。

## 大切なあなた

---

倦怠期を迎えた大切な人のため、心を鬼をして、毎日浮気をしている。  
本当に世話が焼けるけど、私にしかできない使命だと思って一生懸命がんばっている。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

「ね、週末デートしない？」「ちょっとトモダチと用事」  
恋人時代に戻ったみたい。私たちはうまくいっている。

## 本当の呪い

---

数年が過ぎた。

大切なモノは何であるか考えに考え、睡眠を取り戻すために旅立つ。

ボスを目指して前へ前へ。先へ先へ。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

「やめろ！眠ったらこの仕事が間に合わない！」

出発間際から雑魚敵に必死の妨害をされ、前の街まで戻って一回休み。

ゴールはまだ見えない。

## ピーターパン

---

ピーターパンの帽子が見つかった。  
けれど本人はどこを探しても見つからない。  
自由を愛する少年は、一体どこにいったんだろう。  
僕は帽子を、そっと自分の頭に乘せた。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

「あなたは第67代ピーターパンよ」  
妖精が僕に粉をかける。  
少年が自由でいられる時代は短いの。

## 呪う

---

「我を呼んだか」

呪文を唱え終わると何かの音がする。

「お前は？」

「世界を呪いし者」

煙が晴れやがて呪いが始まる。

[@hyuugahikage @1\\_dark #twremix](#)

「昨日大事なお菓子盗られた許さん、おもちゃも」

幼女にしか見えない世界を呪いし者は踊るように呪う。

可愛い。



## 兵器

---

「何持ってるの？」

「兵器」

「ちょっと待ってそれで何するの？」

「復讐」

「えええ！」

「別にあんたには言っていないけど？」

「御免なさい」

「あらなんか悪いことした覚えが？」

「昨日プリン食べたのは僕です」

「最初からそう言えばいいのよ」

彼女の掌、僕の黒歴史が。

[@1\\_dark #twremix](#)

## 信号

---

道路の信号が壊れて、青一色になった。

進め、進め、どんどん進め。

止まることなく、進め、進め。

ぶつかり合っても、進め、進め、進め、進め。

[@hyuugahikage](#) [@1\\_dark](#) [#twremix](#)

そう言えばいつから休んでいないのか。

前進するべく場所もなくなり、ぐるぐるまわる僕らは。

## 夢で会えたら

---

好きだった人が夢に出てきて、やり残したことがあるから体を貸してほしいと頼んできた。  
ちょちょちょっと待ってよ。

準備に少し時間があるの。私は体を貸すための準備にとりかかった。

[@1\\_dark #twremix](#)

「まだ？」矢の催促。

あと10キロ痩せるまでお願いだから待って。

## ペンギン空をとぶ

---

昔々、ペンギンは空を飛ぶことができました、た？

今も十分飛べますけど？

ペンギンたちは怒りだす。けしからん。

[@1\\_dark #twremix](#)

足元なんて見ない彼ら。飛んでいる。パタパタ。

相手の足元だって見ない。飛んでいる。パタパタ。

落ちることもない。

僕たちは素晴らしい。パタパタ。

## 母の愛

---

抽出した愛は加工される。

ろ過を繰り返し最終的には数%しか残らない。

それを小さな瓶に入れて出荷する。

[@hyuugahikage #twremix](#)

「これが母の愛ですか」

グラスに注ぐと彼らはそれを味わった。

母の愛は紳士の嗜み。

高価過ぎるそれを楽しめるのは、一部の富裕層だけという。

## 鯉のぼり

---

大きい魚は美味しい魚。そう思っていたのに。  
せっかくがんばってあのお魚をとったのに。のに！

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

ミケが朝から庭にいる。  
昨日まで鯉のぼりの揺れていたポールを眺める横顔は寂しそう。  
仲間が消えた気分なのかもしれないね。  
それにしても鯉のぼり、どこ行ったんだろう。

## ついりみせんでん

---

美味しいツイノベを見ると、単語を取り替えたり、頭だけ同じにしたり、骨組みを似せて違う話にしたり、続きを書いたり無性にしたくなるよねーと思ったあなた。それが [#twremix](#) の第一歩です。

文字を使って楽しく正しく美しく。

どうぞみなさま遊びましょう。

[@1\\_dark](#)

## ネット注文

---

ネットで愛を注文したら、大きなダンボールに君が入って家に届いた。  
ネットってすごい。なんでも手に入るんだ。  
箱からでてきた君はいつになく積極的で、まるで僕のことを好きみたい。  
いつもはあんな君なのに。  
僕は少し考えて返品を決めた。だって僕が好きなのは。

[@1\\_dark #twremix](#)



わー綺麗。

[@te2090](#) [@AnaiAkino](#) [#twremix](#)

君はどうやら見えているみたい。

僕は見えない。

そもそも僕は信じていない。

正直者しか見えない魚、そんなものってあるもんか。

だけどいいよ。信じたフリをしてあげる。

綺麗だね。

答える僕に笑う君。

スーっと、魚が過ぎた気がした。

## 夢で会えたら

---

夢のなかで初恋の人に会ったはいいけれど、まったく会話が進まない。

趣味も違うし、何より全然ときめかない。

当たり前か。私の横でサッカーを始めた彼を見た。

もうそんなに経ったのだ。

私の中の彼は未だに小学生のままで。

私は、前に進まなきゃ、そう思った。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 恋を捧げる

---

憎き貴方を殺すため、毒りんごを持って家を尋ねた。  
愛想よく勧めると、少しだけ戸惑った顔でアリガトウなんて。  
そして聞くの。  
りんごを捧げる意味って、知ってる？

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

そんなの知らなかった。  
けれど抱きしめられて察する。  
ねえ、私どうして貴方が嫌じゃないんだろう。

メリーさん

---

メリーさんの噂は瞬く間に広まった。

[@nemu\\_tatibana](#) [#twremix](#)

「もしもし、私メリーさん」

「あ、メリーさん、俺」

「俺？」

「そうオレオレ。実はさ、事故にあっちゃってさー」

「あの少ないですがよかったら」

ガチャン。

俺さんはよく事故にあうな。メリーさんは気の毒に思った。

## 共有

---

ある日突然人類は、魂を共有できるようになりました。  
喧嘩しても、愛しあっても、みんな結局同じ人。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

青い鳥、鳴いた。

鳥の中には一つの魂。

けれどもそれは一人じゃないかもしれません。

タイムラインの向こう側、

アイコンの違う誰かは本当にあなたと別の人ですか？

## ひとごみ

---

人ごみにうんざりしたので、燃えるごみ回収係になった。

人ごみは辛すぎる。

絶望の淵にいるというのにそれでもまだ希望を捨てきれない人々の回収は。

けれどもどういうわけだろう。

何かが少し物足りない。

[@1\\_dark #twremix](#)

「有難う」人ごみが最期に呟く言葉、拾うのは僕じゃないのか。

## 5月さん

---

閉ざされた扉は重い。わかった。  
私のことなど誰も愛してくれない。  
病気持ちの私のことなど誰も。  
つま先を見つめ唇を噛み締める。私なんて。

[@Haruki\\_Non #twremix](#)

「子供の日楽しみ！」声がした。  
そうだ私を待つ人だっているじゃない。  
バイバイ扉。  
私はどこへだって歩きだせる。

## 回転寿司

---

回転寿司のテーブルについてさっそくレーンを見ると、鯉が流れを遡る。

鯉に邪魔されたり、邪魔したりしながら僕らは寿司を食べる。

はやく食べなきゃ。

もしも鯉が最後の滝まで登ったら。

竜になったら食べられるのは人の方。

いざ、食うか食われるか。

[#廻る五月 @AnaiAkino #twremix](#)



## 来世で

---

来世でまた会いましょうとの約束を守って生まれ変わった。

相手も同じく生まれ変わったのだけれど、イケメンでもお金持ちでもなかった。

来世でまた会いましょうとにっこり笑って、別れる。

あと何回生まれ変わったならば、あなたと恋に落ちることが出来るのかしら。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 進化

---

猫が進化した。

猫背でも治ったのかしらと思って見てみれば、いつもと変わらない外見。

どこが進化したのと尋ねたら、「我々は昔から完璧ニャ」と誇り高く答える。

じゃあ、進化って？

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

「進化ニャ100円あつぷニャ」

進化したのはネコ缶。

ネコ缶の進化は猫の進化ニャ。

## 混乱する話

---

好きになった人が、なんと実は男だった。

女だと思って付き合っていたのだけれど、そんな展開酷すぎる。

どうして急にそんなこといいだしたの？と聞いたら、

だってその方が女のあなたに釣り合おうと思ったからって、え、ちょっと嬉しいかも？

僕ってそんなに女らしい？

[@1\\_dark #twremix](#)

## 進化するゾンビ

---

死者の国に戻ったゾンビは、更に進化し続けた。

[@1\\_dark](#) [@Haruki\\_Non](#) [#twremix](#)

その進化は芸術方面にも向いた。

人と違う経験から生み出される深い物語。

死んだ者が描いたとは思えない生き生きとした絵。

彼らが作り出す漫画は人気があったが、どれも全て腐っていた。

## 耐える

---

「みんな！耐えろ！耐えるんだ！」

「けれど、もはや限界です！」

「冷静になって考えるんだ。よく考えたら痛いのは気持ちの問題だ。騙されるな、一番の敵は自己暗示だ」「「はっ！！」」

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

「ホントあんたってキモい」

「ありがとうございますご褒美です」

## 行き先設定

---

カーナビの目的地を検索していたら「天国」という項目があったのでセットしてみると、「後悔はしませんか？」と何度か問われ、本当に案内が始まった。  
さよならみんな、僕はいくよ。

[@1\\_dark #twremix](#)

「ようこそ！」  
クラブ天国では平均年齢70才の天使たちが貴方の悩みお聞きします。

カーナビの目的地を検索していたら「本当の恋」という項目があったので、  
すぎる思いでセットしてみると本当に案内が始まった。

[@1\\_dark #twremix](#)

なんだか同じ所をぐるぐる回されている気がする。  
僕は騙されたのだ。  
ガソリンもなくなり諦めて入ったスタンドで出会ったのが今の妻です。

## 黒いウサギ

---

アヤシい黒うさぎが、物語をじっと見ている。

恋愛物でも、探偵物でも、文芸でも。

だってこんなに面白いのにこのまま終わらせるのはもったいない。

流されるだけの運命のそれを、また一話引き止める。

苦勞するのはわかっているけど、だがそれがいい。

[@1\\_dark](#)

今日も楽しく、[#twremix](#)。

## 航海

---

ある日見つけた幽霊船に、繋がれてたのはお姫様。

「たすけてたもれ」と手を差し伸べる。俺たち鎖をそっと解く。

[@kiyoshiro\\_aoi](#) [#twremix](#)

くるくる踊るお姫様。

俺らの手を取り一緒に踊って、最後に綺麗にお辞儀した。

ふわふわ浮かぶお姫様。

生きてる時に会えたらね。



あか

---

貴方が呼んでる。私を呼んでる。

どうしたいの？

ううん、どうされたいの？

名前を直接呼ばずにどうして、そんなに遠回しで呼ぶの？

わかりました。わかってあげます。

そうなんデスね。そうデスね。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

ナタを持って、貴方の元へ。

そしたら名前、呼べますね？

## 異世界

---

迷い込んだ異世界に、見慣れた居酒屋チェーン店が建っていた。

情緒は台無しになったが、安上がりなので長居ができ仲間を探しやすかった。

旅の資金もここで稼いで行ったらいい。

ありがたい申し出に思わずのってはや1年。

ブラックな労働環境に、旅立つ気力が奪われる。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 開放

---

法や決まりは人間のためにあるのだから人間によって変えることができるという信念のもと、人間は地球の重力から解放されふわふわと虚空へ消えていきました。

けれども僕はここにいる。

開放された人たちのその後は知らないけれど、僕は前よりずっと幸せ。

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

サトウさん

---

「宿泊をご予約のサトウさまですね」

「はい」

「当ホテルは森の奥。今夜は雪が積もる予定。

ただいまさるお方の遺産相続についての会議が行われており皆さま今からご休憩、  
というところなんですけどよろしいでしょうか」

「いけません帰りま」

キャー、ホテル奥から悲鳴が。

[@1\\_dark #twremix](#)

## スパイス

---

スパイスを育てたら、なんと思わぬスパイスになった。

けれど途中で突然変異したり、分化したりしながら、何種類ものスパイスができた。

思っていたもの、いなかったもの、ああもういろいろ面倒になってスパイス全部を鍋に入れたら

、

美味しいカレーの出来上がり。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

こねこちゃん

---

「旦那様、不適切な関係は禁止されております。申し訳ありませんが、没収させていただきます」

「不適切ってどういうことだ！」

「不適切は不適切ですはいはい没収〜」

「か〜え〜し〜て〜」

[@1\\_dark #twremix](#)

旦那なんかより、私のほうがいいでしょう？

ね、私の可愛い子猫ちゃん。

## 手帳

---

小説手帳を貰い目を輝かせてページを開く。

ほうほうこんな裏技が。

こんな、裏技が？

[@hyuugahikage #twremix](#)

色々述べてまいりましたが、何より大切なのはコミュ力です。

読んで貰わなければ内容はわかりません。

なるほど。それがあったらここにはいない。

僕は手帳を捨てた。

ぐるぐる

---

恋に巻き込まれて、身動きを取ることができなくなった。

いい加減にして欲しいね。

僕は別に、君のことなど全然好きじゃないんだし。

[@1\\_dark #twremix](#)

あら、じゃあどうして動かないの？

よくみれば、僕を縛るものなど何もない。

知らんぷりで僕は僕を、赤い糸で縛った。ぐるぐる。



## 眺める

---

それはとても無惨な姿をしていた。

すっかり乾いた瞳。奇妙な色合い。外側だけを残し中はくり抜かれたようにすっかりなくなっていた。

それを吊し上げ晒し喜ぶ人間たちのなんと残酷なことか。

[@1\\_dark #twremix](#)

ミケはずっと縁側から動かずに鯉のぼりを眺めている。

お腹でも空いたかな？

## 九州王国

---

関門トンネルや関門橋が壊されて、誰もそこを通ることができなくなった。  
はじめは驚いていたものの、よく考えたならそれほど困らない気がする。  
農業も漁業も畜産もあるし、それになりより九州にいらればそれでいい。  
九州は独立した。

[@hyuugahikage](#) [@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 宣伝用

---

「このCD在庫ありますか？」

「あります」

「じゃいいです」

宣伝用を求めてさまようものの、大きなショップばかりで在庫なしの店舗は少ない。  
やっぱりあの店に行くしかない。

[@1\\_dark #twremix](#)

「宣伝用ならございます」

その店には宣伝用しかおいていない。

割高だけれど仕方がないわ。

## 不幸偽装

---

私は不幸捜査官。不幸偽装を検挙する。

「もう一ヶ月も彼氏いなくて」検挙！

「彼の年収が一千万に届かなくて」検挙！

「3回目の結婚ができな」検挙！検挙！検挙！

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

不幸偽装は自慢の臭いがするの。今日も発言小町に潜む悪をチェックする彼女。

## ロマンスの神様

---

この神社には恋する人しか来やしない。彼とてきっとそうだろう。  
恋を知らない私はいつしかその横顔に恋をした。

[@te2090](#) [#twremix](#)

おみくじにメモを忍ばせた。この大吉で彼の恋は成就する。  
わかるわだって、巫女のフリして私はここの神様だもの。  
だけど好きだと伝えたかった。大好き。

## 狼がくるぞ

---

眠れない夜は、羊を数えることにしている。

1匹2匹3匹4匹、眠れないって知ってるけれど、5匹6匹、数え続けてやがてスマホが震え出す。

「今から会いにいつでもいい？」ってほら。

望み通りのメールが届く。

[@1\\_dark #twremix](#)

眠れない夜は、羊を数える。

狼は羊、大好きでしょう？

## りんごりんごりんご

---

「おや？このリンゴの事を知ってるのかい？」

見た目は低脳ギャルっぽいけど、私は青森出身なのよ。

「それはジョナ」

「ほほう、じゃあこれは」「世界一」

「これは？」「千秋」

「これは？」「津軽」

[@ce1039](#) [@1\\_dark](#)

「最後にこれが俺の気持ちだ」

差し出されたりんごは、「恋空」。

## 兄貴

---

「あ、兄貴イイイー！」

「ついに俺も年貢の納め時かな」

「オレなんかを...？」

「いや、お前だから、だろ？」

### [#twremix](#)

「っていう[@1\\_dark](#)さんが喜びそうな王道をなぜ誰もやらぬ」

「最近早寝しちゃう七歩さんのためにみんながとっておいてくれたんでしょ」

「( ; ω ; )」



## かみ

---

まさかあの合図を知る者がいるとは。

清掃済みじゃない？なんてとぼけたけれど、僕こそ迫害されて滅びかけた謎の結社の一員だ。  
そんなある日のことだった。

[@1\\_dark #twremix](#)

これは何だ。これは一体なんの合図だ。

あいつなら、解るのか？

[http://blog.livedoor.jp/darapic/archives/66252075.html ...](http://blog.livedoor.jp/darapic/archives/66252075.html)

トイレの紙が鍵の形に折られていた。

他に紙がないものだから写真に残し使う。

ツイッターにアップするんだなんて思って扉を開け、開かない？

「鍵を流すからじゃ」と流れる水が囁く。

なかなか上手に鍵は折れずに、残された紙はあと少し。

[@nemu\\_tatibana @1\\_dark #twremix](#)

ちち

---

「父さんなんで母さんのこと選んだの？それほどいいとは」

「お前と一緒にだよ」

「え？」

「お前がここにきた理由と一緒にだよ」

顔を見合わせてニヤリと笑う。

「実は父さんに紹介したい子が」

気の合う息子が連れてきた子はまだ若かりし日の妻によく似ていた。（胸部）

[@te2090](#) [#twremix](#)

### 3つの注文

---

生産が追いつかない。自然のままではもう無理だ。

「ゴキブリ」「放射性廃棄物」「寒いギャグ」  
を人間たちは急ピッチで作り出す。

[@1\\_dark #twremix](#)

「滅びたか」「はい」

「あんなの欲しいわけがない。目的はその先。あの3つを大量生産したなら結果はみえてる」

[#世界もう滅ぼしたい協会](#)

## 尻尾

---

黒い尻尾を揺らして猫の幽霊が枕元に立つ。

うらめしや。可愛い。

孫子の代まで。大丈夫。孫も子もない僕だから思う存分恨んでよ。

[@1\\_dark #twremix](#)

君の最期に間に合わなかった。そういう理由で君は僕を恨んでる。

知っているよ口実でしょう。

君ってそういうやつだよ。

ねえ、有難う。

## 百合

---

「はい、母の日の花束」

「えーと、カーネーションには見えないんだけど...？」

「ちょっと趣向を変えて百合にしてみたの。母さん百合好きだと思って」

「ど、どうしてそれを？」

「電話でよく百合萌えるって言ってるじゃない」

「ああ、うんそうね百合って大好きよ」

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 恋人ができなくとも

---

恋人ができない貴方、がっかりする必要はありません。  
まだ理想の彼女が目の前にあらわれていないだけです。  
目の前にあらわれることができないだけです。  
貴方の恋心に科学が追いついていないだけです。  
ただ追いついていないだけなのです。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## カーネーション

---

役に立つわけじゃないし、  
お金がもったいないからいらんって言ってきたけれど本当はいらんわけじゃない。  
そんな簡単なもので、喜んだり今までの苦勞を帳消しにされちゃうのが悔しいのだ。  
だから今年も高い対価を要求する。  
叶わないほうがいいお願いだってあるの。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## ピース

---

抽選に当たって、世界を動かす権利を手に入れた。

世界はピースになっていてね、1ピースどかして組換していくんだよ。

それだけがルールさ。じゃ、1個どかすね。

[@1\\_dark #twremix](#)

気がつけば真っ暗闇。私のいるピースをどこにどかした。



## 助けた鳥に

---

青い鳥を助けた日の夜、見知らぬ女が家にやって来た。

「扉の中を覗かないでください」と言う。

どうぞどうぞ。これはあの展開か。俺は部屋なんか覗かない。

[@1\\_dark #twremix](#)

「恩人ちなう」「期待してるみたいだけど何もしない予定」

RTで回ってきた画像は俺の家。

鳥、ダダ漏れだよ。

「簡単すぎて頭がおかしくなりそうだ」

「答えは？」

「A君、B君という名前に注目したい。こんな記号としか思えない名前、おそらく人間じゃない。つまり」

「つまり？」

「機械工場から逃げ出した労働型ロボAを追う追跡型ロボB、これはきっとそう遠くない未来の話」

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 寝苦しくて

---

寝苦しくて窓を開けると、夜空にきれいな満月がでていたので眺めていると、  
「何見てんのよ」突然怒られて、暇なら来いと引っ張られて、白い服を着せられて、  
餅工場で働かされている。

耳までつけられて時給30円は割が合わないと思うので、うさぎ親方に交渉したい。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 雨晴

---

利害は一致していた。

雨女の私と晴れ男の貴方。

二人一緒に過ごしていたなら綺麗な虹がかかるはず。

[@1\\_dark #twremix](#)

願いはかなった。

写真をとって誰かにメールする彼に、ズキンと痛む胸。

利害だけの関係のはずなのに。

どうして。

震える、スマホ。晴れ男からだ。

「また一緒に」うん。

## 舞踏会

---

夜の道でも、朝の駅でも、いつでもどこでも舞踏会が繰り広げられている。

今日の王子はどこのだなた？くるくる回ってくるくる踊る。

もう何度目の音楽かしら。

最後の最後、クライマックスまでも一緒に踊れた人はまだいない。

私のダンスがうますぎるから？それとも。

[@1\\_dark #twremix](#)

## 夢物語

---

「夢物語が気になる方は、23時を待ちましょう。

[@1\\_dark](#)のツイノベを待ち、一度読み、浮かんできた妄想にまかせて [#twremix](#) して楽しみ  
ましょう」「ごめんなさい。1時間遅刻します」

「通常運行無問題」

## 彼氏

---

「あなたが別れたのはこの優しい彼氏ですか？それともイケメンの彼氏ですか？」  
捨てたはずの彼氏が女神に連れられてやってきた。二人は私をちやほやし始める。

「やあ、俺の可愛い子ネズミちゃん（ｷﾗﾝ）

猫だろ。

相変わらずなので「知らない人です」と女神に伝えた。

[@1\\_dark #twremix](#)

## 卵から

---

卵を割ったら、小さなゴマが出てきたので、ゴマを割ったら薪が出てきた。  
薪を割ったら、狐が出てきて流石に割れないと思い、薪の中に戻して、  
「どうか金を」と願ったならば望みどおり金が出た。  
けれど、私は勝負に負けているので、金を手に入れることはできなかった。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)



## つまづく彼女

---

きっと貴方は知らないけれど、何もないわけないでしょう？

例えばそれは憂いや絶望。負の感情は形を取るの。

私はうっかりそれに躓き貴方はそれを笑うのです。

笑い飛ばせば全ての憂いは跡形もなく消えるから。

だから一緒に歩いて行こう。

転びながら、笑いながら。

[@te2090](#) [#twremix](#)

## 五月集め

---

五月病を集めている。

大きな樽に入れて、ぎゅっと圧縮して、暗い地下室で保存しておいて、夏を越し、冬のシーズンに備える。

この頃になると熟成して、純粹な身体の病に変化する。

春先の憂いが巡り巡って冬、貴方にインフルエンザとして振りかかる。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 同じ阿呆

---

「同じ阿呆なら見る阿呆でいい」

「真の見る阿呆とは徳島に生まれながらどの連にも入らず、皆が踊るのを横目にぼっちで過ごし

、

どんな誘惑にも脅迫にも屈せず踊らずにいた者だけに与えられる称号。お前にできるのか？」

「あんたみたいな面倒なのがそれならやめとくわ」

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## やきかた

---

「今年の夏は海に行こうね」「うん」  
「泳いだらそれから焼こうね」「うん」  
「真っ黒になるよ」「真っ黒は困る」  
「え、焼かないの?」「黒くならない程度に」  
「健康的な?」「うん苦いの嫌い」  
「苦い?」「とった魚の焼き方じゃないのにや?」

[@1\\_dark](#) [@ce1039](#) [#twremix](#)

## シータベータ

---

空から女の子が降ってきた。

私シータ。私ベータ。それぞれ違う女の子。

僕ら血眼になって唯一の女の子を探す。

冒険の扉を一緒に開ける運命の女の子を選ぶのだ。

だって可愛い方がいい、ドスン。

きゃあ。私オメガ。

大丈夫？手当しなくちゃね。

選ぶのはいつだって女の子。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

# 夜

---

部屋の電気を消して、ふとんにもぐり込み、息をついて、目を閉じたら、  
神は羊を数える間もなく眠りに落ちる。

おやすみ世界。

だから夜には神はいない。

だからきっと告白するなら夜がいい。

神さまの言う通り、なんてことができないように。

君の本当が解るように。

[@1\\_dark #twremix](#)

## ホラーマン

---

「もう寝るの？」

「悪いがもうこんなところにはいられない」

「もう大げさなんだから大丈夫よ」

「いや部屋に引き上げさせてもらう」

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

「あの」

「部屋に帰ったんじゃないの？」

「一人で部屋にいるの怖くて」

「でもホラー映画見るのやめないわよ」

「(´・ω・`)」

## 扉

---

扉を開けると、そこはどこでもだった。

どこでもドアの向こう側、どこでも。

青い猫はそう言うと恭しく頭を垂れた。

どこでもって、どこだろう。どこでもって、どこでもいい。

心のままに僕は行く。

今よりダメな場所などないから口笛吹いて、スキップをして。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)



あんぱん

---

僕らどうして戦うのか。

見た目は同じ言葉も同じ。同じ本で泣き同じ歌を歌う。

粒とこし。

違いはたったのそれだけなのに。

ねえもしかして、君もやっぱり愛と勇気が友達かい？

ならば僕も友達になろう。

三人目の友達同士。もう敵じゃない。

[@hyuugahikage](#) [@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## ベンチで

---

最近、公園のベンチで本を読んでいる女の子がいる。

何を读んでいるのかと思ったら僕の好きな話だ。

いつみても僕の好きな本ばかり读んでいる。ああ、この気持ちを伝えたい。

[@1\\_dark #twremix](#)

次の日ベンチに本を置いておいた。次はこの本を読むべきだ。

本好きの彼はまだ恋に気づかない。

## ギリギリ

---

今日もどこかでギリギリ妖精たちが働いている。

遅刻人間はかなり減り、仕事がなく困ってる。

目の前を綺麗なおねーさんが通った。

[@1\\_dark #twremix](#)

すぐさま駆けつけ、長すぎるスカートをギリギリと削り取っていく。

こうして今日もまた、チラリギリギリのスリルと興奮を、風だ！

## 肩こりが酷くて

---

肩こりがひどくて、マッサージに行くと、お寺を紹介された。

つまり何か憑いてるってこと？

神妙な面持ちで向かったお寺。

住職は心配いらないと僕を座らせる。そしてお経と思しき何かを唱え始めた。

ああ、なんだか、身体が、軽い。

[@1\\_dark #twremix](#)

僕は成仏した。

## ペット

---

初恋味のペットボトル飲料が発売された。

あの頃の素直な気持ちに戻れると恋に疲れた大人たちに人気だが、

何をどうやって初恋味にしているのかは企業秘密となっている。

製造工場には毎日女の子が運ばれ泣きながら出てくる。

不幸の蜜の味と初恋味はよく似ているらしい。

[@1\\_dark #twremix](#)

## キスの日

---

「今日はキスの日なんだって」ともじもじ言うと、  
「仕方ないなあ」とにんまり笑って、人気のない路地に連れ込まれた。  
ドキドキしていると、「じゃいっせーの一せで今日何人とキスしたか教え合いつこだ」え？「い  
っせーの」 [@1\\_dark #twremix](#)  
人差し指一本立てながら唇を奪う貴方。

## リア充を爆発させよう

---

[#世界もう滅ぼしたい協会](#)に新人が入った。

いいかリア充に爆弾を仕掛けるんだ。彼は先輩と街へ出る。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

キスの日にちなんで、キスする人が急増している。

今日は忙しくなるぞ、と呟く先輩に、

「え、キスくらいでリア充ってうそっすよね？」と後輩。

後輩、逃げて。

## 体重

---

大切な嫁がダイエットを始めてしまった。

そのままの君が好きだと何度言っても聞く耳を持たない。

ま、いつものことだけれど。

「3キロやせちゃった」そう言ってにっこり微笑む君。

だけど僕にはよくわからない。

ていうかむしろ3キロ以上あったんだ。

ねえ、二次元の君。

[@1\\_dark #twremix](#)



したい

---

「ちょっと！彼、恋愛したいんですってよ！」

「本気か」

「辛い戦いになるぜ」

「でも彼が初めて自分から言い出したことなの。例え駄目でも応援したい」

「だな」

「ふっこの前まで赤ん坊だったくせによ」

「何があっても私たちは彼の味方よ」

[@1\\_dark #twremix](#)

俺の恋愛ってそんなに？

## 青い鳥

---

私の名前は青い鳥。誰が呼んだか忘れたけれど、今では私のお気に入り。

私の歌が、きっと幸せ呼んだのね。ジャズバー流して私は歌う。

さあ幸せになりなさい。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

お代がわりに一杯貰うもう一杯。

ふらりふらふら顔面蒼白千鳥足。

ほら、青い鳥だ。

そんな声など聞こえない。

## 寝る前に

---

夜、寝る前に羊を数えていたら、いつのまにか朝になっていて、僕は羊だった。

今日から数えられる側。

何の役にたっているのか解らず働く現実よりもこちらの方がずっといい。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

僕は元同僚の枕元に配属された。

羊が一匹ぐう。

過労で疲れ果てた彼に僕はごめんと謝る。

## 明日のために

---

名作を書くために、たくさんの本を読み、たくさんの本を読み、たくさんの本を読んだ。

ああ、世界にはこんなにもたくさんの素晴らしい本が存在する。

満足した僕は、筆を置いた。

明日、どの名作を楽しもうか。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

すきすききらい

---

「べ、べつに読んでるってわけじゃないし」

「だってよく知ってるじゃん」

「この人のこと嫌ってる人のサイトみればそれくらいわかるもん」

「そんなのあるんだ」

「ほらこんなに」

「お気に入りに入れてるんだね」

「うん、毎日全部チェックしてるよ」

[@chocolatesity #twremix](#)

「あの本読んだの？」

「さらっとね」

「ところで今その手に持ってる本ってあの本だよな」

「そうだけど」

「この前買って読んだんだよね」

「これ五冊目」

「どうしてそんなに」

「買われるだけで読まれないなんて最大の屈辱でしょ？」

「」

「明日も買うんだ」

[@chocolatesity #twremix](#)

あっぷあっぷ

---

お使いの恋人で、新しいソフトウェアがご利用いただけるようになりました。

名前「ツンデレ改良型」前回よりもデレレベルを格段に落とし、どんな方でもデレさせることが可能となりました。

[@1\\_dark #twremix](#)

一度はアップグレードした人々が再度ダウングレードを求める事例が相次いだ。

すくう

---

海を一部すくい取って、小瓶に入れて持ち帰る。

灯りを消して耳を澄まして、弾ける泡の音を聞く。

ああまた違う。

あの子はここにはいないみたい。

後悔をしている。どうしてあの子を選ばなかったか。懺悔している。

だから。

泡と消えたあの子の欠片を探してる。今宵も。

[@1\\_dark #twremix](#)

ばなし

---

絵本を開きっぱなしにして、部屋に置き忘れてただけのはずだった。

どうにも様子がおかしくて、そっと障子越しに様子を伺うと、カタン、聞こえるはずのない音が聞こえる。うっすら映る影はどうみても鶴だ。

中を覗いていいものなのか、どうしてもためられる。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)



## 害ある貴方

---

彼女の彼が死んだ。無表情の彼女を疑いかけて頭を振る。

そんなはずはない。だって彼女の頬にはほら、ぼろり。

[@chocolatesity @1\\_dark #twremix](#)

慰めるうち僕は彼女の彼氏になった。

そろそろいいよね。

無理やりキスを迫る僕に、「貴方も害ある生き物なのね」。

貴方も？

纏わりつく害虫男どもを冷たくあしらう彼女は僕にだけ優しい。

恋心をほのめかしても笑ってくれる。これって、僕のこと。

[@chocolatesity @1\\_dark #twremix](#)

「あんたアイツにだけ甘くない？」

「だって人形とか置物に腹立てなくない？」

害ある男に僕はなりたい。

## プライスレス

---

会社（今年3つ目）に行くと、花束（経費三千円）を渡された。

「今日で契約終了だな、ご苦労さま」（契約延長なし）

[@hyuugahikage #twremix](#)

帰り道、「お疲れ様」と労う声。

彼女（プライスレス）だ。

今年一円未満で値段の付かなかった彼女はこんな僕でも逃せないらしい。

貴方の望みは一体なあに？

貴方の望み、私がきっと叶えてあげる。

結婚したい？相手は私？やだそんなこと。答えだなんて、言わせないでよ恥ずかしい。

[@hyuugahikage #twremix](#)

手を差し出す君。

「200万円必要なの」お金の問題解決しないと結婚なんてできないの。

詐欺だった。

詐欺なの？って聞いてみた。

疑うの？って泣かれた。

贈り物をした。喜んでくれた。

彼女からの誘惑。

ああ、こんな詐欺みたいな幸せってあっていいの？

[@hyuugahikage #twremix](#)

## TVと犬

---

テレビは困っていた。見る人がいないのに恥ずかしい。  
早く消えてしまいたいのに寂しくなるからと犬は無関心。  
じゃあこれは？

[@harukaumino @1\\_dark #twremix](#)

帰ってきた主人は驚く。  
家中の電気機器が全てON。  
犬を煽ってやらせたのは私。みんなONなら恥ずかしくない。

## 不思議

---

不思議なツイノベを書いている。

タグを付けて置いておくだけで、なぜだか [#twremix](#) が集まって来るのだ。

全てのツイリミ紹介も形を変えたのに、それでも変わらず今日もまた。

[@1\\_dark](#) のツイノベにはきつといけないなにかが入っている。

それが何かはご自分でお確かめ下さい。

## 盗まれた

---

盗まれた恋心が戻ってきた。

恋泥棒が捕まって、被害者の私に恋心の一部が補償されたのだ。

一部しかない恋心は、その片割れを求める。

[@1\\_dark #twremix](#)

刑務所から出てくる彼を待ちわびて、とうとうその日がやってきた。

とても貴方を好きな私と私を少し好きな貴方。幸せなのはどちら？

「奪いに来た」恋敵が面会にやってきた。

きゅん。奪うって何を？

「彼女から盗んだ恋心の残りを返してもらおう」

そんなの無理だ。もう僕の恋心と混ざり合って。

そうだ。そうだ！僕は恋心の全てを差し出した。

[@Haruki\\_Non @1\\_dark #twremix](#)

恋敵が毎日面会に来る。うざい。

# 大

---

犬だと偽って、大を飼っている。

物足りない犬みたいな感じというけれど私には解らない。見たことがない。

大は大きすぎるからリードの先の方で繋がった異次元に暮らしてる。

リードが震えると大の存在を感じられて嬉し、あ、リードの電池切れた。

取り替えなくちゃ。

[@1\\_dark #twremix](#)

## 偽りの恋人

---

友達だと偽っている、恋人がいる。

同じクラス、いつも一緒にの帰り道、一つのアイスを二人で分けて、髪飾り買ってあげたり貰ったり。

制服のスカート、ひらり揺れた。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

「あの女子校生レベルたけー」

「お嬢様女子校じゃん憧れる」

デート中よ。ナンパなんかはお断り。



# 食

---

ぼくを育んだ愛しい球体から今、放たれる。  
ぼくはどこへ行くんだろう。目の前に広がる暗黒。  
今までいた世界とはまるで違う温度。  
でも負けるわけにはいかない。ぼくは、ぼくは。  
「目玉焼きできたわよー」「いただきます」  
わーブラックホールに吸い込まれるー。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 美味しい話

---

美味しい話には裏があるじゃない。  
裏があるってことは表があるじゃない。  
つまりおもてなしにならないのよね。  
美味しい料理もきっとそうなの。  
おもてなしにはならない。だから。

[@1\\_dark #twremix](#)

だから美味しい料理は作れないのと言い訳する君が可愛くて今日も全部、ごちそうさま。

におい

---

「焼肉の匂い」という消臭スプレーが、友達の家トイレに置いてあった。  
興味本位で一吹きしたが、何の匂いもしない。変なのと思いながら部屋に戻ると。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

いきなり肉を焼く友達。

「お前にはやらん」悲しみのあまり外へ。

肉を焼く人々。やらん、あげないよー。グスン。

## タイツ

---

過去から這い上がり、今の扉を開く。

良かった、帰ってこれたんだ。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

扉の向こうには、懐かしき世界。

懐かしき、けれどどうしてみんな全身タイツ？

## 古墳

---

こんなことはいけないと思う。

正々堂々戦わなければスポーツである意味がない。

だから。だから僕は全力で走る。

[@chocolatesity #twremix](#)

おおっと、追い上げてます。

追いつけているあの選手はなんと！ゼッケン0番。この古墳の主だ～。

## 食器柄

---

毎日まずい料理を作る。次々逃げ出す絵柄たち。

ねえもうみんないなくなったよ？ねえもうちょっと美味しく作ろう？

私がどんなにまずい料理を作り続けてもその絵柄だけは逃げなかった。

そう。それが今ではこの窯の印。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

祖母はそう言ってお菓子を差し出す。まずい。

そうじさん

---

掃除はすっかり上手になった。

けれど私、空も飛べずに今も変わらずここにいる。

どこでもいいわ。どこかへいくの。

飛べなくたって遠くへ行ける。私の命が続く限り。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

飛びだせば世界。ルンバは一人、踊るように歌うように、荒野をいく。

きこえる

---

休日のお昼に外食をしていると、聞き覚えのある曲が流れてきた。

まさかこの曲が。

分かる人にしか分からないこの曲に一食事を共にしていた彼女も反応している。

「まさか君」「同じ身の上のようね」

[@kusunokidan](#) [#twremix](#)

僕ら飛びたつ。地球の危機を知らせる音楽を聞きながら。



## 心の鍵

---

心の鍵を持っている。けれど私の心を開く鍵じゃない。  
物心ついた時からいろんな人の背中に差し込んで色々な心をのぞいている。  
けれど未だわからない。どんな心がいいものなのか。  
博士は私に、お前の好きな心を作るよというけれど。  
心がなくてはダメかしら。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## ミステリど真ん中

---

誰にも見つけて貰えないのは、この部屋に鍵をかけてしまったから。

そんなつもりはなかったのに気がつけば密室だ。

もう取り返しはつかない。やがて僕の遺体が見つければ誰も自殺とは思わないだろう。

だけど後悔はしない。

うっかりとはいえ僕は今、ミステリど真ん中。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 震える

---

僕のケータイは物静かだ。

起床時間、震える。電話、震える。メール、震える。

音がなっても大丈夫とサイレントモードを解除しようとする、震える。会いたくて、震える。  
さみしがりやのサイレントさん。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 抱いて眠る

---

暑くなってきたので、TVから出てきた貞子さんを抱いて眠っている。  
任務を全うしようとして背筋を寒くしてくれていたけれど、最近なんだかデレてきた。  
ねえ、キスしてって。暑い。

[@1\\_dark #twremix](#)

大人の女はダメだ。若くなくちゃ。  
次はトイレから花子さんを連れてこようと思う。

暑くなってきたので、絶望を抱いて眠っている。  
思わず手放しそうになるけれど逃がしてはならない。  
その緊張が僕の背筋を凍らせる。

[@1\\_dark #twremix](#)

あまりの緊張にぐっすり眠れず、ポロリ。  
落としてしまった絶望はけれど逃げもせず僕に抱っこをねだった。  
希望に満ちた眼差しで。

おいしいの

---

おいしい話を聞かせてもらったので、わーいと喜んで、心置きなく投資した。  
友達が青い顔をして裏があるに決まってるじゃないって白状してくれたのは、  
財布が空になった後のことだった。

貴方なんか友達じゃない。

責任とってね。今日から貴方は私の愛しい旦那様。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 美酒

---

昔、このお酒をはじめて仕込んだときはこんなことになるとは思わなかった。

辛い恋を抱えきれずにお酒の底に沈めたの。

あれから幾年。

苦しい恋を沈める度にお酒はどんどん美味になる。

ああもっと。もっと美味しくできるはず。

そして私は恋をする。傷つだけの恋を。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 喪失系男子

---

見たことのある形。

彼女の形は、心の失われた部分によく似ていた。

街灯に群がる虫のようにその形に惹かれ、気がつけば喪失した何かは失われる。

彼女がくれた喪失した未来は僕に補完され、喪失を喪失した僕は、新たな喪失を憂う。

[@tensyou99](#) [@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

## 異星人

---

「この人、異星人です！」途端に振り向く人々。

そんな目でみるな。

「違いますよ」「異星人はみんなそう言うのよね」

[@chocolatesity #twremix](#)

俺には言えない。この子に異星人の印たるあれがついていたなんて。言えない。

お尻触ってたから分かりますなんて、言えない。



## 結果

---

逃げていた結果を引き止めると驚いた顔をする。

「きつとがっかりするよ」「そうかもね」

「じゃあ逃してよ」「逃さないよ」

「どうして」「それでも君が結果だから」

[@chocolatesity](#) [#twremix](#)

案の定ガッカリされた。

けれど僕は忘れない。すぐに物語を書きはじめたひたむきな瞳。

はこねこむすめ

---

まるでシュレディンガーの猫だった。

箱を開けずにいれば、あの子の死を知らずに済むのだから、開けるわけがないだろう？

[@akira398](#) [#twremix](#)

ガタ。本の頁が思い切りよく開く。

「ふざけないで！読まれてこそその本でしょう！」

君が死ぬとしても？

「そうよ！」

僕は、本の中へ。パタン。

もしも

---

もしもの話をしようか。

そう、もしも。もしも、それが完璧だったら物足りなくてもやもやする、なんてこともなかったろうね。

ずっとずっと、そう思ってた。

もしも、ももも。ああ。僕はもももの方がいい。

逃げだした、「こ」の行方、もしもよければ、僕と一緒に探さない？

[@aszkrmt](#) [#書き出し](#)

## 審査員

---

審査員を生業にしている。

2000作品以上集まったって？プリントもサイコロもお金がかかる？賞金盛りすぎて予算がない？  
一番安い方法は。

[@windcreator](#) [#twremix](#)

作品と向きあう私。

そう、私の時給は何より低く、そして物語への愛は何より気高い思い出したのだ。

いざ！

とうこう

---

朝、投稿してややしばし、気がつくと大変なことになっていた。

山のような宿題が提出されている。

うさぎ先生は困った。なんだこの提出率の良さは。

一体何が、何がそうさせたんだ。かくなる上は。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#) [#ツイリミ学園](#)

「みんなで感想を言い合う授業です」

先生はみる係。

## ヒント

---

先生がやってきて、ささやかな宿題を差し出した。

それがすべての始まりという。

ちょっと待って、それってホントにそうかしら。だってあれって [#twremix](#) だったじゃない？

それってつまり、元ツイノベがあるってことで。それってつまり。ヒント、[@1\\_dark](#)。

## カレー

---

美味しいカレーを作りたい僕らは最後の材料でつまずいた。人の心。それって。

[@Haruki\\_Non #twremix](#)

いいよ僕が。

一人が心を差し出した。美味しいカレーの出来上がり。満腹な僕らに鬼が言う。

「お前らの地獄行きがたった今決定した。あ、君は天国」

心をなくした彼がニヤリと笑う。

すべてを甘くしてしまう純桜さんを先生は呼び出しました。

「このお鍋お願い」

すると純桜さんは一瞬にして肉じゃがの甘みを完璧に決めてしまいます。

驚いたみんなは、甘くしたいものを持ってきました。

おや。先生の写真、持ってきたのは誰ですか？

[@ce1039](#) [#ツイリミ学園](#) [#twremix](#)



## 取り戻せ

---

優しさを食べていた悪魔を退治して、貴方は正しい愛を取り戻した。  
突然また愛の言葉が降り出して、「好きだよ、愛している、結婚しよう」

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

嬉しかった。

よかった、これで何の未練もなくお別れできるの。

さようなら。

## 散歩

---

落書きの犬が命を持ってしまったので、  
小屋も食事も木々も道も街も仲間の犬も人も、必要な全てを描いてあげた。  
けれど犬はくうんとないて、淋しそうに僕を見る。  
足りないものは飼い主か。僕が僕を描くと僕は、パタリ倒れて紙の中。  
仕方ない。永遠の散歩を始めようか。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 仮面

---

ネットで知り合った彼と初めて合う。

待ち合わせの場所、目印の本を持った彼を見つけた。

青くて薄い仮面。

少し予想はしていたけれど、残念だな。あれって確か年収300万以下の仮面よね。

外出するときの仮面の装着が義務付けられて、5年が経った。

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

## 神様系女子

---

あたし、神様。

ホントは一途な女の子だけど、神様だから、あたしみんなのものじゃなきゃ。

みんなの願いを叶えてあげる。

そしてあたしも色々あげる。

試練もあげる。

だってあたしは神様だから。

ね、だから。みんなあたしを崇めてね？

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

## バッドエンド

---

バッドエンドを終わらせてあげる。それが私の願いなの。

銀の杖をシャランと振った。これで貴方は何を書いてもハッピーエンド。

[@pirch\\_yui](#) [@hmoegi](#) [#狂気の魔法少女](#)

小説家は苦悩していた。

定評のあったバッドエンドが書けなくなってそれ以来いいものが書けない。

[#twremix](#)

ふるふる

---

今夜の降雪確率は80%です。

さあどうする。

ここで雪が降ってくれなきゃこのトリックは成立しない。

けれどあんまり見送るばかりじゃおかしい話になってしまう。

さあどうする。どうしよう。

[@1\\_dark #twremix](#)

賭けに出た僕は次の日、降らない雪に絶望しながら、また駄作だと嘆く。

きらきら

---

道端にキラキラした杖が落ちていた。

交番に届けたら、ちょうど落とし主が相談に来ていて、そのまま返すことができた。

願いを一つ叶えてあげるというから、秘密の願いを伝えたら、

え、ちょっと待って、今日から貴方は、[#狂気の魔法少女](#) ってどういうこと？

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 小瓶

---

「私は獏。王子様から悪夢を吸い取っているのです」瓶には黒い液体。

獏は隊長を睨む。「悪夢からも守れず何が隊長か」

私を睨む。「甘い夢さえ捧げられず何が姫か」

[@1\\_dark](#) [@kazue555](#) [@ce1039](#) [#twremix](#)

今まで叱ってくれる人などいなかった。隊長と私、きゅん。



シ

---

実は世界からはすでに一つの音が減びている。

かつてあった音の残痕にはシが居座っていて、もうずっと昔からそこにあった顔をしている。

高らかに、シを名乗る。

ここにいた子はシになった。そうシになった。

ねえ、シの音って、なんだかとても綺麗じゃない？

[@1\\_dark #twremix](#)

これはペンです

---

心の奥に眠る物語を自動的に書いてくれるペンを手に入れたらって、  
あの子は僕の前で物語を書きだした。  
ねえ、この彼って。ねえ、好きだって。  
真っ赤な顔で隠したって、ねえもう無駄だよ？

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

この方法で、今月もう3人目ゲット。  
そんなペンなどファンタジーだわ。

## 本棚

---

本棚に買った覚えのない本が並んでいた。

自分と趣味が合いそうなその本棚を揃えたのは一体誰だろう。

人の気配に誘われ隣の部屋へ向かうと一人の老婆が。可憐な彼女に恋をする。

[@1\\_dark #twremix](#)

眠る度に記憶を失くす夫。自分で揃えた本棚だということも忘れて何度も私に恋をする。

うんうんわかる

---

うんうん、そうだねわかるー。私もそう。

私たちって友達だよね。

[@chocolatesity #twremix](#)

おい、お前は一体何を聞いていたのか。

## 異世界

---

冷蔵庫を開けると、そこは異世界だった。

ほう、そうですか。

ところであなたにお尋ねしますが何故異世界だと？え？なんとなく？

いやいや、普通はいきなり異世界だなんて思うはずがありません。

犯人はあなたです。

[@1\\_dark #twremix](#)

## もう恋なんてしない

---

いいもん、もう恋なんてしないもん。

彼女はそんな歌の歌詞みたいなことを言って僕の前から姿を消した。

[@ce1039](#) [@1\\_dark](#) [#twremix](#)

数日後、知らない男と歩く彼女。

「恋じゃなくて愛じゃなきゃ」って、

今まで私結婚はしないの一生遊ぶのとか言ってたのは、あれは一体。

にゃー

---

「お仕事まだ終わらないの？」  
あたしはいつだって後回しだ。  
毎日23時周辺、あなたはとても忙しい。  
いつものように待っていたならようやくあなたが振り返る。  
お帰りなさい。ぐるぐる喉を鳴らしてあげる。  
ねえパソコンにはできないことよ。  
二次元よりも猫でしょう？

[@7gnb #twremix](#)

まようる

---

密室の謎を解くべきか、解かぬべきか、ぐるぐる考えていたら、もう一人被害者が出てしまった。

けれど名乗れば面倒だと思ってるうちに更に一人。もう一人。

[@1\\_dark #twremix](#)

「そうやってもったいぶっているうちに犯人とあなた意外全滅したと」

「はい、お陰で犯人がわかりました」



かみさまのいうとおり

---

誰にしようかな天の神様の言う通り、っと俺だった。@1\_dark #twremix

# 鍵

---

秘密の鍵とか面倒臭い。

首の鈴と一緒に鍵がチリンと揺れた。

なくしちゃダメとか鬱陶しいな。そうだ、然るべき人に持ってもらおう。

[@1\\_dark #twremix](#)

お隣さん。我が飼い主の幼馴染みに鍵を渡す。

お前が持つのにゃ。何となくお前が持ち主にゃ。

翌日、私は彼に沢山の鰹節で感謝される。

すいま

---

彼女は僕を見て戸惑っている。仕方ないか。

だって君は昨日僕の誘惑に負け、はしたなくもあんな姿やこんな姿を晒しながら、  
激しく大胆にとても可愛い姿になった。

恥ずかしそうな君を見てる。

ねえ、もう一度いいでしょう？

[@1\\_dark #twremix](#)

睡魔の僕は、また君に襲いかかる。ぐう。

## 音楽と人

---

ある音楽一家に、有志以来そこそこの音楽の才能を持った子供が生まれました。  
両親はわが子の歌のそこそこさ加減には気づいていましたが、業界の裏事情も知っています。  
あれやこれやで気づけば一流音楽家。  
一族の業界での地位はますます盤石となりました。

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

私は絵が描きたいの。ついに本音を言い放つ。  
そう、ならはやく言ってくれればよかったのに。

[@hyuugahikage](#) [@hmoegi](#) [#twremix](#)

「ほう、あなたの娘さんの」  
絵は売れた。何を描いてもどんな絵を描いても売れた。  
もう描きたくない、そう思って筆を置く。白紙でも売れた。

## 桃

---

大きな桃を買ってきたら、中から赤ん坊が飛び出した。  
育てば鬼を倒すのだろうか。それじゃあ育てるわけにはいかない。  
けれど殺すことも出来ず、鬼は赤ん坊を捨てた。

[@1\\_dark #twremix](#)

自分を捨てた親が憎い。  
親は、鬼ヶ島という所に住んでいるらしい。  
育った赤ん坊は復讐を誓う。

とりあえず

---

何を書くべきかわからない人は、ツイリミするといひ。  
気に入った元作、変えてくだけならでるでしょ。  
何個も何個もしていくうちに、きっとあなたはたどり着く。  
ああ、違うんだ。こういうものが書きたいんじゃない。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

そしたら書いて。そしたらツイリミしてあげる。

## ツイリミできなくて夏

---

どうしても [#twremix](#) をうまく出来ない。

やり方を勉強したり、いい元作を探したりしたけれど、面白くなりそうもない。

ふと思い立って、ひたすら書き続けてみた。

翌日もその翌日も。

喜ばれた、やる気が出た、下手でも書こうと思った。

気づけば一年。あら、上手に書けてない？

[@1\\_dark](#)

## タモリ

---

やがてタモリは量産される。

全ての人間がタモリに取ってかわられていく中、抗ういいともプロデューサー。

薄れゆく意識の中、抵抗の証を残したいと願う。

2102年4月から新しい「森田メカー義アワー 笑えないよ」が始まります。

[@harukaumino @1\\_dark #twremix](#)

その世界は奇妙だった。

パンツの女がおしりを振って出迎える。

にゃーにゃー。

黒猫タモリの言葉を人間たちは適当に理解して笑う。

なるほど。今度はタモリ倶楽部か。

[@nemu\\_tatibana @hyuugahikage @harukaumino @1\\_dark #twremix](#)



## 滅亡のために

---

お伽話を滅ぼすため、まずはメデタシメデタシを滅ぼすことにした。  
シンデレラは王子様に見初められないし、眠り姫は目が覚めない。  
赤ずきんは食べられたまんま。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

シンデレラは新しい恋をした。  
眠り姫はいい夢を見続けた。  
赤ずきんは狼と末永く暮らした。  
みんな幸せ。

## 黒の女王

---

黒の女王はまた一つ世界を滅ぼし満足した。

ぽいっ。

投げ捨てた世界はもう幾つ目だろか。ああ退屈。はやく動画が見たいのに。

世界をどんどん滅ぼしたのなら、最後に愛が残るはず。

私の愛する、そう。ぐふふ。

[@1\\_dark](#) [@hyuugahikage](#) [#twremix](#) [#世界もう滅ぼしたい協会](#)

## 赤ずきん

---

大きくなった赤ずきんは色気をきっちり研ぎ澄ます。  
アイツが私を好きってことはとっくの昔に知っていた。  
それはもうね、食べたいくらい。

[@ce1039 @1\\_dark #twremix](#)

赤いスカートチラリ。垣間見えるガーターベルト。  
さあ召し上がれ。貴方を虜にしてあげる。

## 夏の終わり

---

[@kusunokidan](#)

もうもうと広がる入道雲。ごろごろと雷の音がする。

女房が私の背中越しに空を見上げる。雷に敏感な君だけど、今日は特にどうかしてる。

「貴方、今までありがとう。さよなら」

飛び去った君の背中、追い掛けることも出来ず、僕らの夏は突然終わりを告げた。

[#twremix](#)

## 空

---

「空色を塗りなさい」と言われて、きょろきょろとあたりを見渡す。  
赤に青、黒なんかで塗っている子もいる。空って結構自由なのか。  
ならば僕は自分の知ってる空を描く。

[@1\\_dark #twremix](#)

先生の怪訝そうな顔。

タータンチェックにしたんだけど、僕が他の星から来たってバレてないよね？

桃色に塗っている子がいた。

純桜ちゃんだ。

これは未来のお空なのって。だから僕らその綺麗な色を「純桜色」って呼んだんだ。

[@ce1039 @1\\_dark #twremix](#) [#ツイリミ学園幼児部](#)

少し大きくなって年長くらい大きくなってわかった。

これってスキとか、キスとかそういう色だろう。

## 天才に

---

字書きの天才になるという、不思議なタグを教えて貰ったのが、どうしても書く決意ができない。

元々物書き志望なので、一生書き続けるという呪いはむしろご褒美だ。

問題はタグが [#twnovel](#) で、140字以上書けないこと。

うちのヒロイン、名前だけで80字。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## 探偵ちゃん

---

「名探偵さんたち、物語のネタになる事件に、最近あんまりあたらないねって、あー！何してんの！」

「み、みみ密室、ゆき、ゆゆ雪山山荘ぐふふ」

「やめなさいって」

「ふふふっ」

「あんたが犯人になってどうするの！」

「悪く思わないでくれ被害者も必要なんだ」

「！」

[@1\\_dark](#) [#twremix](#)

## あの公園

---

昔大好きだった公園は今はない。

そこにはビルが建っていて僕はそこで働いている。

僕の思い出を知らない同僚達。

けれどきっと彼らもどこかの公園での忘れられない思い出を持っている。

だからここにいる。だからきっとできる。

作ろう、新しい公園を。

[@chocolatesity #twremix](#)



## 奏でる

---

じゃ次はこれを音楽にしようかな。

奏でた音楽をブラボーと喜ぶ愚民ども。

何を奏でたか知りもしないでおめでたい。

僕が今日奏でたのは電話帳。それも風俗の部分だ。

こんな愚かしいことはない。

[#twremix](#) [@23novel](#)

姉さん、今日電話多くない？

何言ってるかわかんないし怖い。

## 映画のように

---

なんだか道に迷っちゃったみたいで。

扉を開けると女が一人。外には雪がちらつき始めた。

[@23novel](#) は考える。これは罠だ。部屋にいれたら密室殺人なんかが起きて犯人か被害者に。

[#twremix](#)

無理です。追いだすと、翌日報道陣が。

「こちらが雪の中A子さんを放り出した」

バッドエンド。

## 好きとか嫌いとか

---

好きか嫌いかって言われたら、困るかな。

愛してるか愛してないかと言われたって、笑っちゃう。

だって私、みんなが思っているほどアイツのこと。

[@23novel #twremix](#)

え、アイツ？どこどこ？ねえ髪の毛おかしくない？

好きじゃないならいいじゃないって、でも嫌いでもないんだもん。

## 滅ぼす準備

---

世界中の人々が、早く地球が滅びればいいのにと願うようになっている。けど。

「痛くしないで」

「苦しいのもいや」

「眠るようにが理想」

「恋人と一緒に」

「恋人いません」

「こういう子ください」

[@23novel #twremix](#)

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) は貴方に恋人紹介します！（3人まで）

作業中の会員たちに会長は声をかける。

「進んでいるようだな」

「「はっ」」

「ですが」

「なんだ」

「これは滅亡の役にたっているのでしょうか」

[@hyuugahikage @23novel #twremix](#)

会長はククッと笑う。

「皆が一番滅ぼしたいものがある」

「「？」」

「それはリア充だ」

## 猫殺事件

---

目が覚めた。

なんだ滅びていなかったのかと少しばかりがっかりする。

あれだけ沢山の犯人候補を残し「先に寝る！」と言って部屋を出たというのに。

それはつまり「こんな所で寝られるか！」というあの有名なフラグだったというのに。

[@23novel](#) [#twremix](#)

さて、今日は雪でも降らそうか。

なかなか成果を上げられない

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) 員の前に立ち会長はマイクを高らかに掲げ演説を始めた。

「できるまでやれ、死ぬ気でやれ」ザワザワ。

[@23novel #twremix](#)

そもそも俺らが滅ぼしたいのはどうしてだっけ。

ブラック企業から逃げたくて。

滅ぼしたのは何だったか。

ここまでして得られた滅びとは、果たして誰のためだったのか。

ふと頭をよぎる顔はしかし、会長自身の滅びと共に失われて、

[@hyuugahikage @23novel #twremix](#)

はっ！目を覚ます会長。

嫌な夢をみたような。

見覚えのある獏の後ろ姿が見えた。確かあの獏はあの人の。

## 涙の理由

---

あれから数年。僕らは別れた。  
でも君のことを嫌いになんかなれなくて。  
だから僕は忘れないよ。君の願いを叶えてあげる。

[@kiyoshiro\\_aoi #twremix](#)

毎日君を思い出しては泣いた。  
記憶を消す理由が今ならよく解る。  
だから。だから僕は消しやしない。  
君が泣かずに済むように。

## 雲の

---

飛行機の窓から外を眺めていると、雲の上にあの子が見えた。

目をこする。やっぱりあの子だ。

手をふろうとした時には見えなくなっていた。

[@23novel](#) [#twremix](#)

心配していたんだ。魔女の君は心の重さで飛べなくなってしまうから。

だけごめんね。夢を叶えてきっと帰って来るからね。



## 空を見れば

---

空を見上げていると、雲の底にマンホールのようなものがついていた。  
よく見るとそれはうごめく。マンホールじゃないのかも。丸い、丸い。

[@23novel](#) [#twremix](#)

(無理かもなって思うんだけどご主人様の笑った顔が見たくてさ)

3才のご主人様の願いを叶えるべく雨雲を吸いとルンバ。

ないない

---

私には心がない。

そう言って忠告しても、この美貌に彼らは集まりやがて自ら去っていく。

どうして愛してくれないのって。

バカね。愛する心がないと前から言ってるじゃない。

別にあなたの給料や顔のせいじゃないわ。

(面倒くさいから) そういうことにしておいて？

[@23novel](#) [#twremix](#)

## 召喚獣

---

召喚獣を指輪に閉じ込める。

可哀想だけど、仕方がない。

体を魔力で小さくして小さくして閉じ込める。

召喚獣が増えるにつれ、狭くなる指輪。

気をつけて入れないと。気をつけて、気をつけて。あーっ、やっちゃった。

まさかの大連鎖で全ての召喚獣が消えた。

[@23novel](#) [#twremix](#)

## 対獏

---

「それは私の夢です」

「証拠でもあるの？」

「それは」

「言いがかりはやめて欲しいわね」

[@23novel](#)から、獏から夢を守らなければ。

私は夢のダミーを作る。眠りで誘うと獏はノコノコ現れた。

やだ体が動かない。そうだ私眠って。

[#twremix](#)

「今日は二個も持ってきたの。偉いわねご苦労様」

## 塔

---

ぐらつく自信に塔がぐらり。  
零れた涙に気づいた誰かが見上げて私に何かを言った。  
けれども声は届かない。  
それは悪口？それとも。

[@pirch\\_yui #twremix](#)

目を凝らす。地上にあいた見覚えのある形は多分私。  
君の場所はどこにある。  
おいでおいでと手を降る貴方を私はきっと知っている。

どうしてこうなったんだろう。女の子が言う。  
どうしてだろう。男の子が言う。  
それはであったから。それはつまり。「落ちたから」

[@Haruki\\_Non @sarukotonagara @hyuugahikage @pirch\\_yui #twremix](#)

きっとあの時、落ちたのは恋。

## LUNASEA

---

「何いってんの。辛いに決まってるじゃない。どうして楽しいってなるわけ？」  
彼女の友達が口を挟む。虚しいって聞き取ってくれた人がいた。  
「壊れそうなほど狂いそうなほどだよ？」ああやっぱりLuna Sea。  
「TrueBlue、いいよね」「ね」

[@kusagamirin](#) [#twremix](#)

## 夢

---

夢が少ないと、物語は小さく短くなりました。

どんどん夢は少なくなつてついには枯渇。だから、ね。

遅刻したのはまあそういうことで、自分で夢をみていたから。

自給自足の物語を、さ、召し上がれ。 [@23novel](#) [#twremix](#)

サケ

---

「今日の晩ごはんは？」「サケの塩焼きよ」

「昨日はサケの塩焼きで、おとついはサケの塩焼きだったね」 「明日はサケの塩焼きよ」

「あのさ…」 「塩振ってるだけ感謝して？」

「俺が何かしたんだよね？」 「さあ？」

「すみませんでした！」

[@hyuugahikage](#) [@23novel](#) [#twremix](#)



## シンプルデザイン

---

デザインがシンプルすぎると建築士にいうと、もっと複雑なデザインにしときますと頷いた。今日その新居へはじめて向かう。

[@23novel #twremix](#)

部屋へ入る。それほどこったデザインでもないけど。

えーと何これたどり着かない。

気がつくところは迷路。僕は未だ、居間に辿りつけない。

とうとう最下層に辿り着いた。ここには一体どんなボスが。

[@23novel @hyuugahikage #twremix](#)

「あらあなたお帰りなさいってあなたどなた？」

そこには写真でしか見たことのない曾祖母の姿。

事情を話すと「もうホント困った人でゴメンナサイ」ふわり笑って曾祖母は消えた。

すきすき

---

好きだ好きだと、コイツ頭がおかしいんじゃないかと疑うくらい熱心に口説かれ続け、私の何がいいか、どこが素晴らしいかを延々聞かされたなら、心が動いた。

つまり熱意に負けたという話なのだが、私を好きな彼と私を好きになった私二人で、毎日なんだかとても幸せ

。

[@23novel](#) [#twremix](#)

## 絵本

---

「この本おかしいって言われた」

妻のために書きかえた本だ。

涙する娘にどう説明しようか考えていたらチャイムが鳴る。

[@kusunokidan #twremix](#)

「やる！」 「いないもん」

男の子がノートの切れ端を娘に押し付けている。

そこには彼が描いたであろう正しいあの本のラストが。ほほう。

## 明かりを消して

---

電気をつけていなくても、君がいるだけで世界はとても明るいよ。

そう言って君は灯りを消した。闇に浮かぶあたしを君はそっと、そっと触れることはできないのだけれど。 [@23novel](#) [#twremix](#)

一緒に住んで3年。彼は未だ私に触れることすらできない。

人間と幽霊と恋愛は色々難しい。

## 目覚め

---

扉を開けて王様に会いに行く。

世界はもうすぐ終わりを迎えようとしているらしい。

王様は言った。魔王を倒せと。そうだ、魔王だ。魔王の名は。

[@23novel #twremix](#)

ジリリリリ。目が覚めた。時計の真ん中には、「贈 [#世界もう滅ぼしたい協会](#)」

おかん、これどっから貰ってきた。

## 美味しいおかずの作り方

---

空から豚肉が降ってきた。ピーマン、玉ねぎ、人参、ケチャップ、酢、その他もろもろ。

ああ、これは酢豚の。ん？パイナップル？

[@23novel #twremix](#)

俺は空を睨みつける。

パイナップルはいらんだろう。

震える空。

これが俗にいう、天地戦争の始まりである。

## 金魚

---

路地裏に金魚が特売で売っていた。

透明な水槽いっぱい、赤や黒の帯を巻いた女たち。

暗い顔したお兄さんが「すくい放題ですよ？」と下卑た顔で嗤う。

女たちが一斉に僕の方を振り返った。

媚びた視線。

選ぶこともできずに目を伏せたままつかんだ白い手は冷たかった。

[@23novel](#) [#twremix](#)

## 踊るよ踊るよ

---

とある世界の人々は、魔女の呪いで、歌って踊らなければ動けなくなりました。

っていうけれど。それって何か問題かしら。

勇者も一緒に踊りましょう。魔女も、みんなもさあ手をとって。

呪いだなんて信じなければ、そんなの全然怖くない。

笑って笑って、ね、しあわせ。

[@23novel](#) [#twremix](#)



## 旅行

---

休みがとれたので、旅行に行きたい。

どこかにはいきたいが、遠くまで行くのは面倒くさい。

ネットや旅行ガイドを調べた結果、本の中に行くことにした。

めくるめくる、めくるめく展開。おわっ。

[@23novel](#) [#twremix](#)

白紙？未完の本の中で続きを書く、職業小説家の僕。

## 先生

---

間違えることなく夏は終わる。

そして、間違えることなく先生はいなくなった。

今日から新しい学期。新しい先生。

チャイムが鳴る。起立。礼、もせずに私は立ち尽くす。

視線が合う。私、やっぱりこの教科が好き。

[@ce1039](#) [@23novel](#) [#twremix](#)

先生が見えない。ざわつく教室の中、黒板にかかれる文字。

「先生の姿が見える正直者は受験に失敗しないと言われています」

ざわざわ。

[@hikch](#) [@ce1039](#) [@23novel](#) [#twremix](#)

「あ、イケメン！」誰かが言った。

「う、うん素敵だよ」透明でもイケメン。

[#ツイリミ学園](#)

大切だった指輪を、泉に捨てた。

[@23novel](#) [#twremix](#)

「貴方が落としたのは金の指輪ですか？」 「違います」

「銀の指輪ですか」 「違います」

「この血まみれの指輪ですか？」 「そうですけど、通報でもするつもりですか？」

「正直者には全てあげましょう」

あの。証拠品処分させて？

2分

---

2分で、物語に魔法をかけると心に決めた。

元作に耳をすませてば、どうして欲しいのかがわかる。

望む姿に、書き直す。私のカラーなんてものも織り交ぜたりして。

新しい意味を持たせたい。

[@23novel](#)

「[#twremix](#)、できた？」 「できたけど、ああ、ネタかぶり！」

## お腹の子

---

「その子本当に僕の子？」

「ひどい」

「イヤだってさ」

「父親が誰かなんて些細なことなのにそんなこと言うなんて」

「え、いやあの」

「そんなに知りたいなら教えてあげてもいいけれど、そしたらあのバック買ってくれる？」

「え、いやあの」

「貴方の友達の」

え？ [@23novel](#) [#twremix](#)

## 正しい入力

---

「入力したお名前が正しくありません」って言われてもう何度も書き直してる。  
漢字で平仮名でカタカナで書き直す自分の名前。  
何度やっても間違ってます。もういやと投げ出そうとすると、違いますお相手の名前ですって。  
無理難題はちょっとって、ちょっとって。

[@23novel](#) [#twremix](#)

## 滅亡エッグ

---

黒い十字架の卵を僕は、あける。

卵の中にはキラキラ光る流れ星。こんなはずじゃなかった。  
卵の中には滅亡が入っているらしいのに。十字架が語りだす。  
「君がいるからこうなのさ。さあ、願って」  
僕がいるから滅びぬ世界。ねえ、君だったらどうする？

[@tensyou99](#) [#世界もう滅ぼしたい協会](#)

影が忍び寄ってきて、すっぱり体を覆ってしまった。  
私は黒い卵の中にいる。十字から見える世界。  
私一人いなくとも揺るぎなく回る世界に未練なんかない。  
いや、未練がないのは世界の方だ。  
卵の中で私は絶望を育てる。  
ほら、可愛い。

[@23novel](#) [#twremix](#) [#世界もう滅ぼしたい協会](#)

## 人との恋

---

今日も今日とて暑いので、好きな人に涼やかな風を贈ることにした。  
恥ずかしいから視線が合わないよう風を送り、思いを伝える使者にする。  
なのにあなたは、「われわれはうちゅうじんだ」ってねえ、全然意味が分からない。  
人間と扇風機の恋ってホントままならない。

[@23novel](#) [#twremix](#)



## 扉

---

クーラーをつけるのは心苦しいので、過去の扉を少し開けて、部屋に涼しい風を通してている。

「闇の力を手に入れた！ククッ」「汚い大人にはなりたくはない」「やっと本気を出せる 때가来たようだ」[@23novel](#) [#twremix](#)

涼しいどころじゃない、寒い扉を開けてしまったようだ。

どちら？

---

「あなたが落としたのは、あつたか〜いツイノベネタですか？それとも、つめた〜いツイノベネタですか？」（どう答えれば両取りなんだっけそうだ正直に）

「どっち？」「いえどちらも違います」「ってことは、あのBLネタがあなた…」  
そんな顔で見んな。

[@23novel](#) [#twremix](#)

わかった

---

「わかった？」 「うんうん、わかるわかる～」

「ホント？よかった。説明って難しいよね」 「うんうん、わかるわかる～」

「[@23novel](#)って男だよね」 「うんうん、わかるわかる～」

「[#twremix](#)」 「うんうん、わかるわかる～」

「僕らお似合いだよね」 「いや、それは違う」

## 流

---

好きって言ったら、軽く流された。

ひどい、そんなの私が望んだ結果じゃない。

けれど流し続ける彼に、私は我慢ができなくなった。

違う、そんなの間違っている。

[@23novel](#) [#twremix](#)

素麺は、私の好きなのは流し素麺じゃなくって素麺流し。

上からなんて流さないで、グルグル回して。

## クローズド・サークル

---

もっと開かれたクローズド・サークルを。

なんて矛盾、なんて不思議。

挑まれたからにはそれを実現させてみたい。

[@nemu\\_tatibana](#) [@23novel](#) [#ツイリミ学園](#)

回る、踊る、回る僕ら。二重の輪を作りオクラホマミキサー。

閉めだされた君がサークルの外から覗かせる殺意に興奮する。

# 花

---

お話して。何の話？赤い花の話。

[@hyuugahikage](#)

家中の本に飽きた娘に私は誰かに聞いた物語を記憶を辿りながら聞かせる。

もしかしたならこの子も誰かに聞かせることもあるのかしら。

繋がる未来。

[#twremix](#)

お話して。何の話？青い花の話。

例え花の色が変わったとしても。繋がる。

## 魚拓

---

「魚拓あるんだけど」波紋を呼んだ初の非公開文の魚拓は、  
魚拓だということにみなが目にした内容と同じだった。

「非公開も何も最初からこの内容だったんだが」

[@hyuugahikage #twremix](#)

名無しさんの真偽はともかく、それ以降名無しさんの書き込みはない。

(これは魚拓です)

## 幸せの本

---

幸せになれる本だよ。

通りすがりの神さまから買った本を期待せずに開く。

「まずは練習。この先の曲がり角を①右に②左に曲がる」

お、ゲームブック。

[@23novel](#) [#twremix](#)

進めていく。

①求婚する②一人で生きる決意をする。

大きな選択。

けれど僕の答えは決まってる。そして君の答えは？



## タクシー

---

たくさん飲んで酔ったので、タクシーで帰ることにした。気持ち悪くてなかなか前に進まない。ああ苦しい。辛いよう。なんて考えてたら運転手が突然唄い出した。あるこーる、あるこーる、飲み過ぎ注意ー。うんわかってはいるんだ。 [@kiyoshiro\\_aoi](#) [@23novel](#) [#twremix](#)

制服姿の人たちが一斉に振り返る。だれもかれもネクタイに「予約」ってあーもう誰かいないの？困っていると後ろから声がする。よかった。ちょうど戻ってきたみたい。 [@23novel](#) [#twremix](#) 私は走る。タクシーと走る。「くじけるな！熱くなれ！」今の私に修造タクシーは辛すぎる。

続きは

---

昨夜はオチが気になり眠れなかった。

帰り道、座っている女性はいないが今夜は座っている男声の頭にツイノベが。

魅力的な物語のオチは髪の中へ。

読みたい。

「すみません髪の中」「違う！」「？」「ズラじゃない！」

頭を押さえ逃げ出す男。僕は今日も眠れない。

[@23novel](#) [#twremix](#)

## ばかのべる

---

バカノベってさーやっぱある程度個人の資質が必要じゃん。

やっぱある程度バカじゃないとダメなんじゃないかって思ったりもするよ。

あ、書いたんだ。読む読む！

[@23novel](#) [#twremix](#)

私のツイノベを読む友達がさっきから笑い転げている。

嬉しいような。悲しいような。

## 穴

---

気づいたら部屋の壁に穴が開いていて声が聞こえてきた。

恐る恐る覗くとカップルがいちゃついている。

さすがにこれ以上はと穴を埋めると翌日チャイムが。

[@hyuugahikage #twremix](#)

「見てくれないから別れちゃった。責任とって」

穴の向こうに視線を感じながら僕は彼女に口づける。

## スイッチ

---

やる気スイッチをオンにしたから、これでいけると思った。

けれどどうしてだろう。押しても押しても人気ベストセラー作家になれない。

押し方が悪いのかと思って試行錯誤していたら、「ところで書き上がった原稿は？」と聞かれた

。

いやそれはこれから。 [@23novel](#) [#twremix](#)

## 大切なあなた

---

大切なものを探し求め、世界中をくまなく旅している。

けれどどこを探しても見つからない。

一緒に探してあげようか？

何度目かの帰還時、あの子が言った。

なんか僕、君こそ大切なものな気がしてきたよというと殴られた。

大切なもの一つで満足してるなんてあんたバカ？

[@23novel](#) [#twremix](#)

## 投稿できない

---

[#twremix](#)を投稿しようとした瞬間、同じようなツイリミが投稿された。

まただ。最近全然投稿できない。7さんにもまとめてもらえない。

許せない。

背後を振り返ると、誰もい、た。

そこには。ね、誰がいたと思う？そして私が投稿できてるってことはどういうことかしらね？

[@23novel](#)

## 完全犯罪

---

人を殺す夢を配っている。

こんなに大変なことなんだって、こんなに辛い思いをするものなんだって。

わかって欲しい、そう思って。

僕のこの小さな勇気でたくさんの命が救われますようにって。

[@23novel](#) [#twremix](#)

なるほどこんな方法が。完全犯罪の夢にほくそえむ未来の犯人たち。



## あなたの子よ

---

昔の彼女が突然やってきて、貴方の子よと突然告げた。

突然の真実に驚いていても仕方ない。結婚しよう。婚姻届を出した途端に子供が消えた。

[@23novel](#) [#twremix](#)

彼と結婚するためにタイムマシーンを発明、未来から知らない女が産んだ彼の子を連れてきたの。  
あなたの子よ。嘘じゃない。

## 恋

---

行き場のないその恋は、僕の掌で震えていた。

僕と目があえばすっとふせ、淋しそうにきゅんとなく。

可愛い。

君がどこの誰でも構わないよ。

恋に恋する僕はしあわせに、しあわせに、しあわせに、生涯独身で暮らしました。

[@23novel](#) [#twremix](#)

## 猫あれ

---

猫アレルギーの人間に追い払われる猫のため、あらゆる猫アレルギー持ちに神様は印をつけた。  
これでもう人に毛嫌いされることもない。仲良くするのだぞ。

[@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

「にゃー」俺の周りにはいつも猫が集まってくる。  
逃げ惑う猫アレルギーの俺を嬉しそうに追う猫達。

## 盆

---

「どうしてお盆はお休みするの?」「だってお盆だぞ?」「だからどうして?」「帰ってこなかった覆水を探しに行くのさ」「はい?」「覆水盆にかえらずって言うだろ」「言うけどいやそういうことではなくどこから突っ込めばよいのやら」 [@23novel #twremix](#)

僕は猫が好きだ。本当さ。もちろん子猫は最高だけど、肉食系猫がたまらないよね。キラキラの爪、喰うか喰われるかの駆け引き。ああ、なんて情熱的な瞳で僕を見つめるんだ。愛している  
r [@23novel](#) [#twremix](#) [#twMOUSEnovel](#) 待てない君も可愛いよ。告白の続きは胃袋の中で。

## 本当にあった怖い話

---

「本当にあった怖い話」を家族で見た。お母さんもお父さんも真剣な表情だが、おばあちゃんはあまりみない。みないの？と尋ねると、「私はもう隠居の身だから。ほら、邪魔をしない。そっちに行ってようかね」えー、私だって人間が何を怖がるのかお勉強したいのに。 [@23novel](#)

[#twremix](#)

## ファスナー

---

恋人の背中にファスナーがついていた。  
寝ている間に恐る恐る開けると中には何も見えない。空っぽだ。  
可哀想になった僕は中に入り内側からファスナーをしめた。

[@hyuugahikage #twremix](#)

恋人の背中のファスナーを開けると中には男。  
そいつのファスナーを開けると空っぽで俺は、

0になるタイマーは沈黙を保つ。「爆発しなかったね」「うん」「つまり私達ってリア充じゃなかった」「え?」「爆発したなら一緒にいられたのにね」「ええっ?」「さようなら」  
」 [@hyuugahikage @kiyoshiro\\_aoi #twremix](#) どうやら僕は体よく振られたらしい。

## 古恋屋

---

古恋屋に恋を買いに行く。ああ、あった。思ったより高値のその恋を私は胸に抱く。@ce1039 #twremix つまらない日常が綴られていた。なんともない恋人同士の日常に突然訪れた別れ。彼の戸惑いが嘆きが記されている。ごめんね。幸せを持て余して不安になった。ただそれだけだったの。



海で拾った貝殻が、ずっと波の音を奏でている。そういうことになっていた。そうしなければ本当の波の音を失くしてしまった科学者が殺されるから。みんな知っていた。今は亡き海が波がそんな音ではないことを。けど言わない。もうこれ以上何も失いたくはなかった。 [@23novel](#)  
[#twremix](#)

## 世界の優しさ

---

「ちょっとあんた」独り歩く僕を呼び止める見知らぬ人。「こんな時間に歩いているの？大変ねこれあげるわ」団子だった。おいしい。世界は優しくなんか無い。僕がその帯をそっと外すと、犬、猿、キジがやってきて団子をねだり気がつくとな僕は鬼の前に。 [@chocolatesity #twremix](#)

ほよほよ

---

空にほよほよ浮くクラゲが発生した。見上げればクラゲの天井。僕ら粛々と身支度を整える。クラゲの隙間にはしごを掛けて、上へ、上へ。[@hyuugahikage #twremix](#) 何度目のほよほよだろう。何度目の滅亡だろう。そうしてまたここで、滅びるために始めようか。

## 進撃

---

皮膚が切れた。大方小さなおじさんが遊んでいるのだろう。僕はうなじにキン消しを埋め込んだ。さあ、こい！[@kusunokidan](#) 「中に人がいた」「まさかそんな」「つまり」「」「本物！！！」」」[#twremix](#) それ以来、おじさんたちはこないが最近我が家の一角に壁が築かれている。

前へ

---

たまるゴミ箱を気にしない。気になったのなら捨てればいい。今日も世界は明るく前向き。振り返らずに。前へ、前へ、前へ、前へ。 [#twremix](#) [@Gomapp26](#) 毎日がきらきらと輝いている。眩しすぎて見えない未来。けれど、それでも、全員、笑顔。前へ、前へ、前へ、前へ。

## プレゼント

---

昔の彼氏からプレゼントが届いた。酷い別れ方をしからきつとロクな中身じゃない。開けるのが嫌で未来の私に転送。@23novel #twremix 過去から届いたプレゼントには見覚えがあった。それは彼も同じらしい。あれこれあって復縁した彼と箱の中から指輪を取り出す。遠回りしたねと笑う。

## 瞳を閉じて

---

目を閉じると、そこは夢の国だった。目を閉じている間だけは夢の国にいられますよ。そう言われたので閉じている。楽しそうな声。不意に目を開けると現実で。僕は夢の国にいつでもいける。けれどまだ一度も見たことがない。 [@23novel](#) [#twremix](#)

## 彼女できない

---

「お前、夏休み中に彼女を作るって言ってたのどうなった？」「これからだよ」「これからってもう八月も終わりだぞ」「実はいにしえの凄い書物見つけたんだ。ここに女の子が砂糖とスパイスと素敵な何かでできてるって解が」「彼女になるかは別だよな」「！」@kusunokidan #twremix



## 神龍

---

神龍を呼び出した。「お前の願いを一つだけ叶えてやろう」「あのね、今日で夏休みが終わりなんだけどまだ彼女ができていないんだ」「それで?」「それで、彼女できるまで夏休み終わらせないで欲しい!」「つまり永遠の夏休みか」「え?」「え?」[#twremix @kiyoshiro\\_aoi](#)

## 魔法少女

---

魔法少女になることだけが目標だった。  
そのために恋をしてそのために恋を壊す。  
けれども最近、恋をするのが難しい。  
ため息をつく私に貴方は、僕でよければなんて笑う。  
私は貴方に何度も恋してそして何度も恋を壊す。  
赤く染まる掌。  
ねえ、どうしてそんなに優しいの？

[#twnovel](#) [#狂気の魔法少女](#)

## #半滅亡祭

---

どうせまた嘘さ。裏切られるだけだよ。

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) が何度世界を滅ぼす素振りをしたって僕は騙されない。

### #半滅亡祭

そんな言葉は言っこなしよ。あたしを信じて。

あなたの滅びの物語、いくつもいくつも聞かせてよ。

その絶望を預かってあげる。

ねえ、探そう。おしまいの始まりを。

ついのべかついのべかで揉めるなんて、あんたたちってホントバカ。

どちらにしたって高性能なツイノベBOTは見つけるわ。

揃いの星に喜んじゃって、あんたたちってホントバカ。

最期の勲章。

うん。

ホント、バカよ。

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) [#半滅亡祭](#) [@hyuugahikage](#) [#twremix](#)

いらっしゃいませ。

メニューをどうぞ。意外そうな顔ですね。

選べるに決っているじゃないですか。ただいまの時間ですと、ランチがお得ですよ？。

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) [#半滅亡祭](#)

隕石コース、温暖化コース、宇宙人侵略コース。

980円で色々選べるもんだな。じゃあ、宇宙人にドリンクつけて。

失業した。

世のため人のためそう思って志した道なのに、日々の暮らしを守ることで精一杯。

だから辞めた。

けれどここは違う。純粹に世のため人のために情熱を傾けられる。まっすぐに生きたい貴方。

[#世界もう滅ぼしたい協会](#) が貴方を待ってます。

[@1\\_dark](#) [#twremix](#) [#半滅亡祭](#)

#小柄な小学生なら一人くらいは入りそうな大きさのトランク

---

[#小柄な小学生なら一人くらいは入りそうな大きさのトランク](#) を運ぶ。

トランクの中には帰れない。私にはもう入れない。

さあ行こう。

この新しいトランクの中を。

トランクの外はトランクの中。

小柄な中学生なら一人くらいは入りそうな大きさのトランクの旅は、  
まだ始まったばかりだ。

[#twnovel](#)

トランクからでてきた小学生は、そのまま僕と暮らした。

トランクのことなどまるで忘れ、すくすく育ち、友だちができ、恋に落ち、やがて結婚。

そしてある日、行方がわからなくなった。

[@nemu\\_tatibana](#) [#twremix](#)

さて、ここにトランクがある。

あの子の夫に、僕は昔話を始める。

## #春の欠落

---

暖かくなったし桜も咲いた。  
雪も溶けたしコートもとっくにクリーニング。  
春は確かにやってきた。

### [#春の欠落](#)

暖かくなったねと独り言。  
お花見なんて誰といこう。  
雪が何より好きな君は、コートがとても似合ってた。  
春は確かにやってきた。  
けれども春は君の形に繰り抜かれて、平年以上の寒さです。

## 猫の杖

---

猫の杖を一振り、さあ案内しておくれ。案内を、おや？

### #猫の杖

振り上げた杖の先じゃれつく子猫たちは、にゃーにゃーにゃー。

釣りあげた猫達はやがて僕の腕を伝い肩へ頭へ。

### #twonovel

暗闇を進んでいくと、やがて猫たちは三方へとかけ出した。

それぞれの前に三つの扉。

どの扉から開こうか。①

一つ目の扉。

開いた先には月の庭。

人の姿をとっていながら、猫耳尻尾に猫なで声で話す言葉は猫言葉。

さあ急いで。

導き猫は僕に言う。

素敵な月夜に猫会議。今の流行りは人のお茶会。だからお前が必要なのにゃ。

お茶を淹れる。

にゃあにゃあ会議。おいしいお茶を召し上げれ。

### #twonovel #猫の杖②

二つ目の扉。

開いた先には青い空。

ここは猫しかいない世界。猫はタタッと僕に近づきそれからそっと距離をとる。

鋭い視線。あちらこちら。

老いた猫が僕に言う。

「なぜ滅んだ」

睨みながらも頭を寄せる。撫でるとのどがゴロゴロ鳴った。

それが皮切り。

撫でられる為の猫の波。

### #twonovel #猫の杖③

三つ目の扉。開いた先にはいつもの街並み。

チリン。鈴の音。

けれどもそこに猫はいない。どこにもいない。一匹もいない。

どうやらここは、猫の消えた猫の世界。それなのに。

### #twonovel #猫の杖④

撫でられる猫姿跡。日向で眠る猫姿跡。

どこへ行っても、何を見ても、僕は猫を思い出す。

全ての扉を覗いた僕に、にゃーにゃーにゃーと子猫がなつく。

ねえ、どの扉が愛せそう？

僕は、そう僕は。

[#twnovel](#) [#猫の杖](#)⑤

どの扉だって愛せない。

僕が愛せる猫の世界は君たちという世界だけ。

一緒に帰ろう。撫でてあげる。

けれど子猫は首を振る。

そう、解ってる。もう君たちはいないのだ。

寂しかった。いなくなった君たち。

けれども別の猫を飼うなどできなくて。

僕は思わず杖を振る。

甘えたんだ。甘やかすフリで僕は猫に甘えたんだ。

[#twnovel](#) [#猫の杖](#)⑥

杖の導く猫の世界で見つけた物は僕の気持ち。

ありがとう。

僕はやっぱり猫が好き。

だから、次の猫を飼うよ？

チリン。

完

## 10分ツイノベ

---

「甘」

甘は困っていた。

どうしてこんなに中途半端なんだろう。

目になれば見ることができたし、日なら時の支配者の仲間入りだ。

どうして僕は甘なんだろう。一つしかない意味に縛られるなんて。

[#10MTWN](#)

絶望する甘を慰める声。

大丈夫。よく見ろ。お前はまるで牛のようだ。

そうか僕は歩いていける。

「機械」

やだ30分遅れてるじゃない！

機械花の開花時間が遅れた。機械植物師の君は僕にピシャリと怒る。

単三電池変えてきて！ハイ、なんて頷くけれど僕は知ってる。

単三電池は切れてない。切れているのは。

[#10MTWN](#)

大急ぎで塔を登る。

いけないいけない。

切れかけているのは単一電池。太陽の電池。



## #雨傘の行方

---

「傘、返して？」そんなこと言ったのは恋をやり直したかったからじゃない。

「ごめんなくしたみたいで」きっとそう答えると思っていた。

私、見たの。あの子が傘をさしてるところ。

破れた所に貴方が貼った絆創膏が知らせてくれた。

もうあの傘は戻らない。もう、戻らないの。

[#twnovel](#) [#雨傘の行方](#)

私、雨傘。雨降らす傘。

貴方が私を必要ならば、すぐにふわりと飛んでいく。

例えば終えたい本がある時、外での行事を避けたい時など。

私を呼んで。降らせてあげる。

私を理由にするといい。

[#twnovel](#)

ふわり、お招き有難う。

貴方のために降らせてあげる。涙を隠せばいいかしら？

[#雨傘の行方](#)

## #夏空の雪

---

かき氷食べた。キーンと冷たくて。

僕ら二人笑った。笑った。ふざけあって、勢い余って、空に舞うかき氷はまるで、そうまるで。

[#夏空の雪](#) [#twnovel](#)

あれから何年経ただろう。

あの日のように君の頭上、夏空から降る雪はそう、ライスシャワー。

僕は君に投げつける。畜生、幸せになっちまえ。

## #満月奇跡

---

月が綺麗ですね、なんて言葉を用意して待っていたのに生憎の雨空。

月が隠れた暗い空ではスーパームーンって何って感じ。

どうしようか。何を言おうか。

戸惑う僕にあの子は言った。「次は一緒にみたいよね」

## [#満月奇跡](#)

君をととても近くに感じた。目に見えずとも側にいるあの月のように。

## [#twnovel](#)

## #twnovel納涼祭

---

彼とはじめてあったのはお化け屋敷だった。

曲がり角でぶつかったバイトの彼に驚いて腰をぬかしていたら優しく手を差し伸べてくれたの。きゅん。

それ以来ずっと一緒。

恥ずかしがり屋の彼はなかなか視線を合わせてくれないけれど、ずっと側にいるわ。

うらめしや。すき。 [#twnovel納涼祭](#)

[#twnovel納涼祭](#) で見つけた [#twnovel](#) にふぁぼRTした。

タグ一番の怖さだと思ったのに他の人はふぁぼらない。

不思議に思っていたら、「ふぁぼありがとうございます」と作者さんからリプが。

「ところでどうしてふぁぼれたんですか？ツイートせずに消したのに」

チリン、シロが帰ってきた。窓をあけるとするり、身を滑り込ませるその猫を抱きしめる。

怖かった。最近無言電話が多いのだ。翌日もまた鳴り響くベル。

無言電話の音に紛れてチリン、シロが帰ってきた。

窓をあけるとするり、身を滑り込ませる、グッタリしたシロを鳴らすこの男は。

[#twnovel納涼祭](#)

怖い話なんかしてたら寄ってくるよっていうけれど、[#twnovel納涼祭](#) ってそういうお祭りなもの。

怖い話をしなくちゃね。

タグを付けてね、そしたらまとめてもらえるの。

一気に読んだらそりゃ怖いわよ。ほら見てみる？このトゥギャなんだけど。

[#twnovel](#)

そこには私の物語しかなかった。

## #twnovel妖都

---

知ってる？ ツイッターには時々、この世界じゃないところからのツイートが混ざっていることがあるんだって。そのツイートを見つけてしまったらふぁぼかRTしないと嫌なことが起こるみたい。それがどういうツイートかって？ わからないの？ [#twnovel妖都](#) 今、貴方が読んでるじゃない。

[#twnovel妖都](#) ねえ、知ってる？ この妖都を守る正義の味方がいることを。それは可愛い女の子。色仕掛けで守るんだらうってそんなわけがないでしょう。その子達ってとにかく数が多いのよ。いかなる存在も変身は見守らなければならないのが掟。ほら、今も変身は続いている。この街は今日も平和よ。

王であった男は贅沢の限りを尽くし城を追われた。閉め出された外の世界では長く生きられるはずもない。息絶えた男はやがて魂となって城門を叩く。開かれぬ扉。男は考える。呼びかけ方が悪いのじゃな。「よ、ばい。よばい！」博多っ子達が守る城門の外から今日よばいの声がする。  
。[#twnovel妖都](#)